

吉永鐵太郎著

改正
刑
事
訴
訟
法
釋
義

附監獄法及施行規則

大阪 田中榮堂發行

明治
41 年 12
月 交

特 14
183

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治四十年四月二十三日

内閣總理大臣	陸軍大臣	農商務大臣	海軍大臣	大藏大臣	逓信大臣	司法大臣	内務大臣	文部大臣	外務大臣
西園寺公望	寺正毅	松岡康毅	齋藤實毅	阪谷芳三郎	山縣伊三郎	松田正三郎	原野伸	牧野伸	林董

法律第四十五號

刑法別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

朕刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

内閣總理大臣	侯爵	西園寺公望
陸軍大臣	子爵	寺內正毅
農商務大臣	松岡	康毅
海軍大臣	男爵	齋藤實
大藏大臣	松田	正久
內務大臣	原野	伸敬
文部大臣	男爵	牧野顯
外務大臣	伯爵	林野
司法大臣	男爵	千家尊福
遞信大臣	子爵	堀田正養

勅令第六十三號
刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

緒言

人世ニ處スル禮能ク行ハルレハ心清ク行正シ廉潔謹行曷ゾ刑罰法ノ要アラン哉是ニ於テ乎聖人禮ヲ教フルコトヲ重ンズ而シテ今ノ世亦禮アリト雖モ今ノ禮ハ形式ノミ古ノ禮ハ敬ノ用ナリ故ニ禮ヲ以テ世ヲ治メ刑ナルモノ無シ是レ禮アレハ物自ラ融和シテ上下辭讓行ハル今ノ世ノ禮内ニ敬ナケレハ番ニ虛禮ナルノミナラス却テ之ヲ以テ人ヲ犯スノ用ト爲ス者アリ嗚呼澆季ノ世人情輕薄ニ趨ク殆ト底止スル所ヲ知ラス刑罰法ノ要アル當ニ然ル可キ處ナリ言フ者アリ曰ク文明ノ世人智進歩道能ク行ハル刑ヲ輕ンズ可シト是何タル謬見ナルヤ人智ノ進歩ハ或方面ニ於テハ巧智ト謂フヘキモ奸智ノ之ニ伴フハ日ニ益甚シ此ノ社會ニ在テハ道德地ヲ拂フテ去リ生存競争ノ結果精神ノ腐敗ス今日ヨリ甚シキハ莫シ刑法ニ刑罰ノ條項益々緻密ヲ加ヘ死刑ノ廢ス可カラサルモ亦止ムヲ得サルナリ刑ヲ輕クス可シト論スル者

ノ言行果シテ如何予ハ此人ニ向テ言ハント欲ス實踐躬行自ラ正フシテ而シテ後人ヲ正フセヨト
 刑法改正セラレタリ死刑廢止論者アリシモ僅ニ一二ノ人ニ止マリ人道ニ對ス刑罰ノ重クス可キヲ説ク者全會一致ヲ以テ可決ス頗ル人情輕薄ヲ嘆スルゴトヲ表白セリ予此改正法ヲ讀ミ當局ニ於テ自ラ悟ル者アル所ヲ知ルヲ得タリ

本書ニ刑事訴訟法ヲ合セタルモノハ今回同法中改正ノ條項多々アリシヲ以テ刑法ト對比應照シテ讀ムノ必要ヲモ感ジタレハナリ
 刑法施行法ハ參酌引例スル所ノ法律多キニ涉リ其意義ノ在ル所モ亦深密ナレハ淺學ノ者讀者ニ誤ヲ傳フルヲ恐レ單ニ其要ヲ述ヘ詳細ニ涉ルヲ用ヒサレハ讀者其之ヲ諒セヨ

明治四十有一年五月

著者誌

改正刑法目次

第一編	總則	一
第一章	刑法例	一
第二章	刑	一五
第三章	期間計算	三一
第四章	刑ノ執行猶豫	三一
第五章	假出獄	三四
第六章	時獄	三八
第七章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	四二
第八章	未遂罪	四七
第九章	併合罪	六一
第十章	累犯	六四
第十一章	共犯	七五
第十二章	酌量減輕	七九
第十三章	酌量減輕	八六
第十四章	加減例	八八
第二編	罪	九二

第一章	皇室ニ對スル罪	九二
第二章	内亂ニ關スル罪	九五
第三章	外患ニ關スル罪	一〇一
第四章	國交ニ關スル罪	一〇七
第五章	公務ノ執行ヲ妨害スル罪	一一二
第六章	逃走ノ罪	一一五
第七章	犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪	一一九
第八章	擾騷ノ罪	一二一
第九章	放火及ヒ失火ノ罪	一二三
第十章	溢水及ヒ水利ニ關スル罪	一三二
第十一章	往來ヲ妨害スル罪	一三五
第十二章	住居ヲ侵スル罪	一四〇
第十三章	祕密ヲ侵スル罪	一四三
第十四章	阿片煙ニ關スル罪	一四六
第十五章	飲料水ニ關スル罪	一四九
第十六章	通貨偽造ノ罪	一五二
第十七章	文書偽造ノ罪	一五九

第十八章	有價證券偽造ノ罪	一七一
第十九章	印章偽造ノ罪	一七三
第二十章	偽證ノ罪	一七七
第二十一章	誣告ノ罪	一八一
第二十二章	猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪	一八三
第二十三章	賭博及ヒ富籤ニ關スル罪	一九四
第二十四章	禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	一九九
第二十五章	瀆職ノ罪	二〇二
第二十六章	殺人ノ罪	二〇九
第二十七章	傷害ノ罪	二一四
第二十八章	過失傷害ノ罪	二一八
第二十九章	墮胎ノ罪	二二〇
第三十章	遺棄ノ罪	二二四
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	二二七
第三十二章	脅迫ノ罪	二二八
第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪	二三一
第三十四章	名譽ニ對スル罪	二三六

第三十五章	信用及ヒ業務ニ關スル罪	二三九
第三十六章	竊盜及ヒ強盜ノ罪	二四〇
第三十七章	詐欺及ヒ恐喝ノ罪	二五〇
第三十八章	横領ノ罪	二五五
第三十九章	贓物ニ關スル罪	二五九
第四十章	毀棄及ヒ隱匿ノ罪	二六一
刑法施行法		二六五

目次終

改正刑法釋義

吉永鉄太郎著

第一編 總則

(註)刑法トハ犯罪ト刑罰トヲ定メタル法令ヲ云フモノニシテ廣キ意義ト狹キ意義トノ二様アリ廣キ意義ノ場合ニハ犯罪ト刑罰トヲ定メタル法令全體ニ通シ狹キ意義ノ場合ニハ其中ニ就テ特ニ刑法ノ名アル法律ノミニ當ルナリ之ヲ一般刑法特別刑法ト謂フ

狹キ意義ノ一般刑法ナルモノハ犯罪ト刑罰トヲ定メタルモノニシテ例ヘハ人ヲ殺傷シ人ノ財産ヲ竊取シタル場合ノ如キ行為カ犯罪トナリ而シテ其犯罪タル行為ニハ例ヘハ死刑、懲役、禁錮ト云フ如キ一定ノ刑罰ヲ加フルコトヲ定メタルモノヲ云フ即チ刑罰法令ナリ斯ノ如ク犯罪ト刑罰トノ關係ヲ規定シタルモノハ其性質悉ク刑法タルヲ以テ他ノ名稱ヲ附シタル規則所謂民法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法ト云フモノ、中ニ在リテモ若シ犯罪ト刑罰トノ關係ヲ定メタル條項アラハ其條項ハ刑法ノ性質ヲ有スル規則ト云フヘキナリ

刑罰法令中特ニ刑法ト名ケタル法律ハ今回改正公布セラレタルモノナリ此法律ハ明治十三年七月第三十六號布告ヲ以テ發布セラレ明治十五年一月一日ヨリ實施セラレタルモノヲ改

正シタルモノニシテ狹義ノ刑法トモ又單ニ刑法トモ謂フナリ此刑法ハ刑罰法令中其區域最モ廣キモノニシテ舊刑法第五條第二項ニハ「若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサルモノハ此刑法ノ總則ニ從フ」ト規定シ此刑法ノ總則ヲ總テノ刑罰法令ニ適用シ得ルモノトシタルナリ

特別法中重ナルモノハ陸軍刑法、海軍刑法是ナリ軍人軍屬ノ犯罪ヲ處罰スルコトヲ主眼トス

刑法ノ總則カ反對ノ規定ナキ限リハ他ノ刑罰法令ヲモ支配スルコト右ニ述ヘタルカ如シ而シテ刑法其者ノ各本條ヲ支配スルハ勿論ナリ今其編章ヲ舉レハ第一章法例、第二章刑、第三章期間計算、第四章刑ノ執行猶豫、第五章假出獄、第六章時効、第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免、第八章未遂罪、第九章併合罪、第十章累犯、第十一章共犯、第十二章酌量減輕、第十三章加減例ト爲シタリ

第一章 法 例

(註)法例トハ刑法ノ效力ニ關スル一般ノ通則ヲ定メタルモノニシテ即チ左ノ事項ヲ規定シタルモノナリ

- 一、本法ノ時ニ關スル效力
- 二、本法ノ土地ニ關スル效力
- 三、本法ノ人ニ關スル效力

四、本法ノ總則ノ他ノ法令ニ對スル效力

第一法律ノ時ニ關スル效力ニ付テ述フレハ法律ハ既往ニ遡ラストノ原則アリ凡刑罰ハ何レノ時ニ及ホスコトヲ得ルカ即チ現行法律ノ罪トスル所ノモノハ其行爲不行爲所謂犯罪ノアリタル時ノ如何ヲ問ハス皆現行法律ニ照シテ處斷スルコトヲ得ルカト云フニ至テハ法律ハ其犯罪カ法律發布以前ニ在ルトキハ其法律ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得サルモノトス是即チ法律ノ時ニ及ホス效力ナリ而シテ此ノ原則ニハ例外アリテ此刑法第六條ニ「犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス」ト規定シテアルニ因レハ法律カ既往ニ遡ラストノ原則ハ其犯罪カ未タ判決ヲ經サル者ニ限ルコトヲ知ルヘシ
何ヲ以テ刑罰ハ既往ニ遡ラストスルカ其理由ハ舊法ニ於テ罰セサルモノヲ新法ニ於テ罰スルトキハ之カ爲メ人民ノ既得權ヲ害スルヲ以テナリ人民ノ既得權トハ前ノ法律ノ時ニハ罪トセザリシ事ナルニ因リ人民ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ權利カアリシヲ云フ然ルニ新規ノ法律ニ於テ前ニ罪ト爲サ、リシ行爲ヲ罪トシタリシトテ新タナル法律ノ效力ヲ以前ニ及ホストキハ前ニ人民カ既ニ得テ居リシ權ヲ害スルニ至ルヲ以テナリ是レ刑ハ知ラシメスシテ罰スルモノニ非ストノ原則ニ依リ法律發布ノ後ニ其法律ノ規定ニ違反スル者ヲ至當トスレハナリ

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

(註)本條ハ法例ノ場合ニ掲ケタル第二本法ノ土地ニ關スル效力ニ付テノ規定ナリ

第一項ハ本法ノ效力ノ及ホスヘキ土地ノ範圍即チ我カ刑法ハ日本ニ限リテ其效力ヲ及ホスヘキヤ又ハ外國ニマテモ及ホスヘキヤト云フニ付テノ規定ナリ乃チ我刑法ハ帝國臣民ナルト又ハ外國人ナルトヲ區別セス我帝國內ニ在テ罪ヲ犯シタル者ハ本法ノ支配ヲ受クヘキ旨ヲ定メタリ

一國ノ法律ノ效力ノ及フ可キ土地ノ範圍ニ付テハ屬地主義又ハ屬人主義ト稱スル二個ノ解釋カアリテ屬地主義ニ在テハ一國ノ領土ヲ基點トシ其國內ニ在テ犯シタル罪ニ付テハ犯人ノ國籍如何ヲ問ハス即チ日本人タルト外國人タルトヲ論セス內國ノ法律ヲ適用ス可シト爲シ屬人主義ニ在テハ一國ノ國人ハ何國ノ領土内ニ在ル者ト雖モ常ニ其本國法ノ適用ヲ受ク可シト爲スニアリ

改正刑法カ採リタルハ屬地主義ニシテ日本國內ニ生シタル罪ニ付テハ犯罪人ノ何人タルヲ問ハス我刑法ヲ適用スルコトヲ原則ト定メタルナリ

刑罰法ハ國家ノ安寧ヲ維持スルニ在レハ國家ノ安寧ヲ害スル者アルトキ外國人ナレハトテ我刑法ヲ以テ處罰スルコトヲ得サルモノナルトキハ國家ノ安寧ヲ害セラル、モ如何トモスル能ハスシテ刑法ハ無用ノモノニ屬スルニ至ルナリ是ヲ以テ日本人タルト外國人タルトヲ問ハス此國土ニ居住スル者ヲシテ總テ我刑法ニ服從セシムルコト、シタリ

扱テ日本國土トハ日本帝國主權ノ及ホス場所ニシテ之ヲ分テハ左ノ如シ

(一)日本ノ領地 即チ地理學上日本ト稱スル土地ニシテ臺灣、樺太等ノ新領地ニ至ルマテヲ云フ

(二)日本ノ領海 海ヲ分テ公海領海ノ二ト爲ス公海ハ即チ各國共用ノ部ニシテ何レノ國ニモ屬セス即チ其海上ニ一國カ專ラ司法權ヲ施行スルコトヲ得サルモノナリ領海トハ之ニ反シ一國カ專ラ其上ニ司法權ヲ行ヒ他國之ニ刑罰權ヲ行フコトヲ得サル所ナリ此領海ハ港内灣内ハ勿論陸地ニ沿フタル並行線以內ノ部ニシテ其線ノ分界ハ萬國公法ニ於テ六海裡以內ヲ以テ限界トシタルナリ左レハ日本ノ領海内ニ於ケル犯罪ニ付テハ其犯罪人ノ何國ノ者タルヲ問ハス日本ノ刑法ヲ以テ之ヲ處罰スヘシ然レトモ外國軍艦内ノ犯罪ニ付テハ其本國ノ主權ヲ以テ之ヲ處罰スルコト、是ヲ治外法權ト云フ日本ノ軍艦カ外國領海ニ在ルトキハ日本ノ主權ノ之ニ及フモノトスルト同一ナリ

本條第二項ハ帝國外ニ在ル帝國ノ船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ原則トシテ本法ヲ適用スヘキコトヲ定メタルモノナリ

日本ノ船舶カ一度我領海ヲ離ル、ヤ船舶内ニ生シタル罪ニ付キ刑法ノ效力ヲ定ムルニ非サレハ如何ニ之ヲ處分スルヤノ疑アルヲ以テナリ

從來船舶ニ付テハ之ヲ其ノ所屬國領土一部ト看做シ之ヲ所屬國法ヲ適用スヘント爲スモノト必要上所屬國法ヲ適用ス可シト爲ストノ區別アリ我刑法ハ第二ノ主義ヲ採リ必要上帝國

外ニ在ル船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ日本刑法ヲ適用スト定メタルナリ
船舶カ其所屬國ノ一部ト見做スヨリ其主權ノ及フ上ニ付テ之ヲ述フレハ即チ左ノ如シ
(イ)商船ハ假令本國ノ國旗ヲ掲クト雖モ一個人一私人ノ所有物ニ過キス既ニ一私人ノ所
有物タル以上外國主權ノ領土内ニ於テハ尙ホ一私人カ其所在地ノ法律ニ服從セサルヘカラ
サルカ如ク其船舶モ亦其國ノ法律ニ服從セサルヘカラサルヤ當然ナリ
(ロ)軍艦ニ付テハ全ク之ニ反シ軍艦ハ國防ノ要具ニシテ我領土内ニ於テハ外國主權ノ及フ
モノニ非ストスルヲ以テ軍艦内ノ犯罪ニ對シテハ其碇泊地ノ法律ヲ適用スヘキモノニ非ス
ト云フニ在リ

以上ハ船舶ハ其所屬國ノ一部ト見做スヨリ論スル所ナリ然レトモ我改正刑法ハ此主義ヲ採
ラス必要上所屬國法ヲ適用スヘシト爲スニ在レハ商船ニ於テモ我カ主權ヲ及ホスヘキ場合
アリトスヘシ

(二)占領地 平時又ハ戰時ニ於テ我軍隊カ占領セシ外國領地ハ刑法ノ適用上我領土ナリト
看做スハ國際公法ノ是認スル所ナリ故ニ軍隊ニシテ外國ノ土地ヲ占領スル場合ニハ我國軍
旗ノ下ニ立ツ者ハ勿論其地ニ在ル外國人ニ對シテモ我國刑法ノ適用ヲ爲スヘキヤ當然ナリ
茲ニ注意スヘキハ我軍隊ニシテ承諾ヲ得テ中立國又ハ同盟國ヲ通過又ハ占領スルノ場合ニ
於テ犯罪ヲ發生シタルトキハ特別ノ約束ナキ以上ハ我軍隊ノ裁判權ハ唯軍人又ハ軍屬ノ資
格ヲ有スル者ニ限ルモノトスルコト是ナリ

以上述ヘタル如ク日本國土即チ日本帝國主權ノ及フ場所ニ於テ日本ノ法律ニ觸ル、行爲ア
ル者ハ日本外國人ノ區別ナク一切日本法律ニ從ヒ之ヲ處罰スヘキヲ原則トス然レトモ此
ニ付テ二三ノ例外アリ言ヲ換テ云ヘハ日本ノ法律ヲ以テ處罰スルコトヲ得サル場合アリ先
ツ日本内部ノ公法ニ就テ之ヲ觀ルニ天皇ハ日本帝國ノ主權者ナレハ神聖ニシテ侵スヘカラ
サルコトハ帝國憲法第二條ニ明文アル如ク而シテ其侵スヘカラスト云フ理由ハ天皇ハ命令
者ナリ刑法ハ命令ノ法律ナレハ天皇ヨリ以上ノ命令者ナケレハ天皇ニ命令ノ加フヘキ者ナ
キニ因ルモノナリ又帝國憲法第五十二條ニ依レハ帝國議會ノ議員ハ議會ニ於ケル意見及ヒ
表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ故ニ其言論ニシテ誹毀侮辱ニ涉ルモ犯罪ヲ構成ス
ルコトナシ是第二ノ例外ナリトス

次ニ國際公法ニ就テ之ヲ觀ルニ外國ノ使臣即チ外交官ハ大使、全權公使、辦理公使、代理
公使其他ノ外交官ニ對シテハ其駐劄國ノ司法權ニ服從セサルヲ以テ通義トス然ラハ外交官
ノ犯罪ハ其性質ノ如何ヲ問ハス一切處罰スルコトヲ得ス且ツ外交官ノ隨行員及ヒ其家族ト
雖モ其ノ本國ノ法律ニ服從スルモノトシテ日本ノ法律ニ服從スヘキモノニアラストセリ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタ
ル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百四十四條、第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪

六 第六百六十二條第六十三條ノ罪

七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第二項、第六百六十五條第二項、第六百六十六條第二項ノ未遂罪

(註)本條ハ帝國外ニ於テ生シタル罪ニ付テモ尙ホ本法ヲ適用スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ

前條ニ於テハ帝國內ニ生シタル罪ニ關スル規定ヲ設ケタリト雖モ帝國外ニ於テ生シタル罪モ亦之ヲ日本ノ刑法ヲ以テ處罰スル必要アルヲ以テ本條ヲ規定シタルモノナリ即チ保護主義ニシテ外國ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニ付テハ特ニ此刑法ヲ適用スヘキモノトス是レ此種ノ罪ハ我國ノ安寧秩序ヲ害スル程度大ナルニ拘ハラス外國ニ在テハ却テ何等ノ罪ヲモ構成セサル場合多シ從テ我國ニ於テ之ヲ處罰スル必要アル所以ナリ

帝國外ニ於テ生シタル罪ニシテ本條ニ掲ケタルモノハ第二編第一章皇室ニ對スル罪ノ全部同第二章內亂ニ關スル罪ノ全部同第三章外患ニ關スル罪ノ全部及ヒ通貨偽造又ハ變造ノ罪ノ既遂及ヒ未遂、偽造又ハ變造ノ通貨行使罪ノ既遂及ヒ未遂、真正又ハ偽造ノ御璽、國璽若クハ御名使用、文書偽造ノ罪、御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル文書ノ變造罪、公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖書ヲ偽造罪又ハ作リタル文書若クハ圖書ヲ變造罪、公務員其職務ニ關シ虛偽ノ文書又ハ圖書ヲ作製シタル罪又ハ文書若クハ圖書ヲ變造シタル罪、以上三種ノ文書若クハ圖書ヲ行使シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、有價證券ノ偽造又ハ變造罪、有價證券ノ偽造又ハ變造罪、有價證券ノ記入ヲ爲シタル有價證券ノ行使罪ノ既遂及ヒ未遂、御璽、國璽、御名、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名又ハ公務所ノ記號ノ偽造罪及ヒ真正又ハ偽造ノ御璽、國璽、御名、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名又ハ公務所ノ記號ノ使用罪ナリトス

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

- 一 第八八條、第八九條第一項ノ罪、第八八條、第八九條第一項ノ例
- 二 依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ未遂罪
- 二 第九十九條ノ罪

- 三 第五百五十九條乃至第六十一條ノ罪
- 四 第六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第七十六條乃至第七十九條、第八十一條及ヒ第八十四條ノ罪
- 六 第九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
- 八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
- 九、第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
- 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
- 十二 第二百三十條ノ罪
- 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百二十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

- 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
- 十五 第二百五十三條ノ罪
- 十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

(註)本條第一項ノ規定ハ屬人主義ヲ採リ第二項ノ規定ハ保護主義ヲ採リタルモノニシテ帝國外ニ於テ生命、身體、自由、財産又ハ信用ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國臣民及ヒ外國人ニ對シテモ亦本法ヲ適用スヘキ旨ヲ規定シタルナリ蓋シ外國ニ於テ生シタル罪ハ其犯罪人ノ日本臣民タルト又ハ外國人タルトヲ問ハス原則トシテ之ヲ本法ニ支配セシムル必要ナシト雖モ刑法ハ國家ノ秩序ヲ維持スルヲ目的トスルヲ以テ此種ノ罪ト雖モ帝國ノ秩序維持ニ害アルモノナルトキハ其秩序維持上必要ナル限度ニ於テ之ニ本法ヲ適用スヘキモノトス

改正刑法ハ帝國臣民帝國外ニ於テ又ハ外國人帝國臣民ニ對シ帝國外ニ於テ犯シタル生命、身體、自由、財産又ハ信用ニ關スル罪ノミ帝國ノ秩序維持ニ害アルモノトシテ本條ノ規定設ケタルナリ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務

員ニ之ヲ適用ス

一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第一百五十六條ノ罪

三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第
百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

(註)本條ノ規定ハ前條第一項ト同シク屬人主義ヲ採リタルモノニシテ帝國外ニ於テ職務ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ本法ヲ適用スルモノトス而シテ職務ニ關スル罪トハ看守者又ハ護送者カ監獄ニ拘留サレタル囚人ヲ逃走セシムル罪、公務員ノ職權濫用ノ罪、看守者又ハ護送者カ囚人ニ對シ暴行等ヲ爲ス罪、看守者又ハ護送者カ天災等ノ場合ニ囚人ニ其難ヲ避ケシムル爲メノ必要ノ處分ヲ爲スコトヲ怠ル罪、公務員又ハ仲裁人收賄ノ罪、公務員又ハ仲裁人カ不公平ノ處分ヲ爲ス罪及ヒ公務員又ハ仲裁人秘密ヲ漏泄スル罪ナリ

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

(註)裁判ハ一事不再理ト云フ原則カアリテ一度確定裁判ヲ受ケタル同一事件ハ再ヒ裁判スルコトヲ得サルモノトス

本條ハ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者カ再ヒ日本ノ法律ニ於テ裁判スルコトヲ得ヘキヤト云フ疑問ノ起リタル場合ニ日本ニ於テ更ニ裁判スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ裁判權ノ牴觸スル場合ナリ即チ外國人日本ニ於テ罪ヲ犯シ又ハ日本人外國ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ二國ノ裁判所ニ於テ同一事件ノ管轄權ヲ有スルコトアリ此ノ場合ニ其犯人既ニ一國裁判所ノ確定判決ヲ受ケタルトキハ他國ニ於テ再ヒ之ニ對シテ公訴ヲ提起スルコトヲ得ルカト云フ場合ニ本條ハ再ヒ裁判スルコトヲ得ヘシトノ規定ヲ設ケタリ

凡ソ確定判決ノ效力ハ同一國ノ同一法律ニ基ク判決ニ於テ始メテ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキモノナレハ縱令内國及ヒ外國ニ於テ前後同一事件ニ付キ同一犯人ニ對シ處罰スルコトアルモ決シテ一事不再理ノ原則ニ背クモノニアラス若シ然ラストセハ外國ノ確定判決ハ我國ニ於テ效力ヲ有シ遂ニ我主權ヲ侵害スルノ結果ヲ生スルニ至ルヘシト云フニ在リ

然レトモ一旦外國ニ於テ確定判決ヲ經テ既ニ刑ノ執行ノ全部又ハ一部ヲ受ケタル者ニ對シテハ再ヒ刑ヲ執行スルハ殘酷ニ失スルノ恐レアルヲ以テ此ノ犯人ニ付テハ裁判所ハ更ニ刑ヲ言渡ス際刑ノ執行ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得ヘシトノ例外ヲ設ケタリ

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適

用ス

(註)本條ハ犯罪ニ關スル新舊二法ノ抵觸スル場合ニ付テノ規定ナリ法律ノ效力ハ既往ニ遡ラスト云フコトハ前ニ述ヘタルカ如シ即チ新法ハ舊法ノ時代ニ於ケル犯罪ニ對シテハ之ヲ適用スルコトヲ得ス即チ舊法ニ於テ罰セサルノ所爲ニ付テ新法ハ之ヲ罰シ又舊法ハ輕ク罰シタルノ所爲ニ付テ新法ハ重ク之ヲ罰スル場合ノ如キコトヲ許サス然トモ茲ニ一ノ例外アリ新法ノ規定ハ舊法ニ比シテ輕キトキニ限り新法ヲ適用スルコトヲ得ヘキコト是ナリ然レトモ刑法上特別ノ規定ナケレハ縱令新法輕キ場合ト雖モ尙ホ新法ヲ遡ラシメテ以テ其發布以前ニ於ケル犯罪ニ適用スルコトヲ得サルナリ況ンヤ新法ノ舊法ニ比照シテ重キ場合ニ於テオヤ

本條ハ輕キトキハ新法ヲ適用スル旨ヲ規定シテ新法ヲ遡ラシムルモノトシタリ是レ人民ノ既得權ヲ害スルノ恐レナケレハナリ

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

(註)舊法ハ官吏及ヒ官署ノミニ關スル規定ヲ設ケタルヲ以テ明治二十二年法律第百號ヲ以テ公吏及ヒ公署ハ刑法上之ヲ官吏及ヒ官署ト同一ニ視ル旨ヲ規定シタリト雖モ其他ノ職員

ニシテ刑法上之ヲ官吏ト同視スヘキ者多シ然レトモ此等ノ職員ノ種類ニ至リテハ議員、委員等其種類多クシテ之ヲ一一列擧スルコト能ハス故ニ本條ニ於テ新タニ公務員及ヒ公務所ナル語ヲ設ケ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他職員ヲ公務員ト稱シ此等ノ者ノ職務ヲ行フ所ヲ公務所ト稱シ以テ汎ク國家ノ公務ニ從事スル職員又ハ公衙ニ共通スル規定ヲ設ケル便宜ヲ計リタリト云フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

(註)本條ノ意義ハ既ニ前ニ述ヘタルトモ復タ重ネテ之ヲ説明スレハ他ノ法令ニ別ニ總則ナクシテ刑法ノ總則ヲ適用スト定メタル場合ハ此刑法ノ總則ニ從フヘキモノトス故ニ若シ他ノ特別法令ニ於テ刑法ノ總則ヲ用ヒスト定メタルトキノ外ハ此刑法ノ總則ヲ適用スルコト、シタリ

然レトモ此刑法ニ明文ナクシテ他ノ法令ニ明文アルモノハ其法令ニ從フヘキモノナリ是レ此刑法ニハ悉ク一切ノ刑名ヲ規定シタルモノニアラス且ツ普通法ト特別法トアリテ特別法ニ定ムヘキモノハ普通法ニ之ヲ定ムヘキモノニアラス

第二章 刑

(註)刑トハ國家カ公益ノ爲メニ犯罪人ニ對シ裁判ヲ以テ科スル所ノ痛苦ヲ謂フ即チ犯罪ニ

對スル制裁ナリ此ノ制裁ハ一方ニハ犯人ヲシテ將來ヲ戒メ再ヒ犯罪行為ヲ爲スコトヲ防ク爲メニ他方ニ於テハ社會ノ者之ヲ見テ自カラ戒ムル所アラシムル爲メナリ其痛苦ハ或ハ身體ニ對スルアリ或ハ自由ニ對スルアリ或ハ財産ニ對スルアリテ其最モ甚シキ者ハ身體ニ對スル痛苦ニシテ死刑ハ即チ是レナリ

然レトモ此制裁ヲ以テ他ノ制裁ト混スヘカラス或ハ損害賠償ト云ヒ或ハ懲戒處分ト云フカ如キ皆其ノ所爲ニ對スル制裁ナルモ是ハ民法上又ハ紀律法上ノ制裁ニシテ刑罰法上ノ制裁ニアラス刑罰法上ノ制裁ハ唯タ此刑法ニ云フ所ノ一ノ苦痛アルノミ語ヲ換ヘテ言ハ、刑罰ハ罪ヲ犯シタル者ニ對スル制裁ナリ刑罰ハ他ノ制裁ト相關係スルコトナシ因テ左ノ結果ヲ生ス

一刑罰ニ付テハ一事不再理ノ原則アリ一罪ニ付キ二重ノ刑ヲ科スルコトヲ許サ、ルモ損害賠償其他ノ制裁ハ刑罰ニ非サルヲ以テ已ニ刑法ニ依リ刑罰ヲ科シタルニモ拘ハラズ

同一所爲ニ付キ別ニ損害賠償ヲ命シ又ハ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ルモノナリ

二刑罰ニ付テハ併合罪中一ノ重キニ從フコトアルモ民法上ニハ各所爲ニ付キ一々之ヲ施スヲ原則トシ一ノ重キニ從フヲ例外トス

三刑罰ハ犯人ノ一身ニ止マルヲ原則トシ隨テ犯人死去スルト同時ニ消滅ニ歸スルモ民法上ノ制裁ノ如キハ犯人死去スルモ消滅セズ其相續人ニ對シ之ヲ施スコトヲ得ヘシ

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑

トス

(註)本條ハ刑名ニ關スル規定ニシテ刑ニ主刑及ヒ附加刑ノ區別ヲ設ケタリ主刑ハ死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ノ六種ト爲シタリ

懲役及ヒ禁錮ハ共ニ自由刑ニシテ懲役ニハ定役ヲ科シ禁錮ニハ定役ヲ科セス而シテ現行法ノ徒刑、懲役及ヒ重禁錮ヲ合シテ之ヲ懲役ト爲シ流刑、禁獄及ヒ輕禁錮ヲ合シテ之ヲ禁錮ト爲シ定役ノ有無ニ依リテ區別シタリ定役ノ有無ヲ以テ自由刑ヲ區別スル法制ニ付テハ多少ノ議論ナキニアラス然リト雖モ國事犯人ノ如キハ單ニ之ヲ拘禁スルコトヲ以テ足レリトス故ニ定役ヲ科スヘキ刑ト之ヲ科セサル刑トノ區別ヲ設クルモ亦已ムヲ得サルナリ

舊法ニハ附加刑ニ罰金ヲ設クト雖モ主刑タル罰金ト附加刑タル罰金トノ間ニハ何等實質上ノ差異ナキヲ以テ改正法ハ附加刑ノ罰金ヲ廢シタリ

附加刑ハ公權剝奪及ヒ監視ヲ廢シテ單ニ沒收ノ刑ノミヲ存シタリ

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役ト

ハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以

テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

(註)本條ハ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ示ス規定ナリ

第一項ハ種類ノ異ナル刑ニ付キ規定シタルモノニシテ死刑ヲ以テ最モ重キ主刑トシ懲役之ニ次キ禁錮更ニ次キ罰金更ニ之ニ次キ拘留更ニ之ニ次クモノトシ科料ヲ以テ最輕ノ主刑トス然レトモ無期金錮ト有期懲役トハ當然無期禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ト雖モ其刑期有期懲役ノ刑期ヨリ長キトキハ場合ニ依リ有期懲役ヨリ重キモノト爲スコトヲ明ニセリ

第二項ノ規定ハ同種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ同種ノ刑ニシテ更ニ刑期ノ長短、金額ノ多寡ノ差異アルモノハ長期ノモノト多額ノモノトヲ重シトシタリ第三項ハ二個以上ノ犯罪カ何レモ死刑ニ當リタルトキハ其ノ犯情ノ如何ニ依リテ輕重ヲ定メ又二個以上ノ犯罪カ何レモ長期ノ自由刑ニ當リ若クハ多額ノ罰金ニ當ルモノナルトキハ亦犯情ノ如何ニ依リ其輕重ヲ定ムルモノトス最モ此ノ場合ハ二個以上ノ犯罪カ同種ノ刑ニ限ルモノトス

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

(註)本條ハ死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ舊法ニハ死刑ハ絞首ストアルヲ改メテ絞首シテ執

行スト爲シタルハ絞首シテ生命ヲ絶ツコトヲ明ニシタルモノユシテ絞首ニ一旦絶命シタル後蘇生スルコトアルモ更ニ絞首シテ生命ヲ絶ツヘキコトヲ命シタルモノナリ

死刑ハ監獄内ニ於テ之ヲ執行シ決シテ公ノ場所ニ於テ行フコトヲ許サス舊時ハ公衆ノ面前ニ於テ之ヲ執行セリ佛國ノ如キ今猶ホ然リ是レ其旨趣ハ公衆ヲシテ縱覽セシムレハ懲戒ノ效アルモノトスルナリ然ルニ之ニ反シテ數回其慘狀ヲ目撃スル者之ニ慣レテ復タ死刑ノ恐ルヘキヲ知ラス爲メニ大罪ヲ犯スニ至ル者アルヲ以テ其執行ヲ秘密ニシ公衆ニ傍觀ヲ禁シタル所以ナリ

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

(註)舊法ハ此刑ハ常事犯ノ刑ニシテ有期ナリ而シテ重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ナリ然ルニ改正法ハ懲役ノ期間ヲ無期及ヒ有期ト爲シ有期懲役ノ規定ハ其範圍甚タ廣キカ如シト雖モ舊法ト比較スルトキハ却テ其範圍ノ狹隘トナリタルモノトス改正法ノ懲役ハ舊法ノ徒刑、懲役及ヒ重禁錮ヲ合セタル者ナリ而シテ有期徒刑ハ十五年以下ニシテ重禁錮ハ十一日以上ナルヲ以テ之ヲ通算スレハ懲役ニ當ル舊法ノ刑ハ十一日以上十五年以下ノ範圍ヲ有スルモノナルヘキニ新法ハ短期限ニ區別セス又ハ之ニ多クノ刑名ヲ

附スルコトヲ改メタリト雖モ其範圍ニ於テ十九日狹隘トナリタルモノナリ

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

(註)舊法ハ此刑ハ輕罪ノ刑トシテ定役ニ服スルモノヲ重禁錮トシ定役ニ服セサル者ヲ輕禁錮トス重禁錮ハ常事犯ニ用ヒ輕禁錮ハ常事犯國事犯ノ別ナク之ヲ用ヒタリ

新法ハ禁錮ヲ無期及ヒ有期ニ分チ有期禁錮ハ一月以上十五年以下ト爲シタリ有期禁錮ニ付テハ舊法ト異ナル所ナシ只多クノ刑名ヲ附セスシテ其結果有期禁錮ノ期限ヲ長クシタルノミ

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

(註)有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重シ又ハ減輕スル場合ニ如何ナル處マテ加重スルカト云フニ付テ二十年ニ至ルコトヲ得ルモノトシタリ是レ刑ハ加ヘテ無期又ハ死刑ニ至ルコトヲ得サルヲ以テナリ

懲役及ヒ禁錮ノ短期ヲ一月ト規定シタルヲ以テ若シ之ヲ減輕スルトキハ如何ナル刑ト爲ス

ヘキヤノ疑ヒヲ生スルヲ以テ一月以下ニ下スモ刑ノ種類ヲ變更セズ即チ懲役ヲ禁錮ニ變更シ禁錮ヲ拘留ニ變更スルカ如キコトナシトシテ特別ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキモノト爲シタリ故ニ特別ノ場合ニ於テハ刑期一月以下ノ懲役又ハ禁錮ノアルコトアリ是レ舊法ニハ本條ノ如キ場合ニハ拘留ニ處スル旨ヲ規定シアルヲ以テ新法ハ本條ノ規定ヲ設ケテ舊法ト異ナル所ヲ明ニセリ

本條ハ前二條及第五十七條ノ長期ノ二倍トノ關係ニ付テ第五十七條ノ長期ノ二倍トハ本條二十年ノ二倍ナリヤ將タ前二條即チ十二條十三條ノ十五年ノ二倍ナリヤノ疑問ヲ生スヘシ而シテ第十二條及第十三條ノ規定ニ依リ有期懲役ト有期禁錮ハ共ニ其短期ハ一月、長期ハ十五年トシテ絶對的ノ規定ナレハ如何ナル場合ニテモ十五年ヲ越エルコトナシ又第十四條ハ前二條ヲ承ケテ前二條ノ刑期ハ通常ノ場合ノ刑期ナルカ故ニ若シ加重スル場合ニハ二十年マテ上スコトヲ得ヘシト規定シタルモノナリ前ノ第十二條第十三條ハ原則的ノ規定ニシテ本條ハ例外ノ規定ナリ從テ第五十七條ノ長期ノ二倍以下ト云フハ第十四條ノ制限ニ從ヒ二倍以下ト解釋スルヲ至當トス

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

(註)舊法ハ罰金ヲ二圓以上ト爲シ尙ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ストシテ其多額ハ法律上

ニ一定セス是レハ同法第九十三條ニ「貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス」トアリ偽造貨幣千圓ヲ行使スレハ二千圓ノ罰金ニ處シ一萬圓ヲ行使スレハ二萬圓ノ罰金ニ處スル等行使スル貨幣ノ多寡ニ應シ罰金ノ額變動スル場合アルニ因テ設ケタルモノナリ

然ルニ舊法ノ罰金ヲ二圓以上ト爲シ科料ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シタルヲ以テ一圓九十九錢九厘以下一圓九十五錢一厘以上ハ罰金ニモアラス又ハ科料ニモアラスナルモノトナルヲ以テ新法ハ罰金ヲ二十圓以上トシ科料ヲ二十圓未満トシ尙ホ其科スヘキ金額ハ之ヲ各本條ニ於テ規定スヘキコトハ明文ヲ要セサルノ義ナリトシテ之ヲ刪除シタリ

第十六條 拘留ハ一日以上二十日未満トシ拘留場ニ拘留ス

(註)新法ハ拘留ノ期間ヲ一日以上一月未満トシタリ是レ舊法ハ一日以上十日以下ノ期間ト爲シ之ヲ加重スト雖モ尙ホ十二日ニ至ルニ過キスシテ實際上其範圍ノ狹キニ失スルヲ以テナリ新法ニ於テハ有期ノ懲役又ハ禁錮ハ共ニ一月以上ノ期間ニシテ拘留ハ一月未満ノ期間ナリ故ニ舊法ノ如ク十日乃至十一日ノ期間ハ拘留ニアラス又ハ禁錮ニモアラスモノトナルコトハナキナリ

第十七條 科料八十錢以上二十圓未満トス

(註)舊法ニハ科料ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ト定メ加重スルモ二圓四十錢ニ至ルニ過キ

サルヲ以テ其範圍狹キニ失スルカ故ニ十錢以上二十圓未満ト改メタリ是レ同シク一月以下ニシテ懲役又ハ禁錮ノ名ヲ付スルモノト拘留ノ名ヲ付スルモノト又同シク二十圓以下ニシテ一ハ罰金ト稱シ一ハ科料ト稱スルモノアルヘク加之ス拘留ノ刑期懲役又ハ禁錮ノ上ニ出テ科料ノ金額罰金ヨリ多キコトアルヘシ甚タ奇ナルカ如シト雖トモ其性質相同シカラサルモノトスル以上ハ其刑期金額ノ多寡ハ論スヘキ所ニアラストスルナリ

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス
科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

(註)罰金ハ金刑ニシテ犯人ノ財産中ヨリ之ヲ徵收ス然ルニ犯人無資力ナルトキハ納ムルコト能ハスシテ刑ノ目的ヲ達スルコト能ハス又資力アル者ト雖モ之ヲ納ムルコトヲ拒ム者アラン是等ノ場合ニ於テハ刑罰ハ故ナク廢止スヘキモノニアラサレハ本條ヲ規定シテ便宜ノ方法ヲ採リタルモノナリ此場合ニ於テ其方法ニアリ其一ハ刑ニ換フル處分ニシテ罰金又ハ科料ヲ換算シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキモノトス而シテ之ヲ納ムル資力ナキ者ハ徒ニ獄中ニ在リテ苦ミ國家ハ却テ幾分ノ經費ヲ損失スルコト、ナリテ金刑ノ趣旨ニ背クコト、ナルヲ以テ新法ハ第二ノ方法ヲ採リ罰金又ハ科料ヲ納ムルコト能ハサル犯人ハ之ヲ他ノ刑ニ換ヘルコトヲ廢シ勞役場ニ留置シテ其自由ヲ制限スルト共ニ便宜勞役ニ從事セシメ其得タル勞金ヲ以テ罰金又ハ科料ノ幾分ニ充テ、一日モ早ク留置場ヲ出ツルコトヲ得セシムルモノトス

本條第三項ハ科料ヲ併科スルモノトス此ノ併科トハ科料カニケ以上アルトキ各科料ニ付キ各別ニ留置日數ヲ定ムルコトヲ云フ若シ此ノ併科ヲ爲ストキハ或ハ不當ノ長期ニ達スル虞アルヲ以テ此場合ニ於テハ其期間ヲ二ヶ月ニ制限セリ

第四項ハ罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト同時ニ罰金又ハ科料ヲ納ムルコト能ハサルトキノ留置ノ期間ヲ言渡スモノトスルハ犯人ニ於テ完納スルカ留置セラル、カ何レニカ決心スルノ必要アレハナリ

第五項ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルニ付テ猶豫ノ期間ヲ定メタルモノナリ是レ犯人ノ便宜ヲ與ヘタルモノナリ舊法ニハ罰金又ハ科料ヲ完納セサル者ニ付テ完納スルト否トハ之ヲ本人ノ自由ニ任シタリ其結果トシテ財產アル者ト雖モ往々之ヲ完納スルコトヲ厭ヒ刑ニ換ヘンコトヲ望ムコトナキニアラスシテ罰金又ハ科料ノ目的ヲ達スル能ハス故ニ新法ハ之ヲ廢シ財產アル者ニハ必ス金錢ヲ納メシムルコト、ナシ財產ナキ者ニ限り刑ニ換ヘテ之ヲ留置スルコト、シタリ

又舊法ハ換算法ヲ定メテ一日ヲ一圓ニ折算スト爲シタルヲ以テ罰金又ハ科料ノ金額多キトキハ罰金又ハ科料ノ一部ハ事實上之ヲ拋棄スルト同一ノ結果ヲ生スルヲ以テ新法ハ之ヲ改メテ裁判所ヲシテ罰金又ハ科料ノ額ニ應シ一日以上一年以下ノ期間内若クハ一日以上一月以下ノ期間内ニ於テ適宜ニ留置ノ日數ヲ定メシムルコト、シタリ

舊法ハ罰金完納ノ期限ヲ一月トシ科料完納ノ期限ヲ十日トシタリト雖モ本人ノ承諾アル場

合ニモ必ス其期限ヲ守ルコト、ナルトキハ適當ナル法制ナラス故ニ新法ハ本人ノ承諾アラハ裁判確定後一月内若クハ十日内ニ於テモ亦罰金若クハ科料ヲ換刑シテ留置セシムルコトヲ爲スコトヲ得ヘキモノトシタリ

第六項ハ罰金又ハ科料ノ一部分ヲ納メタル場合ヲ規定シタリ是レ舊法ニ之レナキ規定ナリ

第七項ハ留置期間内罰金又ハ科料ヲ納メタル場合ニ付テモ亦第六項ノ規定ニ準スルコト、シタリ若シ此ノ規定ニ依ルトキハ或ハ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ヲ納ムル者ナキニシモアラスシテ之ヲ留置一日ニ當ラシムルコト、セハ納入者ハ不當ノ利得ヲ爲スヘシ故ニ第八項ヲ設ケ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ノ納入ハ之ヲ納ムルコトヲ得ストシタリ

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
 - 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物
 - 三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
- 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

(註)此刑ハ附加刑ニシテ其性質ハ罰金ト同シク犯人ノ財産上ニ及フコトアリ而シテ其罰金ト異ナル點ハ罰金ハ國庫ハ犯人ニ對シテ債權者トナリ債權ノ關係ヲ生シ沒收ニ在リテハ國

庫ハ或ル物件ノ所有者トナリ物件ノ關係ヲ生スルコト即チ是ナリ

此刑ハ往古ニ於テハ總沒收ナルモノヲ用ヒタルコトアリ總沒收トハ犯人ノ所有ニ係ル一切ノ財産ヲ官ニ沒入スルモノニシテ之ヲ籍沒ト稱シ又闕所ト唱ヘタリ此刑ハ嘗ニ犯人ニ苦痛ヲ與フルノミナラス累ヲ其家族ニ及ホシ一家忽チ衣食ニ窮スルノ慘狀ヲ呈シ刑ハ犯人ノ一身ニ止マル可シトノ原則ニ背ク故ニ開明諸國ニ於テハ此ノ如キノ刑ヲ用ヒス唯犯人ノ手裏ニ存セシムヘカラサル物件ニ限り之ヲ沒收スルコト、ナシタリ

沒收ハ此ノ如ク或ル物件ニ限ルモノニシテ其物件タル同一性質ノ犯罪ニ付テモ或ハ存スルコトアリ或ハ存セサルコトアリ例ヘハ殺人罪ノ用ニ供シタル兇器、竊盜罪ニ依テ得タル財物ノ如キ必スシモ犯人ノ手裏ニ現在セス隨テ殺人罪ニ付テハ兇器、竊盜罪ニ付テハ財物ヲ常ニ必ス沒收ス可シト定ムルコトヲ得ス況ヤ人ヲ殺スニ必ス兇器ヲ用ユルモノニアラサルニ於テオヤ左レハ此刑ヲ附加スルハ或ル物件ノ存在スル場合ニ限り犯罪ノ性質ニ關係スルコトナシ

本條ハ沒收物件ノ種類ヲ左ノ如ク定メタルナリ

- 第一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
- 第二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物
- 第三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
- 第一號ノ犯罪ヲ組成シタル物件トハ犯罪ノ實體ト爲シタルノ意義ナリ例ヘハ金銀貨幣、紙

幣等ヲ偽造スル原料及ヒ器械等ヲ買入レ又ハ阿片煙ヲ製造シタル如キハ即チ偽造貨幣ヲ偽造スルコトヲ得ルニ至リ阿片煙ヲ製造シタルトキハ之ヲ販賣スルコトヲ得ルニ至リタルモノナレハ犯罪ヲ組成シタル物件ト云ヘシ

第二號ノ犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタル物ニハ犯罪ノ手段タリシ物件即チ之ニ依テ犯罪ヲ成立セシメタルモノヲ云フ例ヘハ人ヲ殺スニ用ヒタル兇器、竊盜ヲ犯ス爲メニ用ヒタル鍵ノ如キモノ是ナリ又供セントシタル物トハ詐僞セントシテ文書ヲ偽造シ之ニ用ヒタル印章ノ如キモノヲ云フ同シク犯罪ノ用ニ供シタル物件ト雖モ其中ニハ直接ノ用ヲ爲スモノト間接ノ用ヲ爲シタルニ止マルモノトアリ

假令ヒ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト雖モ無意犯ノ場合ニ付テハ其手段モ不知不識ノ間ニ行ハル、モノナレハ其手段タリシ物件ヲ沒收スルハ酷ニ失スルノミナラス犯人再ヒ之ヲ犯罪ノ用ニ供スル虞ナキヲ以テ之ヲ沒收スルニ相當ノ名義アルコトナシテ法文ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト記シタルハ犯罪ノ用ニ供スルノ意思アリテ供スル場合ヲ謂フモノニシテ苟クモ犯罪ノ用ヲ爲シタル物件ハ犯人ノ意思如何ヲ問ハス悉ク沒收ストノ意ニアラサルナリ

第三號ノ犯罪行爲ヨリ生シタル物トハ第一號ノ場合ニ例シタル偽造貨幣ヲ偽造シ其他產出及ヒ輸入ヲ禁シタル物ヲ產出シ輸入シタルニ依リ其物件ヲ生シタルナリ

又犯罪ニ因テ得タル物件トハ犯罪力原因トナリ犯人カ不當ニ利得シタル物件ヲ謂フ例ヘハ

官吏カ賄賂ヲ收受シタル金品、盜賊カ窃取シタル贓物等是ナリ而シテ此物件ニハ直接ニ得タルト間接ニ得タルトノ別アリ盜賊ハ直接ニ得タルモノナルモ其盜賊ヲ以テ買得タル物件ハ間接ノ利得タルニ過キス以前ハ間接ノ利得ヲ沒收セシカ今ハ之ヲ廢シタリ

又沒收ハ犯人ニ對スルニ非サレハ之ヲ宣告スルヲ得サルモノトス故ニ犯人死亡スルトキハ沒收ヲ行フコトヲ得スシテ沒收ノ刑ハ消滅スルナリ然レトモ裁判確定後ニ至リ犯人死去シタルトキハ沒收物件ハ既ニ官ノ所有ト爲リタルヲ以テ其子孫ニ對シテ之ヲ沒收スヘキモノトス

犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ沒收スヘキモノハ必ス犯罪ニ直接シタル物件ナラサルヘカラス故ニ犯罪ニ因テ得タル後其物件ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ沒收スルコトヲ得サルモノトス舊法ハ物カ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者ナキ時ニ限り沒收スト規定シタレトモ改正法ハ其物カ犯人以外ノ者ニ屬セサル時ニ限レリ而シテ亦如何ナル物ヲモ沒收スヘシト云フニアラス必要ナキ場合ニハ之ヲ沒收スルコト、セス若シ其物件ノ所有者アルニ拘ハラズ之ヲ沒收スルトセハ故ナク人ノ所有權ヲ侵害スルニ至ルヘシ但其所有者ナキ場合トハ其物件ノ無主物ナル場合ニ限ラス所有者ノ知レサル場合ヲモ云フナリ裁判ノ當時所有者知レサルモ其後之ヲ發見スルコトアリ然ルニ一旦沒收ノ處分ヲ爲シタルヲ理由トシテ之ヲ還付セサルハ人情忍ヒサル所ナリトシテ明治十五年司法省達第二十號ヲ以テ之ヲ還付スヘキコトヲ命シタリ

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

(註)拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ノ如キハ極メテ輕微ナル犯罪ナレハ此等ノ罪ニ付テハ沒收ヲ科スルノ必要ヲ見ス故ニ特別ニ沒收スヘキ規定アル場合ノ外ハ沒收ヲ科スルコトヲ得サルモノトス然レトモ前條第一項第一號ノ如キ法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物ノ如キハ性質上行政處分ニ屬スヘキモノニシテ罪ノ輕重ト何等ノ關係ナキモノナレハ之ヲ例外トシテ沒收スヘキコトヲ定ムルハ當然ナルヘシ

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

(註)裁判確定前ニ於ケル未決拘留ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入セサルヲ原則トス是レ未決拘留ハ刑罰ニアラサル自由ノ拘束ナレハナリ故ニ裁判所ノ拘留日數ハ之ヲ刑期ニ算セサルモノトシタリ然ルニ新法ハ之ヲ本刑ニ算入スルコトヲ許シタリ其理由ハ未決拘留ノ刑事被告人ノ爲メニ苦痛ヲ生スルコト尠ナカラサレハ例外トシテ本條ヲ規定シタリ

犯人ヲシテ判決以前ニ刑期ニ同シキ處分ヲ受ケシムルハ酷ニ失スルモノナルニ拘ハラス舊法ニハ唯判決以後ノ拘留日數ニ付テハ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ許シタレトモ判決以前ノ

拘留日數ハ全ク之ヲ犯人ノ損失ニ歸スヘキモノトシタリ是レ其當ヲ得タルモノニアラス判決以後ニ於テ之ヲ許スモノナラハ判決以前ニ於テモ亦之ヲ刑期ニ算入スヘキヲ至當トス之ヲ算入セサルヲ可トスル理由ナルモノハ未決拘留ハ刑罰ニ非ス其間ハ被告人トスルニ止マリ犯人ヲ以テ遇セス而シテ此處分ハ必要已ムヲ得サルニ出ツルモノナレハ國民タル者忍シテ之ヲ受ケサル可カラス且ツ若シ其日數ヲ刑期ニ算入スルトキハ事情ノ繁雜ナル事件ハ長ク拘留シタル場合ノ如キ又ハ本刑ノ期限短小ナル場合ノ如キハ裁判上刑ヲ宣告スルモノ之ヲ執行セスシテ了ルコトアリテ刑罰ハ有名無實ナル結果ヲ生スルノ不都合アリト云フニ在リ然レトモ此理由ニ因ルトキハ裁判宣告後ノ未決拘留日數ヲ刑期ニ算入スルモ亦非ナリト謂ハサルヘカラス犯人ノ情ヲ酌量シ其利益ノ爲メニ宣告後ノ日數ヲ算入スルモノト定メタル上ハ宣告前ノ日數モ亦幾分カ之ヲ刑期ニ算入スルヲ穩當トス何トナレハ其未決拘留ハ必スシモ犯人自カラ求ムルモノニ非スシテ裁判官ノ過意又ハ裁判所ノ都合ニ因ルコトアレハナリ

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

(註)有期刑ノ期限ハ何年何月又ハ何日ト定ムルモ其一年一月一日ト稱スルハ幾何ノ時間ナ

ルヤハ之ヲ一定スル必要アリ普通ニテハ年月日ノ計算ハ總テ曆ニ從フナリ若シ刑期ノ計算モ此例ニ從フトキハ月ニ大小アリ二月ニ當ル者ハ二十八日間ニテ放免セラレ、等ノ幸不幸ヲ生スルニ至ルヲ以テ法律ハ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スル三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フト規定シタリ但年ニ付テハ閏年ト平年トアルモ僅々一日ノ差アルニ過キササルヲ以テ簡便ノ旨趣ニ因リテ曆法ニ從ハシムルナリ

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレタル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

(註)本條ハ舊法第五十一條ニ當ル規定ナリ舊法ハ第五十條ニ於テ裁判ハ確定後ニ非サレハ執行セサルコトヲ規定シ第五十一條ニ於テ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルコト、爲シ特ニ上訴ノ場合ニ關シ煩雜ナル規定ヲ設ケタリ然ルモ同第五十條ノ如キ規定ハ當然ノ事ニシテ別ニ明文ヲ要セサルヲ以テ之ヲ删除シ改正法ハ本條第一項ニ於テ刑期ノ起算日ヲ改メ裁判確定ノ日ヨリスルコト、シタリ是レ一方ニハ裁判確定後ニ非サレハ執行セサルコトヲ示シ他ノ一方ニハ上訴ニ依リテ以テ拘留中ニ期間ヲ經過センコトヲ望ム者アルヲ防カントスルナリ

舊法ニ依レハ檢事カ上訴スルトキハ常ニ刑期ハ前判宣告ノ日ヨリ起算シ犯人カ上訴シテ其上訴正當ナルトキハ亦前判宣告ノ日ヨリ起算スルコト、定メラル、ヲ以テ縱令ヒ檢事カ上

訴シテ前判決ハ不當トナルモ犯人ハ却テ其刑期ニ付キ不當ノ利益ヲ受クルコト、爲リ犯人ノ上訴シタル場合ニモ僅ニ手續ニ於テ欠ケル所アル爲メ其上訴正當ト爲リ其間ニ受ケタル未決拘留ノ期間ハ時トシテハ刑期ヲ超過スルコトナキニアラスシテ犯人ハ刑ノ宣告ヲ受ケタルニ拘ハラス全ク其執行ヲ免ル、コトアリ或ハ少クモ未決拘留ノ日數ヲ刑期ニ算入スル爲メ大ニ日數ヲ減シ從テ不當ノ利益ヲ受クルニ至ルヲ以テ犯人ノ上訴ハ其數甚タ多ク故ニ此弊ヲ矯正センニハ刑期ハ必ス裁判確定ノ日ヨリ起算スト爲サ、ル可カラス

抑裁判確定ノ日トハ如何ナル日ヲ言フカ凡ソ裁判ニハ上訴ノ期間ヲ定メ控訴ノ期間ハ判決言渡ノ日ヨリ五日トス上告ノ期間ハ三日トス此期間ヲ經過シタルトキ初メテ判決ノ確定スルヲ觀ル即チ期間ノ經過シタル翌日ヲ以テ確定ノ日トス故ニ若シ犯人ニ於テ上訴ヲ爲サ、ルトキハ第一審ノ判決アリタル日ヨリ五日ヲ經其翌日ヨリ刑ノ執行ヲ受ケサルヘカラス若シ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴ノ判決アリタル日ヨリ三日ヲ經テ其翌日ニ於テ判決ハ確定ス若シ又上告ヲ爲シタルトキハ上告ノ結果ニ因リ確定ノ日ヲ異ニス或ハ上告裁判所ニ於テ上告ヲ棄却シ又ハ擬律上ノ裁判ヲ爲シタルトキハ其裁判ハ同日確定シ若シ破棄シタルトキハ破棄後ノ裁判ノ確定ハ前例ト同シキナリ

第二項ハ犯人カ拘留ヲ受ケサル時ハ其刑期ハ裁判執行ノ日ヨリ之ヲ起算スルコト、シ縱令ヒ判決確定ノ後ト雖モ其日數ハ刑期ニ算入セサルモノトシタリ

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効

期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

(註)刑ノ執行ヲ受ケタル犯人ノ其初日ハ何時執行ヲ受クルモ全ク一日トシテ之ヲ計算スルコト、シ時効期間ノ初日モ亦同一ニシテ時効ノ起算點ハ最初ノ日ヲ時間ニ拘ハラズ一日ト見做シテ算入スルモノトス又放免セラル、者ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フモノトス

第四章 刑ノ執行猶豫

(註)舊法ニ於テモ裁判已ニ確定スルモ法律ハ特ニ其執行ノ停止ヲ命シタル場合アリ即チ死刑ニ付テハ司法大臣ノ命令アルマテ其執行ヲ停止シ又懐胎ナル婦女ニ對シテハ分娩後一百日ヲ經ルマテハ執行ヲ停止シ及ヒ大祀令節即チ大祭祝日ニ當ル日ハ此刑ヲ行フコトヲ禁スト定メタルナリ其他主刑及ヒ附加刑ノ全部又ハ一分ノ執行ヲ停止スルコトヲ許シタル場合アリ

然レトモ此等ノ執行停止ハ一時ノモノニシテ後日ニ其刑ヲ免除スヘキ恩典ヲ與フルコトアルノ趣旨ニ非ス死刑ノ如キハ執行ヲ鄭重ニスルニ因ルモノニシテ懐胎ノ婦女ハ分娩シタル兒ノ生育ト産婦ノ身体カ舊ニ復スルノ時期ヲ待ツニ在ルノミ又流刑ノ如キ無期流刑ノ囚ハ五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルコトヲ許スノミニシテ全ク改正法カ設ケタル執行猶豫トハ異ナルモノナリ

改正法カ執行猶豫ヲ設ケタル理由ハ刑ヲ科スルハ社會團體ノ秩序ヲ維持スルニ在リ秩序ヲ維持スルニ必要ナラサルニ犯人ヲ痛苦セシメントスルニ在ラス唯タ秩序ヲ維持スル上ニ付テ罰セサルヘカラサル犯人ノミヲ罰スルニ在リ而シテ初犯ノ短期囚ノ如キ其罪跡ハ大ニ社會ノ秩序ヲ害シタルモノニアラス且ツ其ノ犯情ハ憎ムヘキ者ニモアラス多クハ一時ノ出來心ニテ犯シタルモノナレハ一旦其所爲ヲ終リテ後チ良心モ平常ニ復シ悔イ改メント欲スルニ至ル而モ猶ホ之ニ刑ヲ宣告シ其刑ヲ執行セシメントスルハ却テ秩序維持ニ效ナク犯人ニ於テモ名譽ヲ汚シタレハ之ヲ再ヒスルコトヲ敢テスルノ野蠻勇氣ヲ長シ一タヒ監獄ニ入りタレハ犯罪ヲ講究シ犯罪術ヲ巧妙ニスルニ至ルノ外何等ノ效ナシ是ニ於テ乎短期ノ刑ヲ宣告スヘキ即チ輕キ罪ノ初犯囚ニ對シ特別ノ恩典ヲ附與スル法制ヲ設ケタルナリ此ノ法制ニ依レハ一方ニ於テハ犯人ヲ罰シテ恕スル所ナリ一方ニ於テハ其刑ノ執行ヲ猶豫シテ犯人ヲシテ善良ニ遷ラシムルヲ以テ犯罪ハ必ス罰スヘキ法理ノ適用ヲ必要ナル限度ニ於テ止メタルモノナリ

第二十五條

左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

(註)本條ハ刑ノ執行猶豫ヲ受クル者ニ付テ規定シタルモノニシテ本條第一二號ニ記載シタル者ニシテ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得ルモノトス、情狀ニ因リトハ其犯人ニシテ犯罪ノ所爲カ情狀ヲ酌量スヘキ者ヲ云フ而シテ其情狀アル者ニシテ本條第一二號ニ記載シタル事由ナケレハ本條ノ規定ニ從ヒ猶豫ヲ受クルコトヲ得サル者ナリ本條カ此恩典ヲ與フルハ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ノ如キハ假令其以下ノ刑即チ罰金、拘留ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其犯情ノ輕微ナルヲ以テナリ又前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ノ如キハ七年ノ久シキ品行方正ニシテ再犯ノ情ナカリシ者ナルニ因ルナリ

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

(註)本條ハ執行猶豫ノ取消ニ關スル規定ニシテ其取消スヘキ原因ハ左ノ三トス

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルコト
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ノ爲メ猶豫期間内禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルコト此場合ニハ猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪アリシヲ包藏シタルモノナラン即チ前裁判ヲ受ケタル際ニ包藏シテ猶豫ノ言渡ヲ受ケタル後ニ發見シタルモノナリ
- 三 猶豫ノ言渡後ニ至リ第二十五條第二號ノ要件ヲ具備セサル者ナルコト發覺シタルコト即チ猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年ヲ經過セサル場合ニ於テ其事由猶豫期間内ニ發覺シタルコト

以上三個ノ原由ノ一アル場合ニ於テハ裁判所ハ猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキモノトス是ハ此等ノ犯人ニ對シテハ其刑ノ執行ヲ猶豫スル必要ナケレハナリ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期

問ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

(註)本條ハ刑ノ執行猶豫ノ效力ヲ規定シタルモノナリ
刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者其言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ其刑ノ執行ハ永久ニ之ヲ免除スルモノトス此場合ニハ初メヨリ犯罪行為ノナキ者ト同シキ者トナル

刑ノ執行猶豫ノ效力ニ關スル法律ノ規定ニ二アリ一ハ刑ノ言渡ノ效力ヲ消滅セシムルモノニシテ一ハ刑ノ執行ノミヲ免除スルモノトス

前ニ述ヘタルカ如ク罰金刑ニ付テハ執行猶豫ノ規定ハナシ若シ猶豫ノ效力トシテ刑ノ言渡ノ效力ヲ消滅セシムトセハ比較的重キ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ全ク無垢ノ人タルヲ得ルニ拘ハラス比較的輕キ罰金ニ處セラレタル者ハ何ノ場合ト雖モ其言渡ノ效力ヲ消滅セシメテ全ク無垢ノ人トナルノ途ナシ是レ改正法カ執行猶豫ノ效力ヲ制限シタル所以ナリ

第五章 假出獄

(註)舊法ハ第五十三條ニ於テ獄則ヲ遵守シ悛改ノ狀アルコトヲ假出獄ノ條件ト爲スト雖モ悛改ノ狀アル者ハ畢竟獄則ヲ遵守ス可キヲ以テ改正法ハ單ニ改悛ノ狀アルコトノミ之ヲ要件ト爲シタリ

假出獄ノ制ハ二ケノ旨趣アリ一ハ囚人ノ遷善改過ヲ獎勵シ一ハ放免後自活ノ準備ヲ爲サシ

メントスルニ在リ要スルニ徒ラニ人ヲ苦メスシテ其再犯ヲ防止セントスルヲ目的トスルニ在リ蓋シ囚人ニシテ善ク獄則ヲ守リ前非ヲ悔イ品行ヲ改ムルモ其刑期間決シテ獄舎ヲ出ツルコトヲ得ラレストスルトキハ無期刑ノ囚人ハ勿論有期刑ノ囚人ト雖モ其刑ノ長キ者ハ遂ニ自暴自棄ニ陥リ益々不良ノ念ヲ增長スルニ至ルコトナキヲ保シ難シ故ニ改悛ノ實アル者ニハ假出獄ノ恩典ヲ與フルコト、シ以テ其善ニ遷ルコトヲ獎勵スルヲ必要トス又久シク獄舎ニ在リテ自由ヲ拘束セラレタル者ヲ急ニ完全ナル自由ヲ得セシムルトキハ動モスレハ放逸ニ流レ遂ニ又罪惡ヲ犯スニ至ルコトアルヲ免レス故ニ幾分ノ自由ヲ拘束シ漸次ニ普通ノ生活ニ移ラシムルヲ得策トシテ此規定ヲ設ケタルモノナリ

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期

刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政

官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

(註)假出獄ハ行政處分ヲ以テ行フコトヲ得ルモノトス即チ内務司法兩大臣ニ於テ假出獄ヲ許スモノトス而シテ之ヲ許スニハ有期ノ刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後之ヲ許スモノトス舊法ハ有期刑ニ付テハ其刑期四分ノ三無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スノ規定ナリシカ囚人ニシテ改悛ノ狀見エタレハ斯ノ如ク長キ期間在監セシムルノ必要ナキノミナラス前ニ述ヘタル如ク却テ囚人ヲ惡風習ニ陥ラシ

ムルノ害アルヲ以テ改正法ハ大ニ之ヲ短縮シタリ

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
- 四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

(註)本條ハ假出獄ノ處分ヲ取消サル、場合ヲ規定シタルモノナリ其原由タルモノハ第一號ヨリ第四號ニ至ル原由アルトキニ限ルモノトス

舊法ハ假出獄ノ取消ノ原由ヲ更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルコト、爲スト雖モ改正法ハ尙ホ他ノ原由ヲ加ヘタリ但シ出獄中ノ日數ヲ以テ刑期ニ算入セサルコトハ舊法ト同一ナリ

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキトス、故ニ罪ヲ犯スモ罰金

ノ刑ニ該ル者ハ出獄スヘキ者ニアラサレハ本條ノ原由トナラサルコトハ言フ俟タサルナリ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ既ニ假出獄ヲ許サル、ニ至リタル前ニ他ノ罪ヲ犯シタルニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ前項ト同シク假出獄處分ヲ取消サル、原由トナルモノトス是レ假出獄中ト雖モ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付テハ其必要アルモノトス

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレ其刑ヲ執行ス可キ者ニ付テハ後ノ刑ニ付キ假出獄ヲ許ス可キ理由ナケレハナリ

四 改正法ハ別ニ假出獄取締規則ノ制定ハ必ス設ケラル、モノトシテ此規定ニ違背シタルコトキ亦之ヲ取消ノ一原由ト爲ス必要ヲ生シタリ

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

(註)本條ハ舊法ニ無キ所ノ規定ニシテ改正法カ新タニ設ケタル規定ナリ

本法ハ既ニ禁錮及ヒ懲役ニ付キ執行猶豫ノ恩典ヲ附與シタルヲ以テ比較的輕キ拘留ニモ亦一種ノ恩典ヲ附與セサルコトヲ得ス是ヲ以テ本條第一項ニ於テハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ執行猶豫ノ如キ複雑ナル規定ニ依ラス何時ニテモ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコト得ルモノト爲シタリ

第二項モ亦同一ノ理由ニ基ツキタル規定ニシテ罰金又ハ科料ヲ完納スルコトヲ得サル爲メ留置セラレタル者ニ對シテモ亦行政處分ヲ以テ直ニ其執行ヲ免除スルコトヲ得ト爲シタルナリ

第六章 時 效

(註)本章ハ舊法ニ用ヒタル期滿免除ノ語ヲ改メテ時效ト爲シタルナリ其意義ニ於テハ異ナル所アルニ非ス唯時效ノ語ハ民法其ノ他ノ法令ニ用ヒタル語タルヲ以テ之ヲ採用シタルノミ
時效ハ公訴ニ付テノ時效ト刑ノ執行ヲ免ル、時效トアリ公訴ノ時效ハ犯人逃走シ又ハ他ノ事故アリテ刑ノ執行ヲ免レテ法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因リ全ク其刑ノ執行ヲ免ル、ヲ謂フ

此ノ時效ヲ設ケタル理由ハ公訴ノ時效ニ付テハ犯罪後多クノ年月ヲ經タル爲メ世人已ニ其犯罪アリタルコトヲ遺忘シ又之ニ刑罰ヲ加フルノ必要ナキト證據已ニ湮滅シテ復タ之ヲ收拾スルニ由ナク公訴及ヒ裁判ノ手續ヲ盡スモ其效ナシトスルニ由ル亦タ裁判確定後其執行

ヲ受ケスシテ多クノ年月ヲ經タルトキハ世人其ノ判決アリタルコトヲ遺忘シ隨テ刑罰ヲ執行スルノ必要ヲ見サルニ至ルハ猶ホ犯罪後多クノ年月ヲ經タルモノハ公訴ノ必要ナキニ至ルト同一ナリ

然レトモ公訴ノ提起ナキ場合ニ犯罪ヲ遺忘スルト已ニ確定判決アリタル場合ニ犯罪ヲ遺忘スルトハ自カラ其期間ニ長短ノ差ナキ能ハス第一ノ場合ニ於テハ犯罪ノ事實不確ナルヲ以テ世人ノ遺忘モ速カナルヘキモ第二ノ場合ニ於テハ判決ニ依テ其事實ヲ社會ニ發表セラレ、カ故ニ世人永ク之ヲ記憶スルモノトスルヲ當然ナリトス故ニ第三十一條ト第三十二條トニ依リ區別シテ規定シタリ

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

(註)本條ノ規定ハ單ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ未タ其言渡ハ確定シタルモノニアラサル場合ヲ云フ故ニ法文ニ其執行ノ免除ヲ得トアルナリ次條ノ刑ノ言渡確定シタル後其執行ヲ受ケサル者ハ時效カ完成シテ當然執行ヲ免ル、モノナレトモ本條ノ場合ハ未タ裁判確定セサルモノナレハ裁判所カ免除ヲ爲サ、レハ當然之ヲ免ル、モノニアラス

第三十二條 時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年

- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

(註)本條ハ或ル期間ヲ經テ時效ノ完成スヘキ刑ノ種類ヲ規定シタルモノナリ

時效ノ期間ハ刑罰ニ處セラルヘキ即チ犯罪發生ノ時ヨリ起算スルモノニアラスシテ刑ノ言渡確定シタル後ヨリ本條ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ期間滿了シテ刑ヲ免ル、モノトス然レトモ公訴ニ付テノ時效即チ公訴ノ提起ナキ場合ハ犯罪發生ノ時ヨリ起算スルモ已ニ確定判決アリタル場合ニ於テハ自カラ其期間ニ長短ヲ設ケサルヘカラス

罰金、科料、沒收ニ付テハ檢事カ既ニ其徵收ニ着手シタルト否トヲ問ハス其裁判確定ノ日ヲ以テ時效ノ起算點ト爲スヘシ或ハ曰ク罰金科料ニ付テハ完納ノ期限アリ故ニ其期限ノ滿了ノ日ヲ以テ起算點ト爲スヘシト然レトモ此期限ハ罰金ヲ納ムルコト能ハサル者ニ付テ刑ニ換ヘル處分ヲ爲ス期限ニシテ其期限内ト雖トモ檢事ニ於テ徵收ヲ爲スコトヲ得ヘキ以上ハ其徵收ヲ得ヘキ日ヨリ起算セサルヘカラス

死刑ニ付テハ其裁判確定スルモ法律ハ直チニ之ヲ執行スルコトヲ許サス必ス司法大臣ノ命

合ヲ待ツヘキモノト爲セリ左レハ其裁判確定ノ後司法大臣ノ命令前犯人逃走スルモ其執行ヲ逃レタリト謂フヘカラスカ如シ然レトモ其執行ヲ受クヘキハ裁判確定ニ因テ已ニ定マリテ之ヲ動かスヘカラス唯法律ハ慎重ヲ以テ直チニ死刑ヲ執行セサルノミ司法大臣ノ命令ヲ請フハ執行ニ關スル一ノ手續ニシテ裁判確定スルヤ直チニ之ヲ行フヘキモノトス然ラハ即チ裁判確定ノ日ハ即チ執行ニ着手スルノ日ニシテ犯人ノ逃走ハ其前後ニ在ルヲ問ハス此日ヨリ執行ヲ逃レタルモノトスヘシ以上述フル所ハ對席判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ナレトモ缺席裁判ニ付テハ然ラストスルヤ否ヤハ左ニ之ヲ述ヘシ

缺席裁判ハ被告人ニ於テ故障又ハ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ法律ニ定メタル手續ヲ以テスルニ非サレハ確定セサルモノトス然ルトキハ其手續ノ完全スルニ非サレハ此裁判ヲ以テ宣告シタル刑ハ執行力ヲ生セス隨テ時效カ完成スルコトナシ此點ニ付テハ改正法ニハ規定ナキヲ以テ舊法ノ規定ニ依ルトキハ『期滿免除ハ云々缺席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス』ト爲シ缺席裁判ヲ以テ宣告シタル刑モ亦總テ期滿免除ニ罹ルコト、爲シタリ是レ缺席ト云フモ一旦裁判ヲ以テ刑ヲ宣告シテヨリ多クノ年月ヲ經過シタルモノハ社會已ニ之ヲ遺忘シ隨テ國家其刑ヲ執行スルノ必要ナキコトハ對席裁判ノ場合ト異ルコトナカルヘシ唯タ此ノ場合ハ刑ノ時效ヲ得タル上ハ缺席裁判ハ其宣告ノ日ニ溯リテ確定シタルモノト謂ハサルヘカラス隨テ被告人ハ復タ故障又ハ控訴ヲ爲シ以テ其權利ヲ主張スルニ由ナキモノトナルノ不都合ヲ生スルナリ

第三十三條 時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

(註)時效ハ判決確定後犯人逃走シテ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ニ付テ設ケタル規定ナレハ正當ニ其執行ヲ免レタル日數ハ之ヲ時效期間ニ計算スルコトヲ得ス故ニ刑ノ執行ノ猶豫若クハ其停止又ハ假出獄中ノ日數ハ之ヲ時效ノ期間ニ算入セサルコトヲ明カニシタルモノナリ刑ノ執行停止トハ前ニ述ヘタル如ク死刑ニ付テ司法大臣ノ命令アルマテ其執行ヲ停止シ又懐胎ナル婦女ニ對シテハ分娩後一百日ヲ經ルマテ此刑ヲ行ハストシ及ヒ大祀令節國祭ノ日ハ此刑ヲ行フコトヲ禁スト定メタルモノ即チ是ナリ

第三十四條 時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス
(註)本條ハ時效ノ中斷ノ規定ナリ時效ノ中斷トハ是迄進行シツ、アル時效即チ時ノ經過ノ效力カ止マリテ其幾分進行シタル時效ハ全ク消滅スルコトヲ云フ例ヘハ十年ノ時效ニ因リ刑ノ執行ヲ免ル、犯人アルトキ今マテ進行シタル時效ハ九年ニ達シタルモ其九年ノ經過ハナキモノトナリテ更ラニ是ヨリ十年ヲ經過セサレハ時效ニ罹ルコトナキニ至ルモノナリ而シテ時效ノ中斷ハ刑ノ執行ニ付テ犯人ヲ逮捕シタルヲ以テ中斷ノ原因トスルナリ舊法ニ

ハ檢事ヨリ逮捕狀ヲ發スルコトヲ以テ中斷ノ原因ト爲シタルヲ以テ逮捕狀ノ發布ノミニヨリ時效ハ中斷スルコト、ナリタレトモ其理由十分ナラストシテ之ヲ廢シタルナリ
本條第二項ハ罰金、科料及ヒ沒收即チ財産ヲ徵收スヘキ刑ノ時效ノ中斷方法ヲ規定ス此等ノ刑ハ若シ其全數ヲ分テ數回ニ分納セシメントスレハ未タ之ヲ完納セサル前ニ時效ノ成就スルコトアルヲ以テ本條ハ此等ノ場合ニハ時效ハ刑ヲ執行セラル、行爲ニヨリ中斷セラル、モノトス故ニ時效ハ最後ノ執行々爲ヨリ更ニ其進行ヲ始ムヘキモノトス例ヘハ五回ニ分納スルモノハ三回目ニ執行ヲ免レタル者ノ時效ニ付テハ三回目ヨリ時效ハ進行ヲ始ムルモノトスルカ如シ

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

(註)舊法ハ不論罪及ヒ減輕ノ語ヲ以テ事實上罪ト爲ラサル場合及ヒ罪ト爲ルモ其刑ヲ免除シ若クハ法律上之ヲ減輕スル場合ヲ包含セシメタリ然レトモ其意義明了ナラサルヲ以テ改正法ハ之ヲ改メテ罪トナラサル場合ハ之ヲ犯罪ノ不成立トシ刑ヲ免除シ若クハ減輕スル場合ヲ以テ刑ノ減免ト爲シタリ

犯罪ノ無責任ニハ二ケノ場合アリ即チ左ノ如シ

第一無能力

第二權利ノ執行即チ是ナリ

第一ノ場合ハ犯罪ノ事實ヲ行フト雖トモ之ヲ行ヒタル本人ニ於テ其責任ヲ負ハサル原因ア

ルモノヲ謂フ凡ソ人ノ行爲ハ其意思ト身体ノ自由ト相一致セザレハ其行爲ニ付テハ責任ナキモノトス意思ハ自由ナルモ身体之ニ從ハサルトキハ其責任ヲ負フヘキモノニアラス故ニ犯罪ノ責任ヲ論スルニハ其行爲即チ身体ノ舉動カ必ス自由ノ意思ニ因リテ構成セサルヘカラス犯罪ニハ意思ノ缺乏スル場合ト身体ニ強制ヲ受ケテ自由ヲ失フタル場合トアリ此二個ノ場合ニ犯罪ハ其ノ責任ナキモノトス又意思ノ自由アルモ其意思カ辯別心即チ知識アルコトヲ要ス其知識トハ彼ニ對スル我ナルモノアルコトヲ知リ我カ爲ス所他人又ハ外物ニ對シ如何ナル結果ヲ與フルカヲ知リ又我カ爲ス所是ナルカ非ナルカヲ知ルヲ云フ意思ノ自由トハ已ニ此知識アリテ我アルコトヲ知リ又我カ爲ス所非ニシテ他人ニ對シ惡結果ヲ與フルコトヲ知リナカラ故ラニ其非ヲ遂クルヲ自由アル意思ト云フナリ縱令ヒ知識ヲ具有スルモ他ヨリ強制セラレテ已ムコトヲ得スシテ或ル所爲ヲ行フカ如キハ我之ヲ爲スト爲サ、ルトヲ擇フノ自由ヲ有セス全ク他人ノ爲メニ我カ心ニモナキ事ヲ行ハセラル、モノナリ故ニ本人ニ於テ其責ヲ負フヘキモノニアラス要スルニ知識ト身体ノ自由ヲ以テ罪トナルヘキ事ヲ行フトキハ本人ヲシテ其責ニ任セシムヘク

第二權利ノ執行ノ場合 知識アリ自由アリ且ツ其事ノ通常ノ場合ニ於テハ犯罪タルヘキモノナルコトヲ知リテ之ヲ行フト雖トモ必スシモ罪責ヲ負ハシムヘキモノニ非ス是レ犯罪ハ權利ノ侵害ニ因テ成立スルモノナレハ權利侵害ノ事實ナケレハ犯罪アリト爲スコトヲ得サルナリ如何ナル場合ヲ權利侵害ノ事實ナシト爲スヘキカ否權利侵害ノ事實アルモ本人其責

ヲ負ハサルモノトスヘキカ本人其事ヲ行フノ職務若クハ權利アリテ行フタル場合即チ是ナリ之ヲ分テ長官ノ命令ニ從ヒ職務ヲ以テ行フ場合ト正當防衛ノ場合トスルナリ

右二ケノ場合ニ於テ本人ノ罪責ナキハ自由ヲ欠ク場合ト毫モ異ナル所ナキモ其原因同シカラサルカ故ニ結果ニ至リ彼此ノ間差別ナキコト能ハス即チ彼無能力者ニ在テハ刑事上ノ責任ナキモ民事上ノ責任ハ之ヲ負フコトアリ權利執行ノ場合ニ在テハ現實ノ損害ヲ生スルモ決シテ其賠償ノ責ニ任セシメス又彼ニ在テハ其本人一人ノミ責任ヲ免カレ其共犯者タル者ハ罪責ヲ負フヘキコトアルモ權利ノ執行ニ在テハ本人ハ勿論他人其事ニ與カルモ決シテ其責任ナシ要スルニ無能力者ニ在テハ罪責ノ原因カ能力ノ欠ケル所アルニ因リ法律上其罪ヲ論セサルニ過キス權利ノ執行者ニ在テハ本人ニ職務若クハ權利アルニ因リ責任ナシト爲スナリ是レ權利ノ執行ハ其行爲正當ナルカ故ニ刑罰ノ責任ヲ加ヘサルモノナリ

權利ノ執行ト被害者ノ承諾トヲ混同スヘカラス權利ノ執行ハ法律ノ命令ニ出ツ被害者ノ承諾ハ一人ノ意思ニ出ツ承諾ヲ得タル行爲ハ犯罪ヲ構成セスト云フ即チ人ノ物ヲ竊取スルモ其人豫メ承諾ヲ與ヘタル場合ノ如キハ罪責ナシ此場合ハ其物ヲ讓與セラレ又ハ無主物ヲ占取シタルト異ナルコトナケレハナリ且ツ一人ノ財產ニ對スル罪ニシテ身體ヲ害スルモノニ非サルカ故ニ本人ノ承諾ニ出ツル場合ハ犯罪ヲ構成セス然レトモ身體生命ニ對スル犯罪ハ絕對ニ被害者ノ承諾ハ犯罪ヲ消滅セシムルノ效ナキモノトス例ヘハ自殺者ノ委囑ヲ受ケテ手ヲ下ス者ヲ罰シ承諾ヲ得テ人ヲ殺傷スル者ハ皆之ヲ罪トスルカ如シ唯タ被害者ノ意

思ニ反シテ之ヲ行フニ因リテ成立スル犯罪ニ付テハ被害者ニ於テ其權利ノ侵害ヲ許容スル
トキハ犯罪ヲ構成セス
又被害者ノ承諾ニハ犯罪前後ニ依リテ異ナル所アリ犯罪前ニ承諾ヲ得タレハ罪ト成ラスト
雖トモ犯罪後ニ至リテ被害者ノ承諾ハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス何トナレ
ハ公益ニ關スル犯罪ハ其構成シタル後ニ至テハ既ニ一私人ノ意思ヲ以テ奈何トモスル能ハ
サルモノナレハナリ

第二十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

(註)本條ハ舊法ニ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル行爲ハ責任ナキ旨ヲ規定シ
タルニ付キ其規定カ簡短ニ過キ却テ疑ヒヲ生スルカ故ニ本條ヲ規定シタルモノナリ
職務ヲ以テ爲シタル行爲ノ責任ハ單ニ本屬長官ノ命令ニ從ヒ爲ス場合ニ限ラス一般ニ法令
ニ因リ又ハ正當ノ業務ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テ規定シタルナリ而シテ本條ノ本屬長官ノ
命令ハ正當ノ命令ニ非サル場合ヲ規定シタルモノト解釋スル者アリ語ヲ換テ云ハ、本屬長
官ノ命令ハ如何ナル命令ヲモ下官ノ者ハ之ニ從ハサルヘカラストスル者アルハ誤リナリ尤
モ上官ノ命令ハ下官ニ於テ其ノ職權内ノ行爲ニ屬スル事ナルトキハ其命令カ違法ナルモ下
官ノ責任ニアラサルコトハ明カナリ然レトモ本屬長官ハ天皇ノ大權ニ因リテ任命ヲ受ケ法
令ニ規定スル範圍内ニ於テ其職務ヲ行フニ過キサルナリ故ニ其法令ノ規定以外ニ於テハ本
屬長官タルノ權利アル者ニアラス故ニ法令以外ノ命令ハ是レ本屬長官ノ命令ニ非スシテ單

ニ本屬長官ノ地位ニ在ル一箇人ノ命令ニ過キサルナリ

改正法カ本條ヲ設ケタル趣意ハ本屬長官ノミナラス一般ニ法令ニ因リテ爲シタル行爲ハ其
罪責ナシトシテ其範圍ヲ廣クシタルナリ即チ何人ニテモ法令ノ命令ニ因リ爲シタル行爲ト
云フ意義ニ解釋セサルヘカラス

正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲トハ按摩手カ人ノ肩腰ヲ打チ醫師カ人ノ手足ヲ切斷スルノ
類ニシテ其業務上爲スヘキ行爲ナルヲ以テ罪トナラス然レトモ醫師ハ施術上人ヲ死ニ致シ
タルモ罪トナラサレトモ無謀ナル行爲ハ其罪責ヲ免ル、コトヲ得ス例ヘハ自己ノ研究上ニ
患者ノ身体ヲ切斷スルカ如キ場合はナリ

第二十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲 メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ輕減又ハ免除スルコ
トヲ得

(註)本條ハ正當防衛ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

權利ノ侵害ハ國家ノ公權ニ因リテ之ヲ防クヘキモノナルモ其侵害カ急迫ニシテ國家ノ力ニ
依ルニ遠アラサルカ又ハ之ヲ請求スヘカラサル場合ニ於テハ徒ラニ侵害ヲ堪ヘ忍フヨリ他
ニ道ナケレハ必ス自カラ進ンテ其侵害ヲ防衛セサルヘカラス之ヲ名ケテ正當防衛ト謂フ元

ト國家ノ防衛權ハ各人ノ防衛權ノ代理ヲ爲ス者ナリ代理人ノ有スル權利ニシテ本人自カラ之ヲ行フコト能ハサルノ理ナキハ明白ナリ是レ侵害急迫ノ場合ニ於テ自カラ行フ所ノ防衛ヲ以テ正當ノ權ナリト爲ス所以ナリ

正當防衛タルニハ左ノ場合ニ限ルモノトス

- 一 急迫不正ノ侵害ニ對スルコト
- 二 自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ナルコト
- 三 防衛ノ程度ヲ超エサルコトヲ要ス

第一ハ侵害カ急迫ニシテ且ツ不正ナルコトヲ要ス急迫トハ身體生命ニ危害ヲ加フル場合ニシテ其他ノ權利侵害ノ場合ハ本條ノ罪ニアラス本條ノ場合ハ即チ例ヘハ暴行ヲ以テ身體ヲ傷害スル場合ニシテ不正ノ行爲カ現ニ身體ニ加ヘラル、ヲ云フ若シ我ニ加フル所ノ侵害ニシテ正當ノ理由ヲ有センカ我ハ此侵害ニ對シテ正當防衛ノ權利ヲ行フヲ得サルナリ例ヘハ巡查カ令狀ヲ執行スル場合ニハ縱令ヒ暴力ヲ用フルモ其執行ヲ受クル者ハ決シテ之ニ抵抗スルノ權ナキモノナリ

第二正當防衛ハ獨リ自己ニ對スル場合ノミナラス他人ニ對スルトキニモ其行爲カ不正即チ暴行ニ出ツル場合ハ他人ノ爲メニモ其暴行者ニ對シテ正當防衛ノ權ヲ行フコトヲ得ルモノトス而シテ此防衛ハ已ムコトヲ得サル場合ニ限ルナリ即チ侵害カ急迫ニシテ之ヲ避クルコトヲ得サル場合ニシテ若シ急迫ニアラスシテ避クルコトノ出來得ル場合ハ國家ノ力ニ依リ

之カ防衛ヲ爲スモ未ダ遲シトセサルナリ

第三防衛ノ程度ヲ超エサルニトヲ要ス例ヘハ輕微ノ毆打ヲ受ケタル場合ニ暴行人ヲ殺シタルカ如ク又危害ハ已ニ去リテ後チ之ヲ追フテ暴行ヲ加フルカ如ク又例ヘハ竊盜ノ侵入シタルモ家人ノ聲ニテ逃ケ出テ、何物モ竊取セサル場合ニ之ヲ追窮殺傷シタルカ如キハ皆是レ程度ヲ超エタルモノナリ然レトモ此等ノ場合ニハ其情狀ニ因リ或ハ減輕又ハ免除スルコトヲ得ルモノトス

第三十七條

自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

(註)本條ハ危難防衛ノ場合ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條カ危難防衛ノ行爲ト爲スニハ左ノ場合ニアルモノトス

- 一 現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出タルコト
- (イ)危難ナルコトヲ要シ其危難ハ現在ニシテ過去又ハ將來ノ危難ニアラサルコトヲ要

- (ロ) 已ムヲ得サルコトヲ要ス即チ其危難ヲ避クルニ道ナキ場合ヲ謂フ
- 二 自己又ハ他人ノ生命、身体、自由若クハ財産ニ對スル危難ナルコトヲ要ス
- 三 已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントスル害ノ程度ヲ超エサルコトヲ要ス

第一ノ場合 危難トハ舊法第七十五條ニ記載シタル天災又ハ意外ノ變ニ因リ避クヘカラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親族ノ身體ヲ防衛スルニ出テタル所爲トアル是ナリ故ニ前條ニ述ヘタル正當防衛ノ場合トハ異ナリ天災ハ自然ヨリ來ル總テノ災害ヲ謂フ而シテ其豫メ知ルコトヲ得ルト得サルモノトヲ問ハス、意外ノ變トハ人ノ爲ス事變ニシテ豫メ知ル可カラサルモノヲ謂フ即チ暴動戰亂等ヲ謂フ

危難ノ避クヘカラサルトハ如何ナル場合ヲ云フヤ例ヘハ海上忽チ颶風ニ遇ヒ船舶將ニ覆没セントスルハ天災ナリ而シテ爲メニ船舶ハ覆没シ乗組員ハ沈溺スルニ至リ此ノ場合ハ我モ人モ之ヲ救フノ途ナク所謂ル避クヘカラサル危難ナリ此ノ如キ場合ニ於テ如何ナル犯罪ヲ行ヒテ身体ヲ防衛スルモ法律ハ之ヲ尤ムルコトナシテ其罪責ヲ問ハサルナリ

此ノ危難ハ現在ニシテ將來ノモノニアラス將來ノ危難ハ之ヲ避ケルニ途アレハナリ現在ノ場合ニシテ已ムコトヲ得サル即チ前例ノ場合ノ如ク自己ノ身ヲ救フ爲メニハ之ヲ爲サ、ルヘカラサル場合ニシテ之ヲ爲サ、レハ自己ハ危難ニ陥リテ救フコト能ハサルニ至ルヲ云フ

フ

第二危難ハ自己又ハ他人ノ生命、身体、自由若クハ財産ニ對スル危難ナルコトヲ要ス故ニ此他ノ權利侵害ノ場合ハ本條ノ罪ト成ラス而シテ此ノ危難ノ範圍即チ如何ナル危害ニ關スル場合ナルカラ云ハ、生命身体、自由ニ係ル危難ノ場合ニ限ルモノトス故ニ前ニ例シタル船舶ノ沈没シタルカ如キ溺死スルニ決シタル場合ヲ云フ船舶ハ沈没シタルモノ一死ヲ免レ上陸シタル者カ寒氣ニ堪ヘラレヌヲ以テ他人ノ衣服ヲ奪ヒタルカ如キ所爲ハ危難防衛ノ手段ナリト謂フヘカラス

財産ニ對スル防衛權ハ所有權ノ安全ヲ維持スルノ方法ニ外ナラサルヲ以テ此侵害ハ所有者自カラ之ヲ防衛スルハ當然ナルコト猶ホ身体ニ對スル場合ト同一ナリ而シテ如何ナル場合ヲ財産ニ對スル危難防衛ナリトスルヤ今舊法第三百十五條ノ規定ニ依レハ(一)財産ニ對シテ放火其他暴行ヲ爲スヲ防止スルニ出タル時(二)盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スニ出タル時(三)夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時トアル是ナリ此等ノ場合ハ重要ナル財産ニ對スルモノナレハ其危難ヲ防止スル爲メニハ法律之ヲ許シテ其罪ヲ問ハサルナリ

第三已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ナリト雖トモ其行爲ヨリ生シタル害ハ其避ケントスル害ノ程度ヲ超エサルコトヲ要ス是レ法律ハ防衛權ヲ許スト雖モ防衛權ノ濫用ニ出ツルヲ許サス故ニ防衛カ其受クル危害ヨリ大ナル行爲ニシテ程度ヲ超エタル時ハ法律ハ之ヲ無罪

○第一編總則○第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

責ト爲サス只タ其情狀ニヨリ其刑ヲ減輕又ハ免除スルモノトシタリ
本條ニ於テ職務上特別ノ義務アル者ハ之ヲ適用セサル者トス即チ前ニ例シタル難破船ノ場
合ニ船長等カ自己ノ生命ヲ捨テ先ツ乘客ノ危難ヲ救フヘキニ却テ乘客ヲシテ危難ニ陥ラシ
メ自己ヲ救ヒタルカ如キハ無罪責ノ限リニ在ラスト爲シタルナリ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定ア
ル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコ
トヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因
リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(註)本條ハ無意犯ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

無意犯トハ罪ヲ犯スノ意ナクシテ罪ヲ犯シタル場合ニシテ本人ニ於テ其結果ヲ生スルコト
ヲ豫知セサルハ勿論偶然ニ出來タル事カ罪トナルヘキ行爲ニ歸スルモノナリ
凡ソ人ノ所爲ヲ行フヤ知覺精神ヲ喪失シタル場合ヲ除ク外ハ必ス其所爲ヲ行フノ意思アリ
テ之ヲ行フモノナリ本人其罪ヲ犯スノ意思ト其結果ヲ生セシメントノ希望アリテ爲シタル
モノヲ以テ犯罪ノ意思アリタルモノト謂フヘキナリ然ラハ則チ其所爲ヨリ生シタル結果ニ

付テハ責任ヲ負ハシムヘキカ即チ其結果ニシテ罪トナルヘキ事ナラハ本人カ其意思アリテ
之ヲ犯シタルモノト看做シ刑罰ヲ科スルコトヲ得ヘキカ決シテ然ラス本人ニ於テ豫メ其結
果ヲ生セシメントトヲ希望シ若クハ其ノ結果ノ生スヘキコトヲ豫知シタルトキハ其意思ト
結果ト相連絡スルカ故ニ犯罪ノ意アルコト明カナレトモ之ニ反スルトキハ其結果ハ意外ニ
偶然ニ生シタルニ過キス此場合ニ於テハ犯罪ノ意思アリタリト謂フヘカラス例ヘハ短銃ニ
彈丸ナキモノト思ヒテ戲レニ人ニ向テ發スル眞似ヲ爲シタルニ豈圖ランヤ彈丸中ニ在リテ
過テ人ヲ殺傷シタルカ如キ又例ヘハ獵夫山ニ入り獸ヲ撃タント欲シテ發射シタルニ彈丸其
獸ニ中ラスシテ偶マ其處ヲ通行セシ人ニ中リテ因テ死傷セシメタリ此場合ハ前例ト異ニシ
テ發射スルノ意思アリテ發射シタルニ相違ナキモ此ノ如キ結果ヲ生スルコトハ豫知シタル
モノニ非ス故ニ意思アリテ人ヲ死傷ニ致シタルモノト爲スヲ得ス

本條但書ニ罪ヲ犯ス意ナキノ行爲モ法律ニ特別ノ規定アル場合ハ本條ヲ適用スルコトヲ得
スト爲シタリ其法律ニ特別ノ規定アル場合トハ過失殺傷、失火其他違警罪ノ如キハ此例外
トシテ之ヲ無意犯ト稱スルモノトス無意犯ニ付テハ法律ハ犯罪ノ意思アルコトヲ要セサル
ニ止マリ其意思ナキコトヲ必要トセス故ニ意思アリテ之ヲ犯スヘキヤ勿論ナリトス但シ意
思アルカ爲メ別段ノ罪ヲ構成スル場合ハ此例ニ在ラス

罪本ト重カルヘクシテ犯ストキ之ヲ知ラサル場合トハ事實ノ錯誤ニ出テタル犯罪ヲ云フ即
チ事實ノ錯誤ハ犯人ノ責任上其輕キヲ以テ論セサルヘカラス例ヘハ處女ナリト信シテ情ヲ

通シタルニ有夫ノ婦ナリシトキ又ハ常人ナリト信シテ自己ノ祖父母、父母ヲ殺シタルカ如キヲ云フ而シテ此ノ如キ場合ハ犯人ノ責ハ之ヲ免ル、コトヲ得スト雖モ加重ノ情狀ヲ構成シタルハ犯人ノ錯誤ニ出テタル所ナレハナリ

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ストハ日本國ニ在住シ日本ノ法律ニ支配サル、者ニシテ日本ノ法律ヲ知ラスト云フコトヲ得サルモノトシテ刑罰ヲ免ル、コトヲ得ス然レトモ多數ノ人民ニシテ法律ヲ知ラサル者アラン否之ヲ知ラサル者却テ多キハ今日ノ狀態ニシテ將來モ亦恐ラクハ然ルナラン而シテ法律ヲ知ラサル者ニ對シ其不知ヨリ生スルコトヲ責ムルハ酷ナルニ似タレトモ頒布シタル以上ハ之ヲ知ラサルヘカラストシ若シ知ラサル者其責ナシトセンカ之ヲ知レル者モ知ラサリトシテ其責ヲ免ル、ニ至リテ法律ハ終ニ徒法ニ屬スルコト、ナル去レハ法律ハ各人一個ノ意ヲ以テ之ヲ左右スルコトヲ許サス故ニ知ルト知ラサルト問ハス人民ニ對シテ遵守ヲ責ムルニ在リトス

本條但書ハ眞ニ法律ヲ知ラサル者ヲモ其知ラサル爲メ不幸ニシテ罪ヲ犯シタルモ其事實ニ於テハ憫諒スヘキ者ナキニアラサルヲ以テ裁判所ヲシテ其情狀ヲ見テ刑ヲ減輕スルコトヲ得セシムルモノトス

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス 心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

(註)本條ハ心神ヲ喪失シタル者ニ付テ無罪責ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

心神喪失者ト云フハ知覺力ヲ失フタル者即チ意識スルコト能ス從テ是非ヲ辨別シ難キモノト云フヘキ者ナリ此ノ心神喪失者ハ發狂人ノ如ク精神病者ヨリ來ルモノト又故ラニ酒ヲ飲ミタル爲メ醉狂者ノ如キ亦心神喪失者ナリ何レノ場合ニ於テモ其常態ニ異ナル場合ヲ云フ然レトモ醉狂ナル者ハ犯罪ノ意思アリテ勇氣ヲ酒力ニ借リテ其事ヲ實行シタル後チ責任ヲ免レンコトヲ圖リ犯罪ノ時ニハ泥醉シテ精神ニ障礙アリタリト云フ者ナキニアラサルヘシ此ノ如キ者ハ罪責アルノミナラス其情狀大ニ憎ムヘキモノトシテ之ヲ罰セサルヘカラス故ニ精神ニ障礙アリヤ否ヤハ其本人ニ於テ責任アルコトヲ知リ居リタルヤ否ヤニ在リ心神喪失者ニハ醉狂者ノ外ニ一時的ノモノト常態ニアル者トアリ一時的ノモノト雖モ心神喪失ノ間ニ爲シタル行爲ナルコト明カナルトキハ尙ホ犯罪ノ不成立ノ結果ヲ見ルナリ精神耗弱者トハ心神喪失者ニ非スシテ心神ノ發達十分ナラサル者ニシテ即チ是非ノ辨別力ヲ欠キタル所アル者ヲ云フ然レトモ心神喪失者ノ如ク全ク喪フタル者ニアラスシテ痴愚ノ如キ者はナリ

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

(註)舊法ハ瘖啞者ノ行爲ハ全ク之ヲ罰セスト規定シタルモ文明ノ今日ニ在リテハ此等ノ者モ教育ノ途アリテ普通ノ知識ヲ得ヘキ便宜ノ設ケアレハ多少犯罪ノ責任ヲ判別スル者アルニ至リタレハ全ク之ヲ罰セストスルヲ得ス故ニ新法ハ其情況ニ因リテハ減輕シテ之ヲ罰ス

ルモノトス然レトモ全ク責任ヲ辨セサル者ハ之ヲ罰セサルコト、ナシタリ

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

(註)十四歳ニ滿タサル者ハ未タ精神ノ發達十分ナラサルヨリ此等ノ行爲ハ法律上無責任ト爲シタルモノナリ幼者ノ責任年齢ニ付テハ各國同一ナラス是レ土地ノ氣候等ニ因リ其發達ヲ異ニスレハナリ我國ニ在リテハ舊法ハ責任年齢ヲ十二歳ト定メタリト雖モ舊法ハ古來ノ立法例ニ倣ヒタルモノニシテ古昔ハ幼年犯罪者ニ對シ懲治ノ方法十分ナラサルノミナラス刑罰ノ目的モ又今日ト同シカラサルヲ以テ極メテ責任年齢ヲ低クシタル者ナリ然リト雖モ近來生理學ノ發達スルニ伴ヒ幼者ノ智識ハ此ノ如ク速ニ發育スルモノニ非サルヲ知ルニ至リ從來ノ立法例ニ於ケル責任年齢ハ低キニ失スルモノトシテ幼年犯罪者ヲ懲治スル方法ノ備ハリタルヲ以テ舊來ノ立法例ヲ破リ責任年齢ヲ高メ十四歳ト爲シタリ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

(註)本條ハ犯人カ其罪カ未タ官ニ發覺セサル前ニ自首シタル場合ヲ規定シタルモノナリ法律カ自首ニ對シ其刑ヲ減輕スル理由ハ左ノ場合ニ在リトス

- 一 事未タ發覺セサル前ニ自首スルコト 犯罪事件ノ發覺セサル場合ト犯人ノ誰タルコト知レサル場合トニ於テ自首ノ效アリトス
 - 二 官ニ自首スルコト 自首トハ自カラ其犯罪ヲ官ニ申告スルモノニシテ其性質ハ告發ナリ唯タ告發ハ他人ヨリシ自首ハ本人ヨリスルノ差アルノミ左レハ自首トシテ有效ナルニハ通常告發ヲ受クルノ職權アル官吏即チ檢察又ハ司法警察官ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要ス而シテ舊法ニハ財産ニ對スル犯罪ニ付テハ被害者ニ首服スルヲ以テ相當官吏ニ自首シタルモノト同一ノ效アリトスト雖モ新法ハ之ヲ廢シテ被害者ノ告訴ヲ要スル者ニ付テハ官ニ自首スルモ官之ヲ處分スルコト能ハサルモノナレハ此犯罪ニ限り被害者ニ首服スルヲ以テ自首ノ效アルモノト改メタリ
- 又舊法ハ謀殺故殺ニ係ル者ハ之ヲ自首スルモ其效ナシトス其理由ハ人ヲ謀殺故殺スルモ即時ニ自首スルニ於テハ決シテ死刑又ハ無期徒刑ニ處セラル、コトナキヲ以テ謀殺故殺ノ犯人多キニ至ルノ弊害アルヲ保シ難シトスルニ在リ然レトモ改正法ハ罪ノ種類ヲ問ハス自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ルコト、シテ自首減輕ノ目的ヲ達セントスルモノナリ

第八章 未遂罪

(註)舊法ハ犯罪ノ實行ニ着手シタル後意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リテ之ヲ遂ケサルモノヲ以テ未遂罪トナセリ然レトモ一旦犯罪ノ實行ニ着手シタル後犯人ノ遂ケサリシ場合ニ於テハ其未遂ノ原因意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因ルト否トヲ問ハス總テ之ヲ未遂罪ト爲スヘキ

意外ノ障礙若クハ舛錯トハ例ヘハ人ヲ殺サント欲シ刀ヲ拔テ其人ニ迫リタル他人又ハ對手ノ爲メニ其刀劔ヲ奪ハレ因テ殺意ヲ遂クルコト能ハス又ハ其殺害ノ目的タル人ニ對シ發砲シタルモ銃丸命中セスシテ犯罪ノ效果ヲ生セサルノ類ヲ云フ

然ルニ改正法カ此趣旨ニ基ツキ犯罪ヲ遂クル目的ヲ以テ之ヲ達スル手段ヲ行ヒ之ヲ遂クルコト能ハサリシトキハ其原因如何ヲ問ハス總テ未遂罪ト爲スヘキ主義ヲ採リ舊法ノ如ク着手未遂若クハ缺效未遂ノ區別ヲ設ケス其處分ニ至リテモ必ス減輕スヘキモノト爲サスシテ一二情狀ニ因ルコト、爲セリ是未遂罪ノ結果タル危害ハ既遂罪ノ結果タル危害ニ比シ多少輕キモノナキニアラスト雖モ時トシテハ其犯情ノ惡ムヘキモノアルヲ以テ其刑ヲ減輕スルト否トハ一ニ之ヲ裁判所ノ判斷ニ任スコトヲ便宜トシタレハナリ然レトモ犯罪ノ實行ニ着手シタル後自己ノ意思ニ因リ之ヲ中止シタル者ハ社會ニ及ホス害惡少ナク且犯情モ亦憫察スヘキ所アルヲ以テ之ヲ罰スル場合ニモ一般ニ減輕スルモノトシ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得セシメタリ

刑法ニ於テハ犯罪ノ意思ト犯罪ノ事實ト二者全ク一致シタル場合ニ於テ始メテ刑罰ノ責任アルモノトス然ルニ之カ一致セスシテ尙ホ刑罰ノ制裁ヲ負ハシムルコトアリテ其場合ヲ二トス即チ其一ハ犯罪ノ意思ナクシテ唯タ犯罪ノ事實ノミヲ行ヒタル場合ハ過失罪トス其二ハ犯罪ノ事實ハ十分ナラサルモ犯罪ノ意思ハ充分ニ發生シタル場合はナリ未遂犯ハ即チ犯罪ノ事實ト犯罪ノ意思トカ齟齬シタル場合ニ於テ其犯罪ノ意思ノミハ確實ナルモノトス而シテ未遂犯ヲ構成スルニハ左ノ順序アリ

(一)犯人ガ一定ノ罪ヲ犯ス意思ヲ有スルトキハ之ヲ犯罪ノ發意ト謂フ(二)其犯罪ノ發意ヲ實行スルカ爲メニ必要ナル準備ヲ爲ストキハ之ヲ犯罪ノ豫備ト云フ(三)犯罪ノ豫備ヲ終リテ犯罪ノ實行ニ進ミ之ヲ行ヒ終ルマテ之ヲ犯罪ノ實行ト云フ未遂犯ハ此ノ實行ニ至リテ犯人意外ノ錯誤ニ因テ之ヲ遂ケサルヲ謂フナリ

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

(註)犯罪ノ實行ニ着手スルトハ如何ナル場合ヲ謂フカ、着手トハ必スシモ犯罪ヲ構成スル有形ノ行爲ヲ行フヲ要セス其一行爲ニ取掛リタルヲ以テ着手トス例ヘハ竊盜ヲ行フノ意ヲ以テ人ノ家宅ニ侵入シ財物ヲ搜索スルカ如キハ未タ手ヲ其財物ニ觸レサルモ竊盜ニ着手シタルモノニシテ即チ竊盜ノ未遂犯ナリトス
未遂犯ニ似テ異ナル所アルモノヲ不能犯ト謂フ一言ニ盡サハ未遂犯ノ原因ハ犯人ノ錯誤ニ在リ不能犯ノ原因モ亦犯人ノ錯誤ニ在リト雖モ未遂犯ノ錯誤ハ犯罪ノ手段ノ上ニ在リ不能犯ノ錯誤ハ犯罪ノ目的タル物体ノ上ニ在リ即チ不能犯ノ場合ハ其對手タル物体ノ正ニ生存

スルモノナリト信シタルニ其實生存セサルトキノ如キ例へハ家屋ノ一室内ニ目的ノ人アリト信シテ發砲シタルニ其人ノ居ラサリシカ如ク又例へハ懷胎セサル婦女ニ對シテ墮胎藥ヲ飲マシメタル場合ノ如シ

未遂罪中ニ中止犯ナルモノアリ犯人自己ノ意思ニ因リ實行ヲ中止シタル場合ハ之ヲ中止犯ト謂フ中止犯ニモ區別アリ(一)僅ニ犯罪ノ實行ニ着手シ未タ何等ノ結果ヲ生セサル以前ニ於テ中止シタルトキハ之ヲ罰スルコトヲ得ス(二)一旦犯罪ノ實行ニ着手シテ既ニ幾分ノ結果ヲ生シタル後ニ於テ中止シタルトキ是ナリ例へハ人ヲ殺サントシテ其目的ノ人ニ對シテ一タヒ撃チタルモ俄カニ惡念消滅シテ遂ニ殺人行爲ヲ中止スルニ至リタルカ如シ此場合ニハ其刑ヲ減輕スルカ又ハ免除スルコトヲ得ルモノトス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

(註)未遂罪ハ必ス罰スルモノトセス之ヲ罰スル場合ハ總則ニ於テ規定セス各本條ニ於テ規定スルモノトス舊法ハ總テ重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スト爲シタリト雖モ其重罪中ニモ未遂犯ヲ構成スルコト能ハサルモノアルヲ以テ未遂罪トシテ罰スヘキ場合ハ各本條ニ於テ規定スルコト、爲シタリ

第九章 併合罪

(註)舊法ニ數罪俱發ト名ケタルモ改正法ハ之ヲ改メテ併合罪ト爲シタルハ確定裁判ヲ經ザ

ル數罪ハ必スシモ俱ニ一時ニ發覺スルコトナク一罪已ニ確定裁判ヲ經タル後他ノ一罪ノ發覺スル場合ナキニアラス此等ノ場合ニ於テ數罪俱發ノ名稱ハ穩當ナラスト云フニ在リ

數罪俱發トハ一罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スシテ又他ノ罪ヲ犯シタルヲ謂フ然ルニ併合罪トハ一罪ヲ犯ス者ハ其一罪ノ刑ニ處シ二罪ヲ犯ス者ニハ亦其二罪ノ刑ヲ各別ニ科スルモノトシ二罪アルカ爲メニ其中一罪ノ刑ヲ免除シ若クハ之ヲ減輕スルノ謂ハレナシトシテ各罪ニ付キ其ノ責任ヲ負ハシムルヲ云フ舊法ノ違警罪ハ此ノ趣旨ナリ

數罪俱發ト謂フモ一罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スシテ又他ノ罪ヲ犯シタルヲ謂フナリ其俱發ト稱スルヲ以テ其數罪ノ同時ニ發覺スルヲ云フカ如クナレトモ一罪已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發覺スルモ亦數罪俱發トシテ處分スルカ故ニ其發覺セシ日時ハ問ハサルナリ

- 併合罪ノ要件ハ左ノ二個トス
 - 一 同一犯人ニ於テ二ケ以上ノ罪ヲ犯スコト
 - 二 二ケ以上ノ罪カ何レモ未タ確定判決ヲ經サルコト
- 一罪ノ確定判決アリタルトキハ再犯ノ場合ニシテ併合罪ニアラス是レ二者ノ異ナル所ナリ
- 同一犯人カ數罪ヲ犯シタルトキ其中ノ一罪ニ付確定判決ヲ經タルモ未タ確定判決ヲ經サル他ノ數罪ヲ併合罪ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ヘキナリ
- 一人ニシテ數回罪ヲ犯スハ再犯ニシテ即チ再犯ハ一人ニシテ數回ニ數罪ヲ犯シタルモ初犯ノ裁判確定後更ニ罪ヲ犯シタルモノニシテ初犯ノ罪ヲ裁判スルトキ及ヒ再犯ノ罪ヲ裁判ス

ルコトハ各々一罪アルモノニシテ其各罪ニ付キ一々刑ヲ科スヘキコトハ一人一罪ヲ犯シタル通常ノ場合ト異ナル所ナシ唯特別ノ理由トシテ其再犯ノ刑ヲ加重スルノミ
 犯罪ニ單數ト複數トノ別アリト雖モ其犯罪行為ノ一事件ナルト數個ノ事件ナルトニ因ルモノニ非ス法律ニ違反スル回數ニ因ルヘキナリ即チ法律違反ノ數單一ナル場合ヲ一罪ト爲シ數個ナル場合ヲ數罪ト爲ス例ヘハ竊盜罪ヲ犯スニ一回ニシテ衣服時計金錢ヲ竊取スルモ其行為ハ一回ノ犯罪ナレトモ之ヲ數回ニ右三個ノ品ヲ竊取シタルトキハ二回三回ニ竊盜罪ヲ犯シタルヲ以テ二罪三罪ノ複數ノ犯罪ヲ構成スルモノナリ

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス即チ確定裁判前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

(註)本條ハ確定裁判ヲ經サル數罪ハ併合罪トシ若シ數罪ノ中或一罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルモノトス即チ確定裁判前ノ數罪ハ其發覺時期ノ前後如何ヲ問ハス常ニ之ヲ併合シテ處斷スルモノトス
 數罪俱發ノ處分ニ付テハ併科主義ト吸收主義ト折衷主義トアリ今之ヲ各別ニ説明スレハ左ノ如シ

一 併科主義 併科主義ハ改正法ニ稱スル所ノ併合罪ノ意義ニシテ前ニ述ヘタル所ノ如

シ

二 吸收主義 此主義ハ二派ニ分ツモノナリ即チ吸罪主義ト吸刑主義トス吸罪主義トハ重キ罪ハ輕キ罪ヲ吸收スルヲ以テ輕キ罪ニ對スル刑ヲ科セス單ニ重キ罪ニ對スル刑ヲ科スヘシト云フニ在リ此主義ハ一旦重キ罪ヲ犯シタルトキハ其ヨリ後ニ於テ輕キ罪ヲ犯スモ之カ爲メニ刑ヲ科セラル、コトナケレハ輕キ罪ヲ犯スヲ許スカ如クナルヲ以テ不當ノ主義ト爲シタリ

吸刑主義トハ各罪ニ對シ刑ヲ科スルハ併科主義ニ同シキモ其執行上ニ於テ重キ刑ニ輕キ刑ヲ吸收セシメ輕キ刑ハ別ニ之ヲ執行セスト爲スモノニシテ此主義ニ依レハ重キ刑ノ消滅スルヤ直チニ輕キ刑ヲ執行スルヲ以テ是亦犯罪免許ニ等シト云フ

三 折衷主義 吸刑主義ハ酷ニ過キ吸收主義ハ寬ニ失スルヲ以テ之ヲ折衷シタルモノナリ此主義ニモ亦制限併科主義ト加重主義トアリ
 制限併科主義ハ輕罪ノ刑ハ併科スルモ其長期多數ノ二倍ヲ過クルコトヲ得ストスルモノニシテ各罪ニ對シ其刑ヲ併科スルハ單純ノ併科主義ニ同シキモ之ニ幾分ノ制限ヲ附スルモノヲ云フ

加重主義トハ數罪中一ノ重キ刑ニ付キ餘罪ノ數ニ應シ幾分ノ加重ヲ爲スモノニシテ即チ數罪ニ對シ一種ノ刑ヲ設クルコト、ナシ例ヘハ二年ノ刑ニ該ルヘキ罪ト一年ノ刑ニ該ルヘキ罪トアルトキハ二年ノ罪ノ上ニ一年ノ二分一若クハ三分一ヲ加ヘテ二年六

ヶ月若クハ二年四ヶ月ニ處スルカ如シ

舊法ハ右三種ノ主義中ニ重罪輕罪ニ付テハ吸收主義ヲ採リ違警罪ニ付テハ併科主義ヲ採リタルモノナリ即チ數個ノ犯罪中一ノ重キニ從テ處斷スルヲ以テ一度罪ヲ犯シタル者ハ其裁判確定ニ至ルマテハ之ト同等若クハ輕キ罪ハ幾回之ヲ犯スト雖モ後ノ犯罪ニ對スル刑ハ常ニ第一ノ犯罪ニ對スル刑ニ吸收セラレ後ノ犯罪ハ全ク處罰ヲ受クルコトナキ結果ヲ生ス且ツ一罪ヲ犯シタル者ト數罪ヲ犯シタル者ト同一ノ刑ヲ以テ處斷セラル、ニ至リ不當ノ結果ヲ生スルヲ以テ改正法ハ併科主義ヲ採リタルナリ

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

(註)改正法ハ前ニ述ヘタルカ如ク各罪ニ付キ併科主義ヲ採リタレトモ死刑又ハ無期刑ニ當ル罪ト他ノ罪ト同時ニ發スルトキハ實際上各罪ニ對シテ各刑ヲ併科スルコトヲ得サルヲ以テ此場合ニハ例外トシテ吸收主義ヲ採リ唯タ沒收刑ノミヲ併科スルモノトナシタリ是レ沒收ハ犯人ノ一身ノ存在スルト否トニ關スルモノニ非レハ之ヲ併科スルコトヲ得レハナリ又無期ノ懲役、禁錮ハ死刑ニ次テ重キ刑ナレハ之ヲ他ノ刑ト併科スルコトヲ得サレハ死刑

ト同一ノ理由ニテ罰金、科料及ヒ沒收ノ外ハ之ヲ併科セサルモノトス是レ沒收等ハ被告人ノ身体ニ關係ナクシテ之ヲ執行スルコトヲ得ヘケレハ死刑ニモ之ヲ附加スルモノナリ況ヤ無期刑ノ如ク身体生命ヲ失ハサル者ニ於テオヤ

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

(註)本條ハ制限併科ノ主義ヲ採リタルモノナリ此ノ主義ハ二罪ノ場合ト三罪以上ノ場合トヲ區別セス同一ノ制限ニ從ハシムルヲ以テ十犯以上ノモノモ二罪ノ場合ト同一ノ處分ヲ受クルモノナリ而シテ其制限ノ程度ハ本條ノ定ムル所ニシテ併合罪中最モ重キ罪ニ對スル刑ノ長期ニ其半ヲ加ヘタルモノヲ以テ併合罪ニ對スル刑ノ長期ト爲ス例ヘハ併合罪中五年ノ有期懲役ノ罪カ最モ重キモノナルトキハ其半即チ二年五ヶ月ヲ加ヘタルモノヲ長期トスルカ如シ然レトモ併合罪中一ノ最モ重キ罪ニ對スル刑ト他ノ罪ノ刑ヲ加フルトキハ其重キ刑ニ之カ半ヲ加ヘタルモノヨリ長キトキハ併合罪ノ刑期ハ其各罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得サルモノトスルハ但書ノ規定ナリ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合

ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

(註)改正法ハ成ルヘク併科主義ヲ採ルノ方針ナレハ罰金ノ如キ他ノ刑ト併科スルコトヲ得ルモノハ之ヲ併科スルヲ原則トス然レモ第四十六條第一項ノ如ク死刑ヲ科スヘキ場合ハ之ヲ科スルモ犯人ニ於テ納完スルコトヲ得サルヲ以テ之ヲ科セサルモノトス
二個以上ノ罰金ハ其罰金合算シテ其合算額以下ニ於テ處斷スルモノトス是レ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ範圍内ニテ處斷シタル罰金額ヲ合算スルモ各罪ニ付キ定メタル罰金額ヲ合算シタル範圍内ニテ其罪ヲ處斷スルモ理ニ於テハ異ナル所ナケレハナリ

第四十九條

併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

(註)本條ハ附加刑即チ沒收ヲ附加スル場合ヲ規定シタルモノナリ
併合罪中死刑又ハ無期刑ノ如キ重キ罪ニハ附加刑ナキコトハ第四十六條ノ場合ニ述ヘタルカ如シ若シ他ノ罪ニ附加刑アルトキハ其附加刑ヲ科スルモノトス而シテ二個以上ノ沒收アルトキハ之ヲ併科ス

沒收ハ二個以上ノ場合ト雖モ之ヲ併科スルハ附加刑ハ其主刑ト共ニ吸收セラル、モノナリトスル吸收主義ニテモ沒收處分ハ之ヲ併科スルヲ以テ原則ナリトス

第五十條

併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

(註)併合罪ハ併科スヘキヲ原則トスルモノナレトモ今茲ニ既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ其裁判ヲ經タル罪ハ假令ヒ餘罪即チ未タ裁判ヲ經サル罪ヨリ重キモ其罪ニ關セス更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷スルモノトス故ニ未タ裁判ヲ經サル罪カ更ニ裁判ヲ受ケ其判決確定シタル場合ニハ其併合罪ニ付テハ常ニ二個以上ノ裁判アルコト、ナルナリ而シテ其執行方法ハ次條ニ規定スル所ニ依ル

第五十一條

併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

(註)併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判確定シタルトキハ各裁判ニ對シ其刑ヲ併セテ即チ各別ニ執行スルモノトス是レ併合罪ハ各刑併セテ科スルモノナレハ其執行モ亦併セテ執行スヘキハ當然ナリ然レトモ刑ノ性質上例ヘハ死刑ト懲役トノ場合ノ如キハ併セテ執行スルコトヲ得サルハ勿論ナリ即チ其一罪カ死刑ナルトキハ一身ノ存在スルニ非サレハ執行スルコト能ハサル刑ハ之ヲ併セテ執行スルコトヲ得ス唯タ沒收ノ刑ノミ併セテ執行スルモノナリ又無期刑ヲ執行スヘキトキハ罰金科料沒收ノ外有期刑ハ之ヲ執行セス又有期ヲ併セテ執行スヘキトキハ其計期ノ合計カ最モ重キ罪ノ刑期ニ其半ヲ加ヘタルモノニ超ユヘカラサルコトハ第四十六條第四十七條ノ規定スル所ナリ

本條第二項ハ第四十九條第二項ノ適用ニ付テ執行ノ方法ヲ示シタルモノナリ

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

(註)併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其中ノ或一罪カ大赦ヲ受ケタル場合ニハ其罪ハ根本的ニ犯罪ナカリシモノトナルヲ以テ其罪ニ付キ刑ヲ定ムルコトヲ得サルハ言フ俟タサルナリ故ニ大赦ヲ受ケサル他ノ罪ニ付キ更ニ刑ヲ定ムルモノトス

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

(註)舊法ハ違警罪ハ必ス之ヲ併科スヘキモノトスルト同シク本條モ亦拘留科料ハ他ノ刑ト之ヲ併科スルモノトス是レ拘留又ハ科料ハ舊法ノ違警罪ノ性質ナルモノナレハナリ故ニ他ノ罪ト同時ニ發覺シタル場合ニハ併セテ之ヲ科スルモノトス然ルニ第四十六條ノ場合ノ如キハ併科スルコトヲ得サルモノナリ茲ニ他ノ刑ト云フハ有期ノ懲役及禁錮又ハ罰金ノ刑ヲ指スナリ

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科スルコトヲ得ルハ勿論ナリ

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

(註)本條ハ數罪俱發ノ場合ニ所謂想像上ノ數罪ト稱スルモノナリ想像上ノ數罪トハ一所爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル、モノヲ云フ即チ一罪ノ所爲ヲ分析スルトキハ其分子カ各々一罪ヲ構成シ數罪アルカ如ク見エテ其實一罪ヲ構成スルニ過キサリナリ例ヘハ懷胎ノ婦女ニ對シテ毒藥ヲ服セシメ而シテ死ニ至ラスシテ後チ胎兒ヲ墮胎セシメタル場合ノ如シ一所爲ニシテ毒殺未遂罪ト墮胎罪トヲ構成ス又人ノ家宅ニ侵入シテ竊盜罪ヲ犯スカ如キ之ヲ法律

ニ照ラセハ家宅侵入罪ト窃盜罪トアルカ如クナルモ其家宅ニ侵入シタルハ窃盜ヲ行フニ付テノ手段ニシテ此手段ニ依ラサレハ窃盜ヲ行フコト能ハサルモノナリ又例ハ内亂ヲ起シテ官兵ヲ殺傷スルカ如キハ外觀上内亂ニ關スル罪ト殺傷ノ罪トヲ犯シタルカ如クナルモ官兵ノ殺傷ハ内亂ノ所爲中ニ包含セラル、カ如シ

犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ實體的數罪ノ場合ニシテ例ヘハ人ヲ殺シタル後其犯跡ヲ蔽ハシカ爲メ火ヲ放チ且ツ臨時俄ニ欲心ヲ生シ被害者ノ懷ニセシ金圓ヲ取去ルカ如キ其所爲各獨立シテ一罪ヲ構成スルモノナリ

本條ハ右ノ場合ニハ其罪名中最モ重キ刑ヲ科スルコト、シタリ而シテ第二項ノ規定ハ二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科スル第四十九條第二項ノ規定ハ本條第一項ノ場合ニ之ヲ適用スルモノトス即チ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル、場合ノ如キハ隨テ沒收スヘキモノモ數個アルナラント想像シタルモノナリ

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

(註)連續犯トハ或ル行爲ニ付テ數個アル行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル、場合ヲ云フ即チ犯罪カ成立シテヨリ猶ホ同一ノ状態ヲ以テ多少ノ時間繼續スル所爲ナリ是レ繼續犯ト相似テ異ナルモノナリ繼續犯ハ實行ニ付テ長キ時間ヲ要シタルヲ謂フモノニシテ例ヘハ人ヲ監禁

スル罪ノ如シ數日若クハ數時間監禁シテ犯罪ヲ遂クルモノナリ然レトモ連續犯ハ犯罪ノ實行ニ付テ長キ時間ヲ要シタルヲ謂フニ非スシテ犯罪ヲ遂ケタル後チ猶其成立セシ時ノ状態ヲ以テ長キ時間繼續スルモノヲ云フ例ヘハ倉庫内ニ在ル米俵ヲ窃取スルカ如シ今日三俵ヲ窃取シ亦明日モ五俵ヲ取出スモ繼續犯ニ非スシテ連續犯タリ繼續犯ハ所爲ト意思トカ兩ナカラ繼續スルニ非サレハ其罪ヲ構成セサル者ヲ云フ即チ前ニ例シタル監禁罪ノ如シ不法監禁罪ハ監禁ヲ行ヘハ既ニ犯罪成立スルモ監禁シタル後チ其監禁ヲ解カサレバ始メ監禁シタル状態ニテ監禁罪ハ長ク繼續スルナリ

右ノ如ク連續シタル行爲カ數個ノ場合ニ其行爲カ同一ノ罪名ニ觸ル、モ之ヲ數罪トシテ處斷セシテ一罪トシテ之ヲ處斷スルナリ

第十章 累 犯

(註)累犯トハ一罪ヲ犯シ判決確定シタル後更ニ罪ヲ犯シタルヲ云フ舊法ニ再犯ト稱シタルモノ是ナリ而シテ其犯罪カ日數ノ制限ナク初犯後十數年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレハ之ヲ再犯ト爲スハ犯人ニ對シ酷ニ失スルモノニシテ再犯加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ適セサルヲ以テ新法ハ再犯ハ初犯後久シカラサル五年内ニ非サレハ再犯ト爲スヲ得サルモノトシタルナリ

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリ

タル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

(註)再犯ハ犯人カ前非ヲ悔イテ品行ヲ改悛セス更ニ罪ヲ犯シタル者ナルヲ以テ刑ヲ加重スル爲メニ設ケタルモノナリ舊法ニハ再犯ノ加重アルチ輕キニ失スルヲ以テ再犯者ヲ防ク效力弱キヲ以テ新法ハ舊法ニ比シ重ク規定シタリ

再犯加重ノ法ニ二様アリ一般ノ再犯加重ト特別ノ再犯加重トナリ一般ノ再犯加重トハ犯罪ノ性質前後相異ナルニ拘ハラズ法律ニ違反スルコト再度ニ及フモノハ總テ其刑ヲ加重スルモノトシ特別ノ再犯加重トハ特別ニ定メタル同一性質ノ罪例ヘハ初犯ニ竊盜罪ヲ犯シ再犯

ニモ亦竊盜罪ヲ犯シタルカ如シ再度同一ノ性質ノ罪ヲ犯スニ非サレハ其刑ヲ加重セサルモノトス所謂ル習慣性ト爲リ一度竊盜罪ヲ犯ストキハ其竊盜罪ハ犯シ易クナルヲ以テ再三之ヲ犯スニ至レハナリ

本條ハ再犯ヲ以テ加重スヘキ罪トスルニハ初犯ノ五年以内ヲ制限トシ五年ヲ超過シタル後チハ再犯ヲ以テ論スヘカラスト爲スヲ以テ先ツ懲役ニ處セラレタル者執行ヲ終リ又ハ其免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限り累犯例ヲ適用スヘキモノトス而シテ舊法ニハ裁判確定後トアリシヲ新法ニ於テハ裁判ノ確定ノミニテハ未タ犯人ニ苦痛ヲ與ヘサリシヲ以テ再犯ヲ防クニ足ルヘキ實效ナキモノトシ其裁判ノ執行ヲ終ルカ若クハ其裁判ノ執行ノ免除ヲ受ケ十分ニ裁判ノ實效ヲ生シ得ヘシト認ムヘキ時期ヨリ起算スルコト、シタリ

本條第一項ニ於テハ初犯ハ懲役ニ限ルト雖モ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニ付キテハ尙ホ一層之カ再犯ニ付キ加重スヘキ必要アリトシテ此等ノ者カ五年内ニ更ニ有期懲役ニ罪ル罪ヲ犯セハ之ニ累犯例ヲ適用セサルヘカラストス是レ第二項ノ規定ナリ

第三項ハ併合罪ニ付キ併科主義ヲ採用シタル結果最モ重キ刑又ハ特別刑ヲ科スルヲ以テ累犯例ヲ適用スル上ニ付テ必要トシテ規定シタルナリ

第五十七條、再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下ト

ス

(註)舊法ハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フト定メタリ然レトモ其結果ハ重罪ニ付テハ三年ヲ超ユルコトナク輕罪違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分ノ一ヲ加重スルニ過キス而シテ三犯以上ノ者ト雖モ之ト異ナルコトナキ爲メ一般ニ加重ノ分量輕キニ失シ現今累犯者ノ増加スルコト夥シク再犯者ヲ防ク目的ヲ達スルコトヲ得ストシテ新法ハ加重ノ分量ヲ増加シテ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

(註)本條ハ再犯者ヲ豫防スルニ出テタル規定ナリ舊法ニハ再犯加重ノ罪輕キニ失シテ再犯者ヲ防クニ足ラス而カモ尙ホ刑ノ加重ヲ免レント計ル者アリ之ヲ免レントスルニハ再犯ニアラサルコトヲ主張シ其犯罪ノ度數ヲ隱蔽スルニ在リ故ニ之ヲ發見スルニ苦ムヲ以テ新法ハ茲ニ見ル所アリテ再犯ノ加重ノ分量ヲ増加シタレハ自然ニ犯罪ノ度數ヲ隱蔽スル者ノ増加スルニ至ルコトヲ慮リ舊法ニハ裁判ノ當時ニ在テ再犯者タルコト發見セラレサルトキハ縱令ヒ其後ニ至リ再犯者タルコト發覺スルモ其刑期ハ之ヲ加重スルコトヲ得サルヲ以テ犯

人其ノ裁判ノ時ニ當リテ再犯者タルコトヲ隱蔽シ如何ニシテモ再犯ニ非サルコトヲ主張シ萬一ヲ僥倖センコトヲ企ツヲ以テ新法ハ一旦裁判ヲ受ケタル後ト雖モ再犯者タルコトヲ發覺スルニ至レハ更ニ其刑ヲ加重スルコトヲシタルナリ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

(註)再犯ハ刑ヲ加重スルヲ以テ三犯以上ハ隨テ刑ヲ加重スルナラント思量スル者アルニ因リ本條ヲ規定シ再犯ハ加重スト雖モ三犯四犯ニ至ルモ之ヲ加重スルコトナク猶ホ再犯ト同シクシタルナリ是レ改正法ハ既ニ再犯ノ場合ニ十分ノ加重ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上ト雖モ別ニ加重ノ例ヲ設ケルノ必要ナシトシタルモノナリ

第十一章 共 犯

(註)犯罪ハ一人ニテ犯スニ限ラス數人共同シテ之ヲ犯スコトアリ此場合ニ於テハ犯罪ハ一個ナルモ其犯人ハ多數ナリ其多數ノ犯人ハ皆同一ニ責任アルモノトス

抑モ刑罰ハ犯罪ノ賠償ニ非ス各人其罪責アルカ故ニ之ヲ科スルモノナレハ民事上ノ賠償ニ於ケルカ如ク連帶セシムヘキモノニ非ス亦タ分擔セシムヘキモノニモアラス必ス各人ニ對シ其所爲即チ犯罪ノ狀況ニ應シテ刑ヲ科セサルヘカラス而シテ共犯ノ場合ニハ各人ニ對シ常ニ同一ノ刑ヲ科スヘキカ各人ノ責任同一ナランニハ固ヨリ同一ノ刑ヲ科スヘキモ其犯罪ニ關係スルノ度必スシモ同一ナラス即チ犯罪前ニ關係スル者アリ犯罪ノ當時ニ之ニ共同ス

ル者アリ又其中ニ就テモ重要ナル事業ヲ擔當スル者アリ輕微ノコトヲ爲ス者アリ此ノ場合ニ其罪責ハ細別シテ刑ヲ科スルモノニアラス單ニ正犯從犯ノ二ニ分ツノミ

又共犯ト爲スニハ他人カ罪ヲ犯スコトヲ知リテ之ニ力ヲ加ヘテ助ケルコトヲ要ス若シ犯人カ正當ノ事ヲ行フ者ナリト信シテ之ニ助手シタルモ犯罪ノ意思ナキカ故ニ之ヲ共犯ト爲スコトヲ得ス例ヘハ竊盜ヲ爲ス者カ或場所ヨリ米ヲ運ヒ居ルトキ其米ヲ共ニ運輸シタルモ竊取ノ所爲ニアラス自己ノ物ヲ運フ者ナリト誤信シテ之ニ助手スルカ如キハ意思ノ一致ニアラサレハ共犯ト爲スヘカラス即チ各自各別ノ意思ヲ以テ爲ス場合ナレハ數人ニテ一罪ヲ犯スニ非スシテ數人ニテ數罪ヲ犯スモノニシテ之ヲ附帶ノ犯罪ト云フヘシ

又他人カ罪ヲ犯スコトヲ知リ又其惡事ヲ助クルノ意思アルモ形チニ顯ハレタル所爲ヲ以テ加ハリタル者ニ非サレハ共犯ト爲ラス他人カ罪ヲ犯サントスルヲ知テ之ヲ止メサリシハ意思ノ上ニ罪ヲ犯ス者ニシテ未タ形チニ顯ハレサレハ之ヲ共犯トシテ罰スヘカラス或ハ其犯罪ヲ防止スルコトヲ得ヘキ地位ニ在ル者之ヲ防止セシテ犯罪ヲ遂ケシムルカ如キモ亦其犯ト爲スヘカラス若シ此等ノ者ヲ共犯ト爲ストキハ即チ意思ノミヲ罰スルコトナレハナリ然ルニ法律ハ此場合ハ特別ノ罪トシテ罰スルコトヲ得ヘシトス例ヘハ監獄吏カ囚人ノ逃走スルヲ目撃シナカラ之ヲ傍觀シテ逃走セシムルカ如キハ逃走罪ノ共犯ト爲サス一ノ特別罪トシテ逃走罪ヨリ重キ刑ヲ科スルモノトス

共犯トシテ處罰スルニハ既遂未遂ヲ問ハス犯罪アリタル時ニ生ス故ニ共謀シテ犯罪ニ着手

スルモ實行ノ任ニ當リタル者自カラ中止シテ犯罪ヲ生セサルトキハ他ノ共犯ノ罪ハ成立スルコトナシ之ニ反シテ犯罪實行ノ任ニ當ラサル者其意思ヲ中止シタルモ實行ノ任ニ當リタル者中止セスシテ實行シタルトキハ共犯ノ罪ヲ構成スルモノトス

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

(註)共犯ヲ分テ正犯從犯ト爲ス正犯トハ犯罪ノ主謀者ニシテ他ノ者ノ教唆ニ因リテ實行スル者ニ非ス自カラ發念シテ進ンテ實行スル者ヲ云フ共犯ノ場合ニハ二人以上共同一致シテ犯罪實行シタルモノナリ而シテ共犯ト爲スニハ二人以上同時ニ同一ノ罪ヲ犯シ其ノ意思ハ互ニ通謀シタル者ナリ

從犯トハ他人ノ犯罪ニ力ヲ加フル者ニシテ而シテ其行爲ハ單ニ豫備ニ止マリテ正犯ヲ幫助スル者ヲ云フ

正犯ハ犯罪ノ主動者ニシテ即チ犯人自カラ罪ヲ犯ス意思ヲ以テ犯罪行爲ノ全部又ハ一部ヲ自カラ實行シ又ハ實行セシメ若クハ共同實行スルノ任ニ當ル者是ナリ而シテ共犯ノ場合ノ正犯ハ數個ノ犯人同一ノ目的ノ以テ共ニ同一ノ行爲ヲ實行スルトキハ是即チ共同實行シタル者ナリ

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

(註)教唆トハ他人ニ對シテ犯罪實行ノ決心ヲ爲サシムル者ヲ云フ而シテ此ノ決心ヲ爲サシムルニハ必ス至大ナル勢力ヲ其精神上ニ及ホスモノナカルヘカラス語ヲ換テ言ヘハ教唆者ハ智力ノ働ヲ爲シ被教唆者ハ體力ノ働ヲ爲シ互ニ分擔シテ一ノ犯罪ヲ實行スル者ナリ故ニ教唆者ハ正犯ニ準スト爲シタルナリ舊法ハ教唆者モ亦正犯ト爲スト規定シタルモ新法ハ準スト爲シタルハ是レ教唆者ハ實行正犯ニアラスト雖モ其責任ニ於テハ正犯ト同一ニスルコトヲ明ニシタルモノナリ

舊法ニ於テモ犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得ストアリ例ヘハ強盜ノ罪ハ犯人ノ多數ヲ以テ加重ノ情狀ト爲ス是レ犯人多數ナレハ犯シ易クシテ防キ難ク其危害ノ大ナルニ由ルナリ然ルニ教唆者ハ犯罪ノ原因ヲ爲スモ其實行ニ關係セス故ニ假令ヒ教唆者アルモ別ニ危害ニ影響ヲ及ホサス是ヲ以テ一面正犯ト爲シタルニモ拘ハラヌ多數ニ算入スルコトヲ許サ、ルナリ

被教唆者ノ犯シタル罪教唆シタル罪ト至ク其性質ヲ異ニスル場合例ヘハ竊盜ヲ教唆シタルニ毆打創傷罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ教唆ニ因ル犯罪行爲ト謂フコトヲ得サルモ竊盜ヲ教唆シタルニ強盜ヲ爲シ毆打創傷ヲ教唆シタルニ殺人ヲ爲シ又ハ之ニ反スル等ノ場合ニ於テハ其罪同性質ニシテ教唆ニ因ル行爲ナレハ教唆者其責ヲ免ル、コトヲ得ス然レトモ教唆者ノ罪責ハ其教唆シタル所ニ依テ定ムヘキカ將タ實行セラレタル所ニ依テ定ムヘキカハ問題ナ

リ舊法第百八條ニハ左ノ如ク規定シタリ

事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト異ナルトキハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キトキハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キトキハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

ト然ラハ則チ竊盜ヲ教唆シタルニ強盜ヲ爲シタルトキハ教唆者ヲ竊盜ノ刑ニ處スルコト、ナルヘシ竊盜ノ行爲ナキニ竊盜ノ刑ヲ科スルハ不適當ナルカ如クナルモ此行爲ハ強盜ノ行爲中ニ包含セラレ、モノナレハ之ニ對スル刑ヲ適用スルハ決シテ不當ニ非ス若シ強盜ノ刑ヲ適用センカ教唆以外ノ犯罪ニ付キ責任ヲ負ハシムルモノニシテ法理ノ許サ、ル所ナリ

本條第二項ハ教唆者ノ教唆者ヲモ罰スルモノトシタリ教唆者ノ教唆者ハ間接ニ犯罪ノ原因ヲ爲スニ止マリ直接ニ犯罪ニ關係シタルモノニ非ス例ヘハ甲者アリ乙者ニ對シテ汝何人ニテモ教唆シテ何々ノ罪ヲ犯サシメヨト言ヒ又ハ丙者ヲ教唆セヨト云ヒ其被教唆者ヲ指示スルニハ相違ナキモ甲者ト被教唆者トノ間ニハ何等ノ關係ナク被教唆者カ犯罪ヲ實行シタルハ全ク乙者ノ教唆ノミニ因リテ實行スルニ至リタル者ニシテ甲者ノ勢力ハ之ニ及ハサリシ場合ニハ其罪責ナカリシモ若シ甲乙二者ノ力カ被教唆者ニ及ホシタルトキハ假令ヒ被教唆者ニ對シ直接教唆シタル者ハ乙者ニシテ甲者其場所ニ居合サ、ルモ甲者モ教唆者タルヲ免

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

(註)正犯ヲ幫助シタルモノハ之ヲ從犯ト爲スモノトス而シテ幫助トハ實行スルニ付テノ豫備ノ所爲ヲ爲スヲ謂フ之ヲ從犯ト云フ故ニ從犯タルニハ犯罪ヲ終リテ後ノ事ニ關係スルヲ云フニ非スシテ犯罪前ニ豫備ノ所爲中ニ於テスルコトヲ要ス若シ犯罪ニ着手シタル場合ニ於テ幫助シタル者ハ之ヲ正犯ト爲スヘクシテ決シテ從犯ト云フヘカラス而シテ豫備ノ所爲ハ例ヘハ器具ヲ給與シ又ハ場所及ヒ其他ノ便宜ヲ誘導指示シタル如キヲ云フ豫備ノ所爲ニ於テ器具給與等ノ幫助ヲ與フルモ正犯者カ其器具ヲ使用セス其他幫助ノ效ナキトキハ從犯タルノ罪ヲ負ハシムルコトヲ得ヌ又正犯カ其器具ヲ使用スルモ幫助者ノ知ル所ト全ク其罪ノ性質ヲ異ナル犯罪ニ使用シタル場合ノ如キハ亦從犯トシテ罰スヘキモノニアラス本條第二項ハ從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ストシタルハ前條ニ教唆者ノ教唆者ヲ準正犯ト爲シタルヲ以テ之ト權衡ヲ保ツ爲メニ此ノ如ク規定シタルモノナリ

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

(註)從犯ノ刑ハ正犯ニ照シテ減輕スヘキハ當然ナルヘシ何トナレハ從犯ハ正犯ノ實行ヲ幫助シテ實行ヲ容易ナラシメタルニ止マル者ニシテ其加効ノ力甚タ薄弱ナル者ニシテ正犯ヲ決行セシムルモノニ非スシテ假令ヒ其幫助スル者アルモ正犯ニ於テ其幫助ヲ必スシモ用フ

ヘキモノアラサシテ若シ之ヲ用ヒザルトキハ其幫助ノ效ナキ程ノモノナレハ之ヲ正犯ト同等ノ刑ニ處スルハ不當ナリ故ニ本條ヲ設ケテ之ヲ減輕セシムルモノトスル所以ナリ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

(註)拘留又ハ科料ノミニ處スヘキ罪ハ其罪質輕微ナルヲ以テ此等ハ其實行者ヲ罰スルヲ以テ足レルモノナレハ此罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ更ニ輕微ナル罪責ニシテ之ヲ處罰スルノ必要ナシトシ其特ニ必要アルモノニ限リテ各本條ノ規定ニ依ルモノトシタルナリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

(註)身分ニ因リ罪ヲ構成スル場合トハ例ヘハ官吏カ賄賂ヲ收受シ人ノ子タル者其父母ニ衣食ヲ供給セサルカ如キハ官吏タリ子タルノ身分アルカ爲メニ此罪ヲ成立スルモノヲ云フ此身分ヲ有セサル者其官吏又ハ子タル者ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメ其他犯罪ヲ助ケルカ如キ所爲アルトキハ之ヲ共犯トシテ罰スヘキモノトス

身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキ時即チ身分ニ基ク刑ノ加重ハ其人一身ニ限リ他ノ共犯者ニ及ホサ、ルモノトシテ身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科スルモノトス例ヘハ人ノ子ト共ニ其父ヲ毆打創傷シタルモ我ト被害者トノ間父子ノ縁アルニ非サレハ我ハ普通ノ毆打創傷罪ニ問ハルヘキモ決シテ加重ヲ受クル者ニアラサレハナリ又共犯中再犯者アルモ他ノ初犯者ニ對シ再犯加重ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シ共犯中減輕スヘキ者アルトキハ正犯ト從犯トノ關係ニ付テハ正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免スヘキ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ストシテ減免モ亦其人一身ニ限ルモノトスルナリ之ヲ要スルニ加重減輕ニシテ特別ノ身分ニ基ク上ハ其身分ナキ者ニ及ホスコトヲ得サルハ共犯中ノ一人ニ對シ酌量減輕スルモ之ヲ他ニ及ホサ、ルト同シトス

第十二章 酌量減輕

(註)減輕ニハ法律上ノ減輕ト裁判所ノ減輕トアリ法律上ノ減輕ハ裁判所ニ於テ此ノ規定ニ從テ減輕シ之ヲ左右スルコトヲ得サルモノナリ此ノ減輕ハ宥恕減輕、自首減輕從犯及ヒ未遂犯ノ減輕トス然ルニ本章ノ減輕ハ右ト異ナリ法律ハ必ス減輕スヘキコトヲ命スルニ非ス裁判官ノ見込ニ依リ減輕スルコトヲ許シタルニ過キス故ニ其減輕スルト否トハ一ニ裁判官ノ權内ニ在リ故ニ此減輕ハ裁判上ノ減輕ト云フヘキナリ
酌量減輕ヲ設ケタル理由ハ法律上ノ減輕アリト雖モ罪ハ千差萬別ニシテ法律上ノ減輕ノミヲ以テ此犯情多キ罪ニ適當ニ減輕スルコト能ハサル場合アルヘキヲ豫想シテ刑ノ範圍ヲ廣

クシ尙ホ情狀ニ因リ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ定メシムルコト、シタルモノナリ

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(註)犯罪ニハ習慣性ノ者ト偶發生ノ者トアリテ習慣性ノ者ハ犯罪ヲ以テ一ノ營業ノ如ク監獄ニ入ルハ却テ之ヲ望ミ犯罪研究ノ場所トスル者ノ如シ此等ノ犯罪ハ其情狀甚タ憎ムヘキ者ナレハ毫モ其情狀憫諒スヘキ處ナシト雖モ偶發生ノ者ハ一時ノ出來心ヨリ犯ス罪ナレハ犯罪ノ後チ忽チ本心ニ復シ大ニ其非ヲ悔ユル者ナレハ其情狀憫諒スヘキ者ナリ例ヘハ竊盜罪ヲ犯シタル者ニシテ孝子節婦カ其親又ハ夫タル者カ貧苦ノ中ニ病ニ罹リタルモ藥餌ヲ供スルコトヲ得サルヨリ之ヲ見ルニ忍ヒスシテ惡シキ事トハ知リナカラ已ムヲ得スシテ他人ノ物ヲ竊取シタルカ如キ其情ニ於テ憫諒スヘキモノナリ此等ノ者ハ法律カ減輕スヘキ規定ニ從ヒ減輕シタル上ニ尙ホ幾分ノ減輕スルコトヲ得ヘキナリ是レ犯罪ノ情狀千差萬別ニシテ一定ノ刑期金額ヲ以テ之ヲ處斷スルトキハ或ハ輕キニ過キ或ハ重キニ失スルノ弊アルヲ免レサレハナリ

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

(註)刑法ハ同一犯罪ニ對スル刑罰ニ付テモ豫メ其輕重ノ範圍ヲ設ケ裁判官ヲシテ適當ノ刑

ヲ適用スルコトヲ得セシメタルモ犯罪ノ情狀ノ變化ハ法律規定ノ豫想外ニ出ツルコトアリテ豫定ノ範圍ヲ以テ之ヲ處斷スヘカラサルノ場合多シ即チ茲ニ同一犯罪ニシテ最下級ノ刑ヲ以テ罰スヘシトセンニ其犯罪ニ付テモ亦必スシモ情狀ノ變化ナシト謂フヘカラス若シ最下級ノ範圍ヲ脱スルコト能ハサルトキハ最下級ノ刑ヲ以テ最下級以下ノ刑ニ相當スル者ヲ罰セサルヘカラサルニ至ル然ルニ刑ノ範圍ヲ設ケ犯罪ノ情狀ヲ酌量スヘキノ原則ヲ設ケタル以上ハ最下級以下ノ刑ニ相當スル犯罪ニ付テ之カ情狀ヲ酌量スルコトヲ許サ、ルノ理ナシ是レ法律ハ重罪ヲ罰スヘキ犯罪ニ付テハ酌量スヘキコトヲ得セシメ輕ク罰スヘキ犯罪ニ付テハ其利益ヲ與ヘスト謂フニ至ルヲ以テナリ是ニ於テカ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

(註)本章ハ舊法ノ加減例ト加減順序トノ二章ヲ合セテ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリト云フ加減例トハ加重減輕スヘキ方法ナリ法律カ特別ノ情狀アル場合ニ於テハ刑ヲ加重減輕スルコトヲ得ヘシト規定シ之ヲ裁判所ニ於テ行ハシムルニ於テハ其加重減輕ハ如何ニシテ之ヲ爲スヘキカ又同時ニ加重減輕スヘキトキハ孰レヲ先キニシ孰レヲ後ニスヘキカノ規定ヲ必要トス是レ本章ノ規定アル所以ナリ

新法ハ刑名ヲ減少シ其範圍ヲ廣クシタル結果トシテ減輕ノ方法モ亦舊法ト異ナル所アリ而シテ本條カ減輕ノ場合ニ關シテノミ之ヲ規定シ法律上ノ加重ノ場合ニ關スル規定ヲ設ケザルハ其場合タル再犯若クハ併合罪ノ章ニ於テ既ニ之ヲ定メタルヲ以テナリ

舊法ハ刑ノ種類ヲ細別シ多數ノ階級ヲ設ケ加減スヘキ原因數個アル場合ニ於テハ一個毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコト、シタリト雖モ新法ハ刑ノ種類少ナク刑ノ範圍極メテ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スルトキハ非常ニ刑ヲ輕クスルコト、爲ルヲ以テ縱令ヒ減輕ノ原因カ多クア

ル場合ト雖モ之ヲ合シテ一ト爲シ一度刑ヲ減輕スルニ止ムルナリ此ノ減輕方法ハ本條第一號ヨリ第六號ニ至ル規定ニ從ヒ其間ノ範圍ニ於テ減輕スルモノトス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

(註)新法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシテ其裁定ヲ裁判所ノ自由ニ任シタル場合多キヲ以テ各本條ニ於テ二個以上ノ刑名ヲ設ケ例ヘハ懲役禁錮若クハ罰金等ニ處斷スヘキ刑同時ニ生スル場合ニハ裁判所ヲシテ其中ニ就テ孰レカーヲ擇ハシムルモノトス此場合ニ於テ減輕方法ハ先ツ適用スヘキ刑ヲ定メ而シテ後チ其刑ヲ減輕スルモノトス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

(註)減輕スルニ付刑期何日ト何分ノ一ト云フ如キ端數ヲ生スルコトアリ此場合ニハ其端數ヲ除キ棄テ、之ヲ刑期ニ算入セストス是レ執行上ニ困難ヲ生スルカ故ナリ
罰金科料ノ減輕ノ結果何厘何毛ト云ヘルカ如キ一錢ニ滿タサル金額ヲ生スルコトアリ此場

合ニ於テモ其端數ハ之ヲ除棄スルモノトス

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

(註)酌量減輕ハ法律上ノ減輕アリタルニ拘ハラス情狀ヲ酌量シテ減輕スルモノニシテ法律上減輕シタル刑期カ犯罪ニ比シ尙ホ重キニ失スル場合ニハ其刑又ハ其刑ニ法律上ノ減輕ヲ爲シタル刑ヨリ第六十八條ノ例ニ從ヒ更ラニ其減輕ヲ爲スヘキモノトス

七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

(註)同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキ時ノ順序ヲ定ムルニ付キ再犯加重ヲ先キニシタルハ若シ犯罪中再犯ノモノアレハ其刑期ハ本刑ノ二倍以上トナルコトヲ定メタルヲ以テ第一ニ置ク必要アルト又再犯加重ハ犯人ノ一身ニ附着スル加重ニシテ此原由ハ犯罪ト同時ニ生スルモノナレハ犯罪後ニ生スル原由タル他ノ自首減輕、宥恕減輕等ノ法律上ノ減輕ヨリ先キニスヘ

キナリ併合罪ヲ第三トナシタルハ前二ケノ加減例ニ依リ各罪ニ付キ一旦刑ヲ定メ然ル後チ併合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル必要アルニ因ル又酌量減輕ヲ最後ニ置キタルハ其裁判所ノ任意ニ出ツル加減ナレハ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ヨリ先キニスヘキモノニアラサレハナリ

第二編 罪

(註)本編ハ各種ノ罪及ヒ之ニ對スル刑ニ關スル規定ニシテ舊法第二編及ヒ第三編第四編ヲ修正シタルモノナリ舊法ハ第二編ニ於テ公益ニ關スル重罪、輕罪ヲ規定シ第三編ニ於テ身體、財産ニ對スル重罪、輕罪ヲ規定セリ然レトモ改正法ハ此區別ヲ廢シタリ其趣旨ハ刑法編纂上何等ノ實益ナキモノトスルニ由ル
舊法ニハ國交ニ關スル規定ナキヲ以テ改正法ハ本編第四章ニ於テ之ニ關スル規定ヲ新ニ設ケタルナリ

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

(註)皇室ニ對スル罪トハ本條ニ列記シ奉リタル天皇陛下以下皇太孫ニ至ルマテノ貴顯ニ對

シテ犯ス罪ヲ此罪ヲ分テ二ト爲ス即チ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者是ナリ
天皇トハ皇室典範第一章ニ基キ皇位ヲ繼承シ大日本帝國ヲ統治シタマフ御方ヲ稱シ奉ル即チ現ニ大日本帝國ヲ統御シ玉フ所ノ君主ナリ故ニ一旦位ヲ去リ給ヒシ上皇ハ茲ニ所謂ル天皇ニ非ス茲ニ一言スルハ我國ハ古來萬世一系ノ皇位ヲ踐マレタル御方ニシテ御在世中一タヒ位ヲ去リ賜フトキハ上皇ト稱シタルコトアルモ皇室典範ノ規定アリタルヨリ天皇ハ御在世中位ヲ去リ玉フコトナキヲ以テ上皇ノ稱ハ廢セラレタルモノト謂ハサルヘカラス

皇后トハ皇室典範第十六條ノ規定ニヨリ后位ニ立タセラレタル陛下ヲ稱シ奉ル太皇太后トハ先々帝ノ皇后ヲ稱ス皇太后トハ先皇ノ皇后ヲ稱ス皇太孫ハ皇族タルモ他ノ皇族ハ之ヲ省キタルナリ是レ皇室典範ニ皇太孫ノ制アルヲ以テナリ茲ニ注意スヘキハ先々帝ノ皇后ヲ太皇太后ト稱スルモ天皇ノ御母君又ハ御祖母君ハ必スシモ皇太后又ハ太皇太后タリト謂フコトヲ得サルコト是ナリ

皇太子トハ皇室典範第十五條第十六條ノ規定ニ依リ儲嗣タル地位ニ立タセラレタル御方ヲ稱シ奉ル

本條ニ所謂ル危害ナル文字ハ實害ニ對スル害ノミヲ意味スルモノニシテ生命、身體、自由ニ對スル有形的ヲ云フ即チ本條ニ列記シ奉ル御方ノ御身體ニ對シ危害ヲ加フルノ所爲ヲ規定シタルモノナリ然ラハ則チ危害ヲ加ヘタル場合トハ例ヘハ殺傷等ノ意義ヲ云フモノナリ而シテ危害ヲ加ヘントスルトハ右ノ行爲ヲ行ハントスル着手實行ノ未遂及ヒ豫備陰謀ヲモ

包含スルモノトス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

(註)本條ハ榮譽ニ對スル罪ヲ規定シタルモノナリ

不敬ノ所爲トハ皇室ノ尊嚴ヲ汚瀆シ奉ル性質ノ所爲ヲ云フ茲ニ不敬ノ所爲ノ如何ナルヤヲ明示セスト雖モ其不敬タルヤ否ヤハ裁判所ノ認定ニ一任スルモノトス而シテ不敬ノ所爲トナルヘキハ例ヘハ罵詈、嘲笑、誹毀又ハ侮辱シタルカ如キハ最モ不敬ノ所爲ナリ其他ノ所爲ト雖モ苟クモ尊嚴ヲ汚瀆シ奉ルハ皆以テ不敬ノ所爲ト謂ハサルヘカラス之ヲ爲スニハ言語ヲ以テ爲スト文章ヲ以テスルト擧動ヲ以テスルトヲ問ハス不敬ヲ加フルノ意思ヲ以テ爲シタレハ其罪責アルモノトス隨テ假令ヒ結果ニ於テ不敬ト爲ルヘキ所爲アルモ不敬ヲ加フルノ意思ナキモノハ之ヲ不敬罪ト爲サ、ルナリ

本罪ハ故意ナルヲ要ス故ニ過失犯ニ及ハス又其目的ノ如何ヲ問ハサルナリ不敬ノ行爲トスルニハ唯タ敬禮ヲ行ハサリシト云フガ如キモ裁判所ニ於テ不敬ノ所爲ト認定スルコトヲ得ルナリ然レトモ其結果ヲ豫見セサルモノハ本罪ヲ成立セス故ニ假令ヒ不敬ノ結果ヲ生スヘキ行爲モ不敬ナル結果ヲ豫期スルニ非サレハ罪トナラス例ヘハ田夫樵夫カ鹵簿ヲ拜スル際

感動ノ餘リ賽錢ヲ投ケタルカ如キハ偶然ニ不敬ナル結果ヲ生スルコトアルモ行爲者ニ於テ禮ヲ知ラサルノ致ス所ニシテ毫モ不敬ヲ加フルノ意思アルニ非サレハ罪トナラサルナリ皇陵トハ御歴代ノ天皇ノ御墳墓ヲ稱スルモノニシテ皇族ノ墳墓ハ包含セス陵トハ國語ニ「ミサ、キ」ト稱シ專ラ天皇ノ御墳墓ノミヲ稱スルニ用ユルモノナリ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

(註)皇族トハ皇室典範第三十條ニ列記スル御方ノ内皇后、皇太后、太皇太后、皇太子ヲ除キタル外ハ皇族ナリ即チ皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、内親王、王妃、女王ヲ謂フ之ニ對スル犯罪行爲ハ天皇陛下以下ニ對スル行爲ト同シク現ニ危害ヲ加ヘ又ハ危害ヲ加ヘントシタル罪ニ不敬ノ行爲アリタル罪ヲ謂フ

第二章 内亂ニ關スル罪

(註)本章ハ舊法第二編第二章第一節ノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊法ハ國事ニ關スル罪ノ中ニ更ニ内亂罪及ヒ外患罪ニ關スルモノトテ區別スト雖モ此二罪ハ其性質同一ナラス國事ニ關スルモノハ内亂罪ナルノミナルヲ以テ改正法ハ此二種ヲ分チテ別章ト爲シ内亂罪ヲ以

テ國事ニ關スルモノナルコトヲ明ニシタルナリ

本章ノ罪ハ直接國家ノ生存ヲ危フクスルモノニシテ危險ノ程度極メテ重大ナリト雖モ其犯人タルヤ敢テ自己ノ私利ノ爲ニ之ヲ企ツルニ非スシテ多クハ公衆ノ利益ヲ目的トシテ之ヲ行ハントスルモノナリ故ニ此等ノ犯人ニ對シ通常ノ犯人ニ科スヘキ懲役ノ刑ヲ科スルハ罪ノ性質ト刑ノ種類ト相應セスシテ殆ト科刑ノ趣旨ニ反スル嫌ヒアルヲ以テ舊法ト等シク禁錮ノ刑ヲ科スルコト、シタリ

舊法ニ於テハ之ヲ國事犯トシテ常事犯ト區別シ國事犯罪人ニハ定役ニ服セシメスト雖モ改正法ハ單ニ禁錮ニ處ストシテ定役ヲ科スル規定ハナケレトモ舊法ハ同一ノ取扱ヲ受クル恩典アルヤハ分明ナラス然レトモ改正法カ禁錮ニ處スト改正シタルハ其懲役ト異ナル所ハ唯其定役ニ服セシメサルニ在ルモノ、如シ

第七十七條

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコト

ヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年

以下ノ禁錮ニ處ス

- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

(註)内亂ニ關スル罪トハ所謂ル國事ニ關スル罪ニシテ此定義ハ政事の犯罪ト其範圍ヲ異ニスルモノニ非ス政事の犯罪ハ國事犯罪ノ外或ハ新聞條例ニ於テ或ハ出版法ニ於テ或ハ集會政社法ニ於テ成立スルコト多シ故ニ國事犯ハ政事の一種ニシテ内亂ニ關スル罪ナリ何レモ國家ノ主權ニ抵抗スルコトヲ目的トスル犯罪ノ一種ナリトス

- 一 政府ヲ顛覆スルコト
- 二 邦土ヲ僭竊スルコト
- 三 朝憲ヲ紊亂スルコト

第一政府ヲ顛覆スルトハ帝國ヲ變シテ共和國トスルノ目的若クハ現在ノ皇統ヲ廢シテ更ニ他ノ帝國ヲ組織セントスルカ如キコトヲ意味スルナリ

第二邦土ヲ僭竊スルトハ日本國土ノ一部ヲ押領スルコトヲ云フ即チ其一部地方ニ行ハル、

日本ノ主權ヲ奪ヒ若クハ之ヲ却ケテ獨立シ主權ノ下ニ立タサルモノヲ云フ
第三朝憲紊亂トハ憲法ノ規定スル事項ヲ遵守セサルノ意義ナリ一言ニ盡セハ國家ノ政治的
秩序ヲ亂スヲ謂フ隨テ政府ノ顛覆邦土ノ僭竊以外ニ於テモ代議政体ヲ廢シテ專制政治トス
ルカ如ク皆今日ノ憲法ヲ蹂躪スルコトヲ云フ而シテ本罪ヲ犯スニハ必ス兵ヲ擧クルコトヲ
要ス兵ヲ擧ケサレハ本條ニ列記スル所爲ヲ爲スコトヲ得ス内亂ト謂フ意味ヨリ解スルモ亦
兵ヲ擧クルヲ意味スルナリ語ヲ換テ云ハ、朝憲紊亂ノ目的以外ニ於テ内亂ナル所爲ナク内
亂トハ右ノ目的ニ基ク兵ヲ擧クルヲ云フニ外ナラス而シテ兵トハ軍隊組織ノ程度ニ達シタ
ルモノニシテ單ニ暴動ヲ起シタルカ如キハ兵ヲ擧ケタルモノト謂フヘカラス
此等ノ罪ヲ犯ス者ヲ左ノ三個ニ區別ス

- (1) 首魁 是ハ内亂ヲ起スコトヲ發念シテ他ノ者ヲシテ自己ノ意見ニ從ハシムル者ナリ此
首魁ハ一人ナルコトアリ數人ナルコトアリ何レモ其全體ヲ統率スル者ナリ此者アリテ
内亂ヲ起スニ至リ戰爭行爲ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ而シテ此者ハ戰爭ノ行爲ニ加ハラ
スト雖モ其全體ノ運動ハ一ニ此者ノ左右スル所ト爲ル例ヘハ首魁ハ心ニシテ其他ノ者
ハ皆手足トナリテ行動スルモノトス
- (2) 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲ス者 謀議ニ參與ストハ内亂ヲ企ツルニ付テ其相談
ニ與カル者ヲ云フ其他群衆ノ指揮ヲ爲ストハ首魁ノ意見ニ從ヒ又ハ自己ノ意見ヲ加ヘ
テ行動ヲ指圖スルヲ云フ舊法ハ教唆者ナル者アリト雖モ教唆者ハ内亂罪發生ノ原動力

ト爲ル者ナレハ首魁ニ對シ其意思ヲ決行セシムル者ニシテ謀議ニ參與スル者トハ異ナ
リ故ニ改正法カ教唆者ヲ除キタルハ總則ノ規定ニ依リ首魁ノ教唆者ヲ罰シ得ヘキヲ以
テ特ニ内亂自体ノ教唆者ヲ罰スル必要ナシト思料シタルニ因ルナリ而シテ本條ノ謀議
ニ參與スル者トハ舊法ニ樞要ノ職務トアルヲ改メタルモノナリ樞要ノ職務トハ其職務
カ軍隊行動ノ上ニ重要ノ關係ヲ有スルモノヲ謂フ其他諸般ノ職務トハ兵器、彈藥、穀
物、財物等ノ準備等ニ從事スル者ヲ謂フ

- (3) 附和隨行シトハ一定ノ目的モナク且ツ其事ノ是非ヲモ辨ヘス唯タ他人ノ煽動スル所ト
爲リテ總テノ行爲ヲ爲ス者ヲ云フ單ニ暴動ニ關與シタル者トハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ從
フ者ニシテ軍夫雇員ノ如キ者是ナリ

本條ノ罪ヲ犯サントシテ着手シタルモ之ヲ遂ケサル場合モ罰スルモノトス但シ附和隨行シ
其他暴動ニ干與シタル者ハ未遂罪ヲ科セサル者トス而シテ本條ニ列記スル三個ノ体様ニ應
スヘキ未遂犯トハ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ軍隊ノ組織ヲ爲シ今ヤ將ニ出陣ノ途中ニ在ルノ際
又ハ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ政府ニ屬スル官有ノ軍用品ヲ橫奪セントスルノ際又ハ政府ヲ
顛覆セントノ目的ヲ以テ國務大臣其他重要ノ位置ニ在ル人ヲ謀殺セントスルノ際意外ノ障
害ニ因リテ之ヲ遂ケサル場合ヲ謂フ

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ
禁錮ニ處ス

(註)豫備ノ所爲ハ法律之ヲ罰セサルヲ原則トスレトモ内亂罪ノ如キ事重大ニシテ國家ニ危害ヲ加フルコト甚タシキヲ以テ之ヲ罰スルモノトス本條ノ外尙ホ外患ニ關スル罪又ハ通貨偽造變造ノ豫備ヲ爲シタル場合ノ如キ之ヲ罰スルモノトス而シテ本條内亂ノ豫備トハ兵隊ヲ集メ又ハ兵器、金穀ヲ準備スル等ニ至ルヲ云フ其他或ハ海陸ノ測量ヲ爲シ軍備ヲ調査スル等モ亦豫備ノ所爲ト謂フヘキナリ

陰謀トハ二人以上相謀リ犯罪行爲ヲ計畫スルモノニシテ着手ノ所爲ニ非サルモ總テ外形ニ現ハレタル舉動ニシテ之ヲ犯罪進行ノ程度ヨリ云フトキハ決心ノ狀況ニ在ルヲ云フ

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

(註)本條ハ内亂ヲ起シ又ハ之ヲ陰謀スル者ヲ幫助スル罪ヲ規定スルナリ

内亂ヲ幫助スルニハ兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ實行又ハ豫備ノ所爲ヲ助クルモノヲ云フ而シテ其他ノ行爲トハ或ハ謀議計畫スル等ノ爲メニ家屋ヲ貸與スル等ノ便宜ヲ與フルヲ云フ

犯罪ノ幫助ハ實行中ノ者ハ之ヲ從犯ト爲サスシテ正犯ト爲シ從犯ハ豫備ノ所爲中ニ幫助スルモノヲ云フ即チ正犯ノ實行以前ニ於テ正犯ト爲ルヘキ者ニ對シテ豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助スル場合ナリ

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

(註)内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シ又ハ兵器、金穀ヲ資給シタル等ノ行爲アリタリト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル者ハ其刑ヲ免除スト規定シタリ是レ總則ノ自首減輕ノ例外ナリ此恩典ヲ設ケタル理由ハ内亂ノ所爲ハ重大ナル事件ニ付キ一旦犯罪ノ着手ヲ爲ストキハ容易ナラサル結果ヲ生シ自首ハ其效ナキニ至ルコトアルニ因ルナラン而シテ此恩典ヲ受クルニハ未タ暴動ニ至ラサル前ニ於テ自首スルニ在リ此場合ニ自首スレハ未タ其形跡ヲ社會ニ留メサル場合ナルヲ以テナリ故ニ本章ノ自首免除ハ内亂行爲ノ着手ニ至ラサル以前ニ於テ即チ豫備又ハ陰謀ノ程度ニ於テ自首スルコトヲ要ス是レ内亂ノ害ハ至大ナルヲ以テ特ニ其自首ノ效ヲ大ニシテ以テ犯人ノ自首ヲ獎勵スルニ在リ

茲ニ注意スヘキハ本章ノ自首免除ハ内亂ノ豫備陰謀ニ對スル本刑ヲ免除スル規定ナレハ内亂ノ豫備陰謀ヲ罰スヘキモノニノミ適用セラル、モノナルコトヲ知ルヘシ又本條ノ自首免除ハ總則自首減輕ノ例外ナレハ總則ノ規定ニ基キ事發覺前ニ官ニ自首シタルトキハ假令本條規定ノ條件即チ暴動ニ至リタル後ト雖モ減輕セラル、モノナリ

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與

シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

(註)外患ニ關スル罪トハ國家ノ外部ノ安寧ヲ危フクスル罪ヲ云フ本章ノ罪ハ主トシテ戰時ニ於ケル帝國ノ軍事上ノ利益ヲ保護スルヲ目的トス
本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件アルヲ要ス

- 一 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ
- 二 敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者

第一ノ場合ハ外國ト一致シテ我國ニ對シテ戰爭ヲ起サシムルヲ云フ外國トハ日本ノ領土以外ニ於テ別ニ一定ノ土地人民ヲ有シ唯一主權者即チ皇帝又ハ王、大統領アリテ統治スル國ヲ云フ故ニ國際公法上國家トシテ其獨立ヲ認メラレサルモノヲ謂フニ非ス

第二ノ場合ハ直接ニ日本國ニ叛イテ敵國ヲ幫助スルヲ云フ敵國トハ日本國ニ對シテ寇ヲ爲ス國ヲ云フ與スルトハ合同スルノ義ニシテ其身ハ外國ニ入り軍隊ノ中ニ加ハリ又ハ外國軍隊ト盟約ヲ結ヒ共同連合シタル者モ亦外國ニ與シタル者ナリ

帝國ニ抗敵スルトハ公然兵器ヲ採テ日本軍ニ敵スルヲ云フ者ニシテ未タ其實戰ニ當ラスト雖モ已ニ日本軍ト戰ハントスル姿勢ヲ示ストキハ本罪ヲ構成スルモノナリ

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(註)本條ハ舊法第三百十條後段若クハ以下ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ而シテ第一項ニ於テハ軍用ニ供スル場所建物等ノ如ク交付ノ目的物ノ比較的重要ナルヲ交付シタル場合ヲ規定シ第二項ニ於テハ軍用ニ供スル物ヲ交付シタル場合ヲ規定シタルモノナリ軍用ニ供スル物トハ例ヘハ穀物、石炭等總テ戰爭ノ用ニ立ツモノヲ云フ

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(註)本條ハ舊法ニナキ規定ニシテ改正法カ新タニ設ケタルナリ而シテ改正法ハ陸軍刑法第五十八條同法第六十一條ノ規定ヲ基礎トシテ本條ヲ設ケタルモノナリ本條ニ列舉シタル物ヲ損壞シ又ハ之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルカ如キハ實際上往々生ス可キ罪ナルヲ以テ之ヲ規定シタルモノナリ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

(註)本條モ亦改正法カ新タニ設ケタル規定ナリ帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥トハ一私人ノ所有シ又ハ製造シタルモノヲ云フ其他直接ニ戰鬥ノ用ニ供スヘキ物トハ例ヘハ糧食、兵馬、石炭等ノ如キモノヲ云フ此等ノ物ヲ敵國ニ交付スルハ自己カ利ヲ得ルノ目的ニ在ルト敵國ヲ利スル爲メニスルトヲ問ハサルナリ何レノ場合モ日本國ニ對シテ不忠ノ所爲ト謂ハサルヘカラス

第八十五條

敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

(註)本條モ亦日本ノ臣民ニシテ敵國ヲ利スル罪ヲ規定シタルモノナリ

間諜トハ俗ニ「マハシ者」ト云ヒ軍事探偵ヲ爲ス者ナリ此等ノ行爲ハ最モ不忠ノ所爲ニシテ而シテ敵國ニ利益ヲ與フルコト大ナルモノニシテ其罪重カルヘキハ當然ナリ敵國ノ間諜ヲ幫助スルトハ日本ニ誘導シテ彼カ軍事探偵ニ總テニ便宜ヲ與フルノ所爲ナリ此等ノ者モ亦自己ニ其報酬ノ利ヲ得ントスルニ在レハ其情狀最モ憎ムヘキナリ

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者トハ例ヘハ我國ノ兵隊屯營ノ地ヲ報知シ又ハ作戰計畫等ノ總テ秘密ニシアルコトヲ敵國ニ告ケルコトヲ云フ、漏泄トハ秘密ヲ告ケルノ意ニシテ秘密ヲ守ラス之ヲ漏泄シテ自己ニ利ヲ得ントスル者ナリ

第八十六條

前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

(註)軍事ニ關スル犯罪ノ前數條ニ記載シタル事項ニテ盡スヘキモノニアラス唯タ大体ノ重要ナル事項ノミヲ擧ケタルモノナレハ尙ホ此他ニモ之レアルヘキハ勿論ナレハ前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益トナルヘキ事ヲ與ヘ又敵國ニ利益トナラサルモ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ本條ノ規定ニ從ヒ罰スルモノトス

本條ハ舊法第百二十二條ノ規定ニ依リ設ケタルモノナレハ前五條ニ記載シタル以外ノ方法トハ舊法ニ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其路遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタルトキニアリ然ラハ則チ本罪ノ成立要素ハ左ノ如シ

- 一 交戦中ナルコト
- 二 犯罪ノ目的ハ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及工作ヲ爲ス者カ敵國ニ通謀シ又ハ其路遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタルコト
- 三 右ノ行爲ニ因リ軍備ノ缺乏ヲ來タシタルコト

第一本罪ハ交戦ナルヲ要ス故ニ平時ニ在テハ本條ノ規定ニ從フモノニアラス第二ノ場合ハ

陸海軍ヨリ委任ヲ受ケタル者ナルヲ要スルカ故ニ直接ノ受任者ヨリ更ニ下請負ヲ爲シタル者又ハ受任者ノ使役ニ供セラル、職工雇人ノ如キ者ハ本罪ヲ構成セス
 物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲ス者タルコトヲ要スルカ故ニ物品ノ運送又ハ軍夫ノ雇入請負ノ如キ者ハ本罪ヲ構成セサルモノトス
 賂遺ヲ收受セシトハ敵國ヨリ又ハ敵國ヲ幫助スル者ヨリ賂賂ヲ受ケタル者ニシテ而シテ敵國ヲ幫助スル者ヨリ賂賂ヲ受ケタルトキハ未タ敵國ト通謀シタルノ事實アラサルモ本罪ヲ構成スルモノトス

命令ニ違背スルコトヲ要スルカ故ニ其命令カ陸海軍ノ爲メ不利ナルコトヲ知リツ、別ニ忠告ヲ爲サス之ニ應シタルモ本罪ヲ構成セス

軍備ノ缺乏ヲ來タスコトヲ要スルカ故ニ假令ヒ命令ニ違背スルモ却テ軍備ヲ完全ナラシメタル場合ハ勿論別ニ軍備ノ缺乏ト云フ結果ヲ來タサ、ルトキハ本罪ヲ構成セス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)未遂罪ハ之ヲ罰スル場合ト之ヲ罰セサル場合トアルコトハ前ニ已ニ述ヘタル所ナリ本條ハ前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ストセリ是レ本章ノ犯罪行爲タル國家ニ危害ヲ加フルコトノ甚大ナルヲ以テ之ヲ罰スルモノトシタル所以ナリ

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本章ノ罪ハ國家ニ危害ヲ加フルコトノ重大ナルヲ以テ豫備又ハ陰謀ニ止マル場合ト雖モ之ヲ罰スルモノトス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

(註)戰時同盟國トハ一國カ他國ト戰端ヲ開キタルトキハ一國カ之ヲ援ケルヲ云フ其同盟條約ノ内容ニハ種々アリテ一様ナラス或ハ攻守トモ同盟スルモノト攻守ノ中孰レカ一方ノミヲ援ケルコトヲ同盟スルモノトアリ近キハ我國ト英國トハ戰時同盟ノ條約ヲ爲シタリ戰時同盟國ハ戰爭中ハ一國ト視做セハナリ故ニ本章ノ規定ヲ戰時同盟國ニ對スル行爲ニモ亦之ヲ適用スルモノトシタル所以ナリ

第四章 國交ニ關スル罪

(註)國交ニ關スル罪トハ帝國ニ現在スル外國ノ君主大統領又ハ使節ニ對スル暴行脅迫又ハ侮辱ノ罪及ヒ外國ニ對スル非禮ノ罪ヲ云フ而シテ國交ニ關スル罪ヲ設クルニ付キ相互主義ト單獨主義トノ二アリ相互主義ハ外國ノ刑法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケタル場合ニ限り內國ニ於テモ本章ノ規定ヲ適用スルモノナリ單獨主義トハ外國法ニ於テ本章ノ罪ヲ規定セサルモ之ヲ罪ト爲スモノヲ云フ我刑法ハ單獨主義ヲ採リタルモノナリ

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫

ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三
年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

(註)本條ハ帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル場合ト又
ハ侮辱ヲ加ヘタル場合トニ分チテ規定スルモノナリ
暴行脅迫ハ普通ノ暴行脅迫ニシテ即チ其ノ身體ニ對シ毆打創傷等ヲ加ヘ又ハ之ヲ加ヘント
脅迫シタル場合ヲ云フ此等ノ場合ハ本條第一項ノ規定ニ從ヒ懲役ノ刑ニ處セラル、モノト
ス

第二項ノ侮辱ヲ加フルトハ尊敬ヲ欠キ又ハ罵詈譎笑シテ榮譽ヲ傷ケタルヲ云フ而シテ侮辱
ノ場合ハ其侮辱ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ宥恕シ亦其ノ本國政府モ之ヲ國際問題ト爲サ、ル
トキハ之ヲ罪ニ處スルノ必要ナシ故ニ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スル者トス是レ通常
人ニ對スル誹毀罪ト同ク本罪ノ性質上親告罪ニ屬スヘキモノニシテ特ニ其國風習ノ異ナル
アリテ我國ニ於テハ侮辱ニ相當スルモノト彼國ニ於テハ否ラサルモノアリテ起訴不起訴ヲ
當該檢事ニ一任スヘカラサルモノアレハナリ又本條ニ之ヲ告訴トセスシテ請求トシタルハ
告訴ハ一定ノ法式ヲ要スルヲ以テ之ハ外國政府ヲシテ手續上ノ困難ヲ感セシムルノ煩ハシ
ケレハナリ

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ
加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以
下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

(註)本國ノ使命ヲ受ケテ日本ニ來タル外國ノ使節即チ公使又ハ特命全權公使、大使等ハ國
際上相當ノ敬禮ヲ加ヘテ待遇スヘキモノナルニ此等ノ人ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ或ハ
侮辱シタル者ハ本條ノ規定ニ從ヒテ處罰スルモノトス但シ侮辱ハ被害者ノ請求ヲ待テ其罪
ヲ論スルモノトス是レ其理由ハ前ニ述ヘタルニ依リテ明カナリ

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國
章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下
ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

(註)本條ハ外國ノ國其者ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ左ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テノ規
定ナリ

外國ノ國旗其他ノ國章即チ一種ノ徽章トモ云フヘキモノニシテ其國ヲ表明スル爲メニ公使
館等ノ門ニ掛ケアル如キ類ノモノヲ損壞シ或ル場所ニ樹テアルモノヲ取除キ又ハ之ニ不潔

物ヲ以テ汚穢シタルハ其國ヲ侮辱シタル所爲ナリ然レトモ侮辱スルノ目的ニ非スシテ無意ニ又ハ過失ニ出テタル時ハ本條ノ問フ所ニアラス且ツ假令ヒ之ヲ處罰スヘキモ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

(註)本條ハ舊法第百三十三條ヲ修正シタルモノニシテ舊法ニ「戰端ヲ開ク」トアルヲ戰鬪ヲ爲スト改メタリ其理由ハ即チ戰端ハ戰争ヲ開始スルノ義ニシテ戰争ナル語ヲ實際ニ適用スルニ付テハ疑ヒナキ能ハス寧ロ戰鬪ト爲シ對手ノ一人タル場合ニ廣ク適用スルコトヲ便宜トシタルナリト云フ理由ナリ然ラハ本條ニ所謂外國トハ一國ヲ指スニアラス何トナレハ法文ニ私ニト云ヒ戰鬪ト改メタルヨリ考フレハ外國ノ沿岸若クハ一村落ヲ騷擾シ財物ヲ劫掠スルカ如キヲ意味スルモノト謂フヘシ

私ニトハ宣戰布告ノ大權アル日本帝國天皇ノ命令又ハ許可ヲ得スシテト云フノ意義ナリ故ニ日本人群ヲ爲シテ外國ノ一都府若クハ一村落ヲ對手トシテ戰鬪ヲ爲シタル場合ナリ本條ハ唯タ豫備陰謀ニ止マル場合ナレハ之ヲ自首シタル者ハ其刑ヲ免除セラル、モノナルコトハ第八十條ノ規定ト同一ノ精神ナリ

第九十四條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)局外中立國トハ一國ト一國ト戰爭ヲ爲ス時ニ際シ其何レノ國ニモ援助ヲ爲サ、ルヲ局外中立國ト謂フ局外中立ヲ守ルハ國際公法ノ規定スル所ナリ而シテ局外中立國トシテ守ルヘキ條件ハ國際公法ノ定ムル所ニシテ之ヲ局外中立ニ關スル命令ト云フ即チ局外中立ノ布告ナリ局外中立國タルニハ局外中立スル旨ヲ各國ニ布告シ其布告ニ種々ノ命令禁止ヲ明示スルモノナリ此ノ命令禁止ニ違背シタル者ハ本條ニ依リ罰スヘキナリ局外中立國カ布告シ命令スル所ノ事項ハ種々アレトモ二個ノ方法ニ分ツ其一ハ唯局外中立ヲ守ルヘキコトノミヲ命令シ特ニ局外中立國民トシテ爲スヘカラサル事ヲ列記シタル命令ヲ發セサル場合ト一ハ局外中立國タルコトヲ命令スルト共ニ局外中立國ノ臣民トシテ爲スヘカラサルノ事項ヲ列記スル所ノ命令ヲ發スル場合はナリ而シテ左ノ場合ニ於テハ其如何ナル所爲カ局外中立ノ布告ニ違背スルヤハ一ニ國際公法ノ原則ニ依テ之ヲ判定セサルヘカラス而シテ第二ノ場合ニ於テハ命令ニ列記セラレサル所爲ハ假令ヒ國際公法上局外中立違背ノ所爲ト認ムヘキモノト雖モ之ヲ處罰スルコトヲ得サルカ此點ニ付テハ之ヲ處罰スルコトヲ得サルモノトスル説ト其命令ニシテ列記以外ノ所爲ヲ處罰セスト明記スル場合ノ外ハ其列記以外ノ所爲ト雖モ一般國際公法上ノ原則ニ依リテ局外中立違背ノ有無ヲ判定セサルヘカラサルモノニシ

テ單ニ列記ノ事項ニ限リテ特ニ國際公法ノ原則ニ依リ之ヲ判定スルノ必要ナキニ止マルヘキナリ而シテ國際公法上局外中立違背ノ行爲トシテ認メラルヘキモノハ兵器、彈藥其他石炭、艦船等ヲ給與スルカ如キハ當然違背ノ行爲ナリ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

(註)舊法ニハ官吏ト公務員トヲ各別ニシテ唯官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ニ付テ其規定ヲ設ケタレトモ公吏、議員ニ關シテハ特別法ニ規定シテ未タ一般ニ公務ノ執行ヲ保護スル法無キヲ以テ改正法ハ廣ク公務員ノ職務執行ノ安全及ヒ公務所又ハ公務所ノ尊嚴ヲ保護スル目的ヲ以テ廣ク公務員ニ對スル妨害罪ニ付テ規定シタリ

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫

ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

(註)公務員ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ハ左ノ行爲アルヲ要ス

- 一 暴行脅迫ヲ以テ抗拒シシタ所爲アルコト 暴行トハ人ニ對シテ腕力其他ノ方法ヲ以テ外部即チ身體ニ害ヲ加フルヲ云フ然レトモ其所爲カ未タ疾病創傷ニ至ラサル程度マ

テノ行爲ヲ云フ

脅迫ニハ二様アリテ一ハ其手段ノ如何ヲ問ハス總テ人ノ心中ニ畏怖ヲ生セシムル行爲ヲ云フ一ハ無形ノ暴行ノ意味ニシテ人ノ心中ニ急迫ナル危害ヲ受クルコトヲ信セシムルニ足ルヘキ行爲ヲ云フ例ヘハ汝ヲ毆打スヘシトカ或ハ殺害スヘシトカ云フカ如キ脅迫ナリ而シテ本條ノ場合ハ此二者中孰レニ在ルヤト云ハ、公務員カ職務ヲ執行スル場合ハ公權命令ニ服從セサル者ニ對シ強制的ニ執行ヲ爲ス場合ナルカ故ニ之ニ對スル脅迫ナレハ重キ脅迫ナルヘシト云フモ不可ナキナリ

- 二 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ヲ爲スヘキコトヲ要ス 故ニ公務員ニ對シ假令ヒ暴行脅迫ヲ加ヘルト雖モ職務ヲ執行セサルトキナレハ本條ノ罪トナラス公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其職務ヲ妨害シテ執行セシメサルノ意思アルコトヲ要ス例ヘハ執達吏カ財産差押ノ場合、收稅吏カ稅額取調ノ際、巡查カ拘引ヲ爲サントスル等ノ場合ニアルカ如シ

職務執行トハ法律規則ヲ執行シ又ハ行政命令ヲ執行スルヲ云フ即チ左ノ處分行爲ヲ爲スモノトス

(1) 法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルコト之ヲ分析スレハ左ノ如シ

- 一 法律規則即チ法律タルト勅令省令等ノ命令タルトヲ問ハス之ヲ執行スル場合
- 二 行政官署ノ命令ヲ執行スル場合ナルコト即チ處分令ノ執行ナリ例ヘハ收稅官吏カ收

税金納ニ付キ行政處分ヲ執行スルカ如シ

- 三 司法官署ノ命令ヲ執行スルコト例ヘハ判決又ハ決定ヲ執行スルカ如キ場合ナリ
- (2) 其職務ヲ以テ執行スル場合ナルヲ要ス 職務ヲ執行スルニ當リテ之ヲ爲スコトヲ要ス故ニ其職務執行ニ着手シ執行ヲ始メタル場合ニ非サレハ執行スルニ當リテト云フヘカラス故ニ財産差押ヲ爲サント其目的ノ家ニ往ク途中ニテ執達吏ニ妨害シタルカ如キハ本罪ヲ爲サス

(3) 公務員カ行フ職務カ正當ノ權限ニヨリ執行スルコトヲ要ス故ニ權限外ノ職務ヲ執行スルニ當リテ妨害ヲ爲シタルモ本罪ヲ成サス

(4) 妨害ヲ爲シタル場合ニ公務員カ其妨害ノ爲メニ職務ヲ行フコト能ハサリシヤ否ヤヲ問ハス妨害スレハ足レリ而シテ其妨害ハ暴行脅迫ヲ以テスルコト

(5) 公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ職務ノ執行ヲ妨害スルニアラスシテ自己ノ利益ノ爲メニ或處分ヲ爲サシメントシ又ハ其公務員ノ行爲カ自己ノ意ニ満足セサル處アツテ其職ヲ辭セシムル爲メナル場合ニ妨害ヲ爲シタル者

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註) 本條ハ公務員カ職務上施シタル處分ニ對スル犯罪ノ處罰ヲ規定シタルモノナリ

收稅吏又ハ執達吏カ職務上ノ處分ヲ以テ財産若クハ物品ニ施シタル封印又ハ差押ヲ爲シタル標示ヲ損壞シテ無効タラシメタルモノナリ而シテ其封印及ヒ標示ヲ損壞シタルモ一部ヲ損壞シタルモノニシテ全ク無効タルニ至ラサル場合ハ本條ノ罪ヲ構成セス

第六章 逃走ノ罪

(註) 舊法ニハ囚徒ナル語ヲ用ヒタルモ囚徒ト云ヘハ二人以上ナルヲ要スルカ如キ嫌ヒアルヲ以テ改正法ハ之ヲ囚人ト爲シタリ又舊法ニハ單ニ囚徒ニ關スル罪ニ限リタリト雖モ苟モ其自由ヲ剝奪セラレテ一定ノ設備中ニ拘禁セラル、者ハ必スシモ囚人ニ限ラス懲治場ニ留置セラル、者ノ如キモ逃走スルトキハ本條ノ規定ニ適當スルモノナリ舊法ニ依レハ囚人逃走ヲ爲シタルトキハ之ヲ罪ト爲スト雖モ留置人同一ノ行爲ヲ爲シタルトキハ少クトモ刑法上ノ罪責ヲ負ハシメス其他留置人ノ奪取、其逃走幫助ノ行爲ニ付テモ亦同一ナリトスルモ其當ヲ得タルモノニ非ストシテ改正法ハ單純ノ逃走罪ハ囚人ニノミ之ヲ認ムト雖モ其他ノ者ニ付テハ汎ク法令ニ依リ拘禁セラレタル者ニ付キ之ヲ認メタリ

以上ノ理由ニ依リ逃走罪ハ囚人ノミナラス被拘禁者ハ皆逃走罪ニ問ハル、者ナルコト明カナリ即チ懲治場ニ留置セラル、者ト雖モ逃走シタル者ハ相當ノ罪責ヲ負ハシムルモノトス

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處

ス

(註)逃走罪ニハ單純ノ者ト複雑ノ者トアリテ單純ノ逃走トハ他ノ囚人ニハ關係ナク一人ノ逃走ヲ云フ複雑ノ逃走トハ二人以上相一致シテ犯シタル場合ヲ云フ此ノ場合ハ特ニ罪ヲ加重シテ一等ヲ加フルナリ是レ犯シ易クシテ防キ難キカ故ナリ囚人ニハ既決囚ト未決囚トアリ未決ノ囚ハ未タ其裁判ハ確定セサル者ナリト雖モ囚人タルニハ異ナル所ナシ故ニ既決ノ囚ト同一ノ逃走罪ニ處セラル、モノナリ逃走トハ法令ニシテ囚人ヲ監督スル者ノ監督區域ヲ脱シタル所爲ヲ云フ故ニ必スシモ獄内ヨリ逃走シタルノミニ限ラス外役先ニ於テ逃走シタル者モ亦本罪ヲ構成スヘキモノトス而シテ逃走ノ既遂ト未遂トヲ區別スルニハ監督區域ヲ脱シ終リタルトキヲ既遂トシ未タ追跡スル看守ノ眼界ヲ脱セサルトキハ未遂ト云フヘシ

第九十八條

既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場

又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又二人以上通謀シテ逃走

シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ囚人ノ逃走スルニ械具ヲ損壞シ又ハ暴行、脅迫ヲ爲シ若クハ二人以上通謀シテ即チ相一致シテ逃走シタル場合ヲ規定シタルモノナリ逃走罪ニハ既決未決ノ囚人ハ固ヨリ拘引狀ノ執行ヲ受ケテ拘留場ニ入レラレタル者モ逃走シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス而シテ逃走ノ手段トシテハ械具ヲ損壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他二人以上相謀テ逃走ス

ルニ在リ

第九十九條

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上

五年以下ノ懲役ニ處ス

(註)法令ニ因リ拘禁セラレタル者トハ不法ニ監禁セラレタルモノニ非スシテ相當官吏ノ監督ノ下ニ拘禁セラレタル者ヲ云フ之ヲ奪取スルトハ或ハ囚人ノ依頼ヲ受ケルカ又ハ之ヲ獄舎ヨリ出シテ逃走セシメ其苦役ヲ免レシメントノ意ヲ以テ監獄内ヨリ引出シテ逃走セシムルヲ云フ而シテ奪取スル手段ニハ監督者ノ隙ヲ窺ヒ若クハ監督者ニ抵抗シテ之ヲ遂クル者ナリ

第一百條

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具

ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下

ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ

懲役ニ處ス

(註)本條ハ囚人ノ逃走ヲ幫助スル者ノ規定ナリ
囚人ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ其幫助ヲ爲シ囚人ニ對シ獄舎ヲ破壊スヘキ器具ヲ給與シ其

他逃走ニ便宜ヲ與ヘテ逃走ヲ得セシメ且ツ容易ナラシメタル者ハ本條第一項ノ規定ニ從ヒ處罰スルモノトス

第二項ハ囚人ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與スルニモ平穩ニ便宜ヲ與ヘタルニ非スシテ暴行脅迫ヲ爲シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ監督ノ職責アル者カ囚人ヲ逃走セシメタル場合ノ規定ナリ

本條ノ罪ヲ構成スル者ハ故意ニ逃走セシムル場合ト又ハ懈怠即チ油斷ニヨリテ逃走セシメタル場合トアルヘシ即チ本罪ノ成立要件ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 犯人ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守シ又ハ護送スル職責アルコト

第二 自己ノ看守シ又ハ護送スル被拘禁者ヲ逃走セシメタルコト

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本章ノ罪モ亦社會ニ害ヲ及ホスコトノ重大ナルニ因リ未遂罪ヲ罰スルモノトス改正法ハ今日ノ實際ニ於テ囚人ノ逃走スル者ノ多キハ舊法ノ刑輕キニ過クルモ亦其原因ノ一トシテ此弊ヲ防遏スル爲メ其刑ヲ重クシタルナリト云フニ在リ是ヲ以テ未遂罪ヲ罰スルモノトシタルナリ

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

(註)本章ノ罪モ亦舊法ニ比較上稍重クシタル理由ハ舊法ハ本章ノ罪ニ對シ輕禁錮ヲ科スト雖モ往々盜賊ヲ使役シテ不當ノ利得ヲ圖ル如キ者アルヲ以テ本章ノ罪ニ對シテハ懲役ニ處スルコト、セリ之ニ反シテ單ニ知己即チ友人其他老人子供ヲ庇護スル爲メ犯シタル者ノ如キハ其情極メテ輕キヲ以テ此等ノ犯人ニハ罰金ヲ科スルコト、シタリ

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ハ犯人ヲ藏匿及ヒ隱避スルノ罪ニ付テ規定シタルモノナリ

本罪ヲ構成スルニハ左ノ行爲アルヲ要ス

一 罰金以上ノ刑ニ該ル者ナルコト

二 犯人ヲ藏匿スルコト

三 犯人カ逃走ノ囚人ナルコト

(一)茲ニ犯人ト謂フハ實際罪ヲ犯シタルモノニシテ有罪ノ判決ヲ受ケタル者其他有罪ノ嫌疑ヲ以テ官ノ捜査中ノ者ヲモ包含スルナリ何トナレハ犯人ノ發見又ハ逮捕ヲ妨害スルノ行爲ナルヲ以テナリ而シテ其犯人ハ罰金以上ノ刑ニ該ル者ナルコトハ罰金刑ノ者ハ拘禁セラ

ル、コトナケレハナリ之ヲ藏匿スルニハ藏匿者ニ於テ犯人身ヲ隠スニ適當ナル場所ヲ與ヘテ之ニ居ラシムルヲ云フ故ニ罪人自カラ其場所ヲ撰ミテ之ニ隠レ居ルヲ知リナカラ官ニ告ケサルカ如キヲ云フニ非ス此ノ場合ハ唯タ官ニ告ケサルノミナレハ罪トナラス

(二)逃走ノ囚人ヲ藏匿スル場合 犯人ヲ藏匿スルハ逃走ノ囚ニ限ラス未タ拘禁セラレサル者ニテモ現ニ罪ヲ犯シ官ノ捜査中ナル者ヲ藏匿スルモ本罪ヲ構成スルコトハ前ニ述タルカ如シ而シテ逃走ノ囚ヲ藏匿スルハ固ヨリ本罪ヲ構成スヘキモノトス囚人ハ既決未決ヲ問ハス拘禁セラレテアル者ヲ云フ故ニ若シ逃走ノ囚ニアラスシテ未決ノ者ノ保釋ヲ許サレタル者又ハ既決囚ノ假出獄ヲ許サレテ家ニ在ル者ヲ云フニ非ス

隠避トハ他人ヲシテ隠レ場所ヲ與ヘシメ自分ハ罪人ヲ之ニ赴カシムルニ便利ヲ與フルヲ云フ例ヘハ隠匿ノ場所ヲ他人ニ借リテ其所ニ行カシメ其旅費及ヒ衣類ヲ給スルカ如キ是レナリ

第四百條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造

シ若クハ偽造、變造ノ證據ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ハ未決ノ囚ニシテ刑事被告人タル者ノ證據トナルモノヲ湮滅シ又ハ之ヲ偽造變造シタル者等ノ處分ニ關スル規定ナリ

刑事被告人ニハ罪跡ヲ取調フル爲メニ證據物件ノ必要ナルハ言フヲ俟タス然ルニ之ヲ湮滅シテ證據物件ヲ失ハシムレハ證據調ヲ爲スコト能ハス被告人ヲシテ或ハ有罪タルヘキ者モ無罪ニ歸スル等ノ結果ヲ見ルコトアルナリ

湮滅トハ之ヲ毀棄シ滅却シテ形ヲ失ヒ證據トナルヘキ效力ヲ無クスルヲ云フ又罪證トナルヘキ物件トハ例ヘハ死體、刀劍、衣類、竊盗用具等ヲ云フ

又湮滅シタルニ非スシテ被告人ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ利益トナルヘキ證據物ヲ偽造又ハ變造シ若クハ自ラ偽造變造シタルニ非スシテ偽造變造ノ證據ヲ使用シテ被告人ヲシテ或ハ無罪ナラシメ或ハ刑ヲ輕カラシメタル者ハ本條ノ罪ニ問フヘキモノトス

第四百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

(註)本章ノ罪ハ被告人又ハ逃走者ノ親族ニシテ此等ノ者ノ利益ノ爲メニ犯シタル者ハ其罪ヲ罰セストシタルハ親族ハ相互ニ庇護スルハ情誼ノ然ラシムル所ナレハ法律モ之ヲ許スニ在リ是レ法律ハ道德ヲ無視スルモノニ非サレハナリ而シテ茲ニ親族トハ父母、祖父母、兄弟、妻子孫ヲ云フ又配偶者ノ直系尊屬親ヲモ此中ニ包含スルモノトス

第八章 騷擾ノ罪

第四百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ

左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附加隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本章ハ兇徒嘯衆ノ罪ト稱シタルヲ文字ヲ改メタルモノナリ其理由ハ多衆ヲ嘯集スト云フハ博徒又ハ強盜ノ如キ者ヲ集ムルニアラスシテ良民ト雖モ此中ニ在リ而シテ其目的カ如何ナル事ニアルヤヲ問ハス之ヲ遂ケントシテ多衆ヲ聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ヲ云フニ在リタレハ未タ暴動ヲ爲サル前ニ之ヲ兇徒ト謂フコトヲ得サルナリ

- 一 多衆聚合スルコトヲ要ス故ニ數人ノ集合スルヲ云フニ非ス
- 二 其目的ノ如何ナルヲ問ハス之ヲ遂ケントシテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スニ在ルコト而シテ其暴行脅迫ヲ爲スニハ左ノ如ク犯行ヲ區別スルナリ
 - (1) 首魁即チ發黨人ニシテ總テノ者ヲ自己ノ意見ニ從ハシムル者ヲ云フ
 - (2) 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヒヲ助ケタル者首魁ノ意見ヲ用ヒ指圖役ト爲リ他人ニ先タチテ其勢ヒヲ助ケルヲ云フ

(3) 附和隨行トハ暴動ノ行爲ヲ贊成シテ指圖ニ從ヒ單ニ暴動ヲ爲ス者ヲ謂フ
 本條ハ何等ノ目的ヲ問ハスト規定シタルハ本條ノ罪ヲ成立スルニハ一定ノ目的ヲ要スルコトヲ明ニシタルモノニシテ從テ村社ノ祭禮等ニ多衆力興ニ乘シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルカ如キハ之ヲ含まサルモノトス

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本罪ハ多クハ一時ノ激昂ニ乘シテ犯ス者ニシテ其ノ心情ニ於テハ不正ノ念アルコトナシ故ニ其ノ暴行モ家屋ヲ損壞シ器物ヲ毀棄シ或ハ官廳ニ喧鬧シ公務員ニ強迫シ或ル事ヲ請願センカ爲メ竹槍、席旗ヲ押立ツル如キ者ナレハ多衆聚合シタルモ公務員ノ説諭ヲ受ケテ速カニ解散シタル者ハ其罪ヲ論セス唯タ其説諭カ三回以上ニ及フモ猶ホ説諭ニ服セスシテ解散セサル者ヲ罰スルニ在リ是レ其ノ犯行カ已ニ着手ノ場合ト雖モ猶ホ豫備ノ場合ニ於ケルカ如キモノニシテ漸ク實行ノ端緒ニ在ル場合ナレハナリ

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第一百八條 火ヲ放テ現ニ二人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、

汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

(註)舊法ハ放火、失火ノ罪ヲ以テ財産ニ對スル罪ト爲シタレトモ放火、失火ハ寧ロ靜謐ヲ害スル罪ニ屬スヘキモノナルヲ以テ本章ニ規定シタルナリ

本條ハ舊法第四百二條及ヒ第四百五條第一項ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊法ハ家屋、船舶及ヒ汽車ノ燒燬ニ付テノミ規定シタレトモ改正法ハ廣ク建造物、汽車、艦船トシ更ニ電車、鑛坑ヲ加ヘタリ

本條ノ罪ヲ構成スルニハ

第一 現ニ人ノ住居ニ使用シタル家屋又ハ家屋ニ非サルモ人カ現ニ在ル所ノ建造物例ヘハ博物院、學校、工場等ノ如キモノニ火ヲ放ツコト

第二 汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタルコト是等ノ物ニ火ヲ放ツモ現ニ人ノ居ル時ニ爲シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

家屋ニ人ノ住居スルハ一時ノ滞在ト永久トヲ問ハス現ニ住居スルヲ云フ而シテ火ヲ放ツ際留守中ナリシモ仍ホ現ニ住居ニ使用シ居ルモノナレハ人ノ居ル場所ト同一ナルモノト知ルヘシ

人ノ現在スルトハ一時的ノ事ニシテ常ニ居ルヲ云フニアラス故ニ劇場ニ觀客ノ滿チタルトキモ人ノ現在スル場合ナリ汽車等モ人ノ乗合スル場合ノ如キハ人ノ現在スル時ナリ故ニ空

車ナルトキハ本條ノ罪ヲ構成セサルナリ

放火ノ既遂未遂ハ左ノ如ク區別スルモノトス

(一) 火ヲ放ツコト 其手段ノ如何ナルヲ問ハス之ヲ燒燬セントノ意思ヲ以テ火ヲ放ツニ在リ

(二) 燒燬スルコト 燒燬スルノ程度ハ假令ヒ一部分ト雖モ燒燬シ其目的物カ火力ノ爲メ其原形ノ一部ヲ失ヒタルトキ即チ通常ノ使用ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキヲ以テ既遂トスト云フヲ以テ今日ノ學者ノ確説トス即チ燒燬トハ犯人ニ依テ放火セラレタル火カ其媒介物タル燃料ヲ離レテ獨立シテ其燃燒カ繼續シ得ヘキ狀況ニ達シタルトキヲ以テ既遂トスルナリ語ヲ換テ言ヘハ燃燒力カ其儘ニシテ置クトキハ如何ナル程度迄モ延焼スル勢ヒヲ呈シタル時ニ在ルモノトス

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但
公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

(註)本條ハ人ノ住居セサル家屋ニ火ヲ放チタル場合ナリ而シテ人ノ家屋トハ犯人以外ノ者カ住居セサル家屋ニ付テハ其家屋カ犯人以外ノ者ニ屬スルト犯人ノ所有ニ屬スルトニ依リ

テ之ヲ區別シ第一項ハ犯人以外ノ者ノ所有ニ屬スル家屋ニ火ヲ放チタル場合ニシテ其家屋ハ人ノ住居ニ使用セルモノニシテ例ヘハ廢家ノ如ク只タ家屋ト云フ名ノミナル位ノ家ヲ云フモノナラン又人ノ現在セサル建造物其他艦船等ニ火ヲ放チタルトキハ危險ノ度輕キカ故ニ本條ヲ以テ罰スルモノトス

本條第二項ハ住居ニ使用セサル家屋其他ノ物カ自己ノ所有ニ係ル場合ヲ規定シテ其火ヲ放チタルモ公共ニ危險ヲ及ホスノ虞アルトキト之ナキトニ區別シ若シ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ其罪ヲ問ハストセリ例ヘハ山野ニ在ル一軒屋ノ如キモノニ火ヲ放チタルトキハ其危險ヲ公共ニ及ホサルモノナリト謂フヘシ

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)前二條ニ記載シタル以外ノ物トハ例ヘハ山林田野ノ竹木穀物又ハ積置キタル柴草等ヲ云フ是等ノ物ハ多クハ公共ノ所有ニ係ルモノナレハ其危險廣ク公共ニ及ホスカ故ニ比較的其罪ヲ重クシタルナリ
右ノ物カ自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ公共ノ危險ヲ生スル場合ハ全ク無罪責ト爲スコトヲ

得スシテ本條第二項ノ規定アリタル所以ナリ

第一百十一條 第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八條又ハ第九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ自己ノ所有ニ係ル物ニ火ヲ放ツモ他人ノ所有物ニ危險ヲ生セシメタルトキハ即チ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船等其他人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船等ニ延燒セシメタルトキハ第一項ノ規定ニ依テ處斷スルモノトス

又自己ノ所有ニ係ル物ニ火ヲ放テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ本條第二項ニ照シテ處斷スルナリ

第一百十二條 第八條及ヒ第九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ放火ノ未遂ノ場定ヲ規程シタルモノナリ
放火ノ未遂ト既遂ノ區別ハ學者其說ヲ異ニシ一定セス左ニ之ヲ掲ケテ示スヘシ

第一 目的物ニ火ヲ傳フヘキ媒介物例ヘハ枯草、木屑カ燃始メタルトキヲ既遂ナリトス
第二 目的物其物カ燃始メタルトキヲ既遂ナリトス
第三 自然ノ勢ヒニ從ヒ目的物一般ニ燃廣カルヘキ状態ニ達セルトキヲ既遂ナリトス
第四 目的物カ其用ヲ失ヒタルトキ又ハ原形ノ大部分ヲ失ヒタルトキヲ既遂ナリトス
右四說中第一第二ハ探ルニ足ラス第三第四ハ當レリト雖モ猶ホ未タ十分ナラス是レ放火ノ既遂ハ目的物ノ一部ニテモ燒失毀損シタルトキヲ以テ既遂ト爲スヲ確説トス最近ノ判決例ヲ見ルニ左ノ如ク判決セラレタリ
假令ヒ燃燒ノ爲メニ家屋カ燬壞ノ程度ニ達セサル場合ト雖モ苟クモ燃燒ノ事實アラハ既ニ燒燬ノ事實アリト云フコトヲ得ルカ故ニ放火罪ノ未遂ニアラスシテ既遂ナルヘキモノトス
其ノ判決理由ニ曰ク燃燒ノ事實ハ即チ燒燬ノ事實ナレハ原院カ認メタル如ク棟木長サ七尺許ヲ垂木及屋根板トモニ約一尺五寸許燃燒シタル事實アル以上ハ上告人ノ所爲ハ放火罪ノ既遂ニシテ其未遂ニ非サルヲ以テ原院カ本件ニ刑法第百十三條ヲ適用セザリシハ相當ナリ云々

既遂ノ程度ヲ知ルトキハ其未遂ハ如何ナル程度マテヲ云フコトハ明カナルヘシ即チ燃燒シテ一部ノ燒燬ニ至ルマテニ人目ニ觸レテ消止メタル場合ハ之ヲ未遂ト謂フヘキナリ

第百十三條 第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫

備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

(註)本罪ノ準備行爲ヲ罰スル所以ハ放火ハ重大ナル犯罪行爲ナレハ其準備ノ場合ヲモ罰シテ其危險ヲ未然ニ防クヲ必要トスルニ在リ而シテ準備トハ或ハ燃燒物ノ運ヒヲ爲シテ放火スルニ十分ナル用意ヲ爲シタル場合ヲ云フナリ

第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條規定ノ場合ハ往々之レアルコトニシテ其犯人ハ多クハ火災ヲ機トシ或ハ窃盜ヲ爲サントシ或ハ怨恨アル家屋ヲ燒盡サンコトヲ圖リテ鎮火ヲ妨害スルコトアリ本條ノ規定ハ舊法ニ之無キモ之ヲ必要トシテ新タニ設ケタルモノナリ

第百十五條 第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貨シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

(註)本條ハ自己ノ所有ニ係ル物カ既ニ差押ヘラレ又ハ賃借ノ擔保物トナリタルカ又ハ他人

ニ賃貸シタルカ若クハ保險ニ付シタル物ナルトキハ自己ノ所有物タリト雖モ之ニ物權ヲ負擔シタル場合ナレハ之ヲ燒燬シタルトキハ他人ノ權利ヲ侵害シ之ニ損害ヲ加フルコト全ク他人ノ物ヲ燒燬シタルニ同シキヲ以テ他人ノ物ヲ燒燬シタルト同一ノ處分ヲ受クルコト、シタリ而シテ其物ハ第九條第一項ニ記載セル人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物等又第九條第一項ニ記載スル山林田野等ノ物ヲ云フナリ

第一百六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

(註)本條ハ過失ニ因リテ家屋等ヲ燒燬シタル場合ヲ規定シタルモノナリ失火ニ因リテ第八條ニ記載シタル他人ノ所有ニ屬スル所ノ家屋ニシテ而モ人ノ住居スル家屋ヲ燒燬シタル者又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル人ノ住居ニ使用セサル家屋等ヲ燒燬シタル場合其他自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ公共ノ危險ヲ生セシメタルトキハ何レモ同一ノ罪ニ處スヘキモノトス
失火ノ當時其場所ニ居合セタル人カ失火ノ爲メ死傷シタルトキハ過失殺傷罪ト失火犯ノ二

罪併合シテ論スルモノトス然レトモ火災ヲ鎮メル爲メニ外ヨリ入り來ル者又ハ荷物ヲ取出ス爲メニ更ニ屋内へ歸リ來リタル爲メ燒死スルモ失火ノ結果ニ依リテ之ヲ犯人ニ罪責ヲ負ハシムルコトヲ得サルナリ然レトモ元ト是レ過失ニ出テタル事ナレハ如何ナル場合モ罰金ノ刑ニ處スルモノトス

第一百七條 火藥、汽罐、其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

(註)本條ニ列記シタル火藥其他激發スヘキ物品ヲ破裂セシメタル場合カ故意ニ出テタルト過失ニ因ルトヲ區別シテ其故意ニ出テタル者ハ放火ノ罪ニ準シ過失ノ場合ニハ失火ノ罪ニ準シテ處分スルモノトス

激發スヘキ物品トハ火ヲ傳ヘタルニ依テ瓦斯又ハ水蒸汽ニ激シキ膨脹力ヲ惹起セシメ以テ其外圍ニ傷害ヲ與フル爆發物ヲ云フ

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(註)本條ニ記載スル物ハ最も多ク使用シテ而シテ最も危險ナル物ナレハ本條ヲ規定シテ其危險ヲ豫防セサルヘカラス此等ノ物ハ之ヲ使用スル者カ過失ニ因リテ人ヲ傷害スルコト多キヲ以テ此等ノ過失ハ注意ヲ加フレハ十分防クコトヲ得ヘキモノナレハ假令ヒ過失ニ出ツル場合ト雖モ其罪比較的重キモノトス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ水害ヲ及ホス罪ヲ規定シタルモノナリ

溢水トハ一時ニ水ヲ流シテ人ノ家屋、建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ水ニ浸ス所爲ヲ云

フ而シテ浸害スルニハ或ハ堤防ヲ崩シ水門及ヒ樋ノ類ヲ破壊シテ洪水ヲ流スニ在リ

本條ニ照シテ處斷スルニハ本條ニ記載セル物ヲ侵害シタル場合ニ限ルモノニシテ家屋其他ノ物ヲ侵害スルモノノ住居セス又ハ人ノ現在セサル時ナレハ本條ノ問フ所ニアラス又本罪ヲ構成スルニハ過失ニアラスシテ犯人ニ於テ溢水ノ結果侵害セシムルコトヲ豫期シタル場合ナリトス

第二百十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公

共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

(註)本章ノ規定ハ放火ノ罪ト其性質ヲ同フシ水火ノ異ナルノミ故ニ本條モ亦第百十一條ノ規定ト同一ノ趣旨ナレハ該條ニ照シテ了解スレハ自カラ明了ナルヘシ

前條ニ記載シタル以外ノ物トハ田圃、牧場、公園等ノ如キモノニシテ公共ノ危險ヲ生セシメタル場合ヲ云フ而シテ浸水ノ爲メニ右記載ノ物件カ其實質ヲ變シ荒廢シテ到底舊ニ復スルコトヲ得ス又ハ之ヲ舊ニ復スルニハ莫大ノ費用ヲ失ハサレハ能ハサルニ至ラシメタル場合ヲ云フ若シ浸水スルモノ何等ノ害ナキトキハ本罪ヲ構成セス法文ニ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタリトアルニ依レハ危險ノ程度ハ如何ナル程度マテニ至リタルヲ云フカニ付テハ右ノ

如ク解釋セザレハ其ノ公共ニ及ホシタル危險ト犯人カ受クル罪責トノ比較至當ナラサルナリ

本條第二項ノ規定モ第百十五條ノ規定ト同一趣旨ナレハ茲ニ說明ヲ要セスシテ明カナリ

第二百一十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百一十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)右二條モ亦放火ノ場合ノ說明ニ依リテ明カナレハ之ヲ畧ス

第二百一十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ行爲アルヲ要ス

- 一 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞スルコト
- 二 水利ノ妨害トナルヘキ行爲

三 溢水セシムヘキ行爲

- 第一 堤防ヲ決潰シトハ河川、池等ニ設ケアル堤防ヲ切り崩シ是ヨリ一時ニ洪水ヲ流スコトヲ云フ、水閘トハ水門及ヒ樋ノ類ナリ常ニ之ヲ設ケテ水ヲ堰止メアル場所ニシテ水ヲ引ク爲メニ施シタル工事ナリ
- 第二 水利ノ妨害トナルヘキ行爲トハ水利ハ水ヲ引入ル、便ヲ與フルモノニシテ田畑等ニ灌溉スルニハ此便利ヲ必要トス此水ヲ引入ル、道ヲ妨害シタル行爲ヲ云フ
- 第三 溢水セシムヘキ行爲トハ浸害スル行爲ニシテ前ノ二行爲アルモ浸害ノ危險ヲ生セザリシトキハ本罪ヲ構成セス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第二百一十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(註)舊法ハ道路、橋梁、河溝、港埠ノ損壞ニ付キ規定セルヲ以テ改正法ハ之ヲ改メ廣ク公共ノ用ニ供スル陸路又ハ水路トシ損壞ノ外尙ホ壅塞ヲ加ヘタリ
往來ノ便不便ハ大ニシテハ一國政治上經濟上又ハ社交上至大ノ關係ヲ有シ之カ機關ハ文明

ノ最大利器タルモノナレハ國家ハ此等ノ所爲ニ對シテ刑罰ヲ以テ之カ完全ヲ保護セサルヘカラス

本罪ノ成立要件ハ左ノ如シ

- 第一 犯罪ノ目的物ハ陸路、水路又ハ橋梁タルコト
- 第二 損壞又ハ壅塞シテ往來妨害ノ手段トスルコト
- 第三 往來ノ妨害ヲ生セシメタルコト
- 第四 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト

第一ノ要件 人ノ常ニ往來スヘキハ陸路及ヒ水路ニシテ此中ニハ橋梁及ヒ河溝、港埠ヲモ包含ス之ヲ安全ニセサレハ危險ヲ生シ靜謐ト公安ヲ害スルニ至ル

第二損壞トハ道路橋梁ヲ崩シ損セシムルヲ云フ壅塞トハ石又ハ木竹等ヲ道路ニ横ヘ其他危險物ヲ用ヒテ通行スル能ハサラシムルヲ云フ

第三前ノ二個ノ行爲アルモ畢竟往來ヲ妨害スル目的ニアラス且ツ現ニ往來ノ妨害トナラサル以上ハ本罪ヲ構成セス茲ニ一言スヘキハ法文ニ損壞又ハ壅塞トアルカ故ニ其他ノ手段ニ出タルトキハ本罪ヲ構成セサルモノナルカ其他ノ手段ニ出ツルモ往來ノ妨害ヲ生シタルトキハ損壞ノ場合ト異ナルコトナシ

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又

ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

(註)本條ハ陸路水路ノ目印トナルヘキモノヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ陸路水路ノ機關即チ汽車、電車、艦船ノ往來ニ危險ヲ生セシメタル罪責ヲ規定シタルモノナリ
標識トハ鐵道線路ニ設ケアル汽車、電車ノ目印トナルモノニシテ里數ヲ示シ夜間ノ如キハ之ニ燈火ヲ點シテ線路ヲ示スモノナリ汽車、電車ハ常ニ之ニ依リテ其方向ヲ迷ハス往復スルコトヲ得ルモノナリ故ニ之ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法例ヘハ線路ニ木石ヲ投シテ汽車、電車ノ往來ヲ妨害スル等危險ヲ生セシムルトキハ本條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處罰スルモノトス
燈臺又ハ浮標ハ艦船ノ往來スルニ方向ヲ知ラシムル目印ニシテ陸路ノ標識ト同一ノ必要物ナリ即チ航海ノ安寧ヲ保護スルモノナレハ之ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ヲ妨害シ危險ヲ生セシメタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス而シテ本罪ヲ爲スニハ犯意アルコトヲ要スルハ勿論ニシテ過失ニ出ツル場合ヲ謂フニアラス
本條ニ其他ノ方法ト云フハ詐僞ノ標識ヲ立テ又ハ詐僞ノ浮標ヲ設ケタル場合ヲモ包含スルモノトス

百第二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(註)前條ハ唯タ往來ノ危険ヲ生セシメントスル場合ニシテ其結果ニ依リ害ヲ加ヘタル事實ナキモノナレトモ本條ハ人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破壊シタル場合ト人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル場合トノ規定ナリ

汽車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破壊スルニハ或ハ線路ニ石又ハ木石等ヲ投シテ妨害物ヲ以テ此ノ結果ヲ豫期シテ犯罪行爲ヲ遂ケタルモノニシテ其危険ヲ現ニ生セシメタル場合ナリ然レトモ本條第一二項ノ場合ハ單ニ汽車、電車ヲ顛覆シ艦船ヲ覆没シ損壞シタルニ止マルモノニシテ未タ人ヲ死ニ致シタル場合ニアラス然レトモ負傷者ヲ出シタルコトアルヲ包含スルモノト解釋セサルヲ得ス

第三項ハ前二項ノ行爲ニ因リテ人ヲ死ニ致シタル場合ヲ規定シタリ人ノ現在スル汽車等ヲ顛覆シ破壊スルトキハ人ヲ死ニ致スコトアルヲ免レス是レ本條ノ規定ノ必要アル所以ナリ

百二十七條 百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

(註)百二十五條ノ規定ハ唯タ汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメントノ意思ヲ以テ爲シタルノミニシテ未タ其危険ヲ生セシメタル場合ニアラス若シ該條ノ行爲ニ因リテ本條ノ危険ヲ生セシメタルトキハ前條ト同一ノ罪ニ處スルモノトス

百二十八條 百二十四條第一項、百二十五條及ヒ百二十六條

第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ニ記載スル條項ノ犯罪行爲ニ付テ未遂罪ヲ罰スル所以ハ其危害ヲ及ホスヘキ程度甚大ナルヲ以テナリ且ツ其未遂ノ場合ト雖モ現ニ危害物ヲ用ヒテ幾分ノ危害ヲ生シタル場合ナレハナリ是レ未遂犯ハ實行ニ着手以上ノ行爲ナレハ其犯罪目的ノ重大ナル場合ニハ之ヲ罰セサルヘカラサル必要アレハナリ假令ヒ重大ナル場合ト雖モ未遂犯ヲ構成スルコトナキモノアレハ重罪ハ必ス未遂犯ヲ罰スヘキモノニ非サレトモ本罪ノ如キハ十分未遂犯ヲ構成シタル場合ナリ

百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致

シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)人ニハ過失アルヲ免レスト雖モ過失ハ多クハ不注意ヨリ生スルモノナレハ過失ナリトシテ其行爲ヲ罰セサルトキハ故意ニ出ツル場合モ過失ナリトシテ刑罰ヲ免ル、ニ至ルヲ以テ本條ハ之ヲ罰金刑ニ處スルモノトス然レトモ其業務ニ従事スル者カ本罪ヲ犯シタルトキハ一般ノ者ノ過失ト同一ニ視ルコトヲ得サルハ當然ナリ只タ其過失ノ行爲ノ情狀ヲ酌量スヘキ場合ニ限リテ一般ノ者ト同シク罰金ニ處スルモノトス是レ職務ニ従事スル者ハ常ニ其業務ノ爲メニ俸給ヲ受ケ身心ヲ専ラ業務ニ注キ經驗アル者ナレハ過失ナキヲ當然トス然ルニ不注意ヨリ人ニ危害ヲ生セシメタルトキモ過失ナリトシテ一般ノ者ト同視スルトキハ職務ヲシテ無責任ナルモノトス故ニ一般ノ者ノ過失ニ出テタル場合トハ其罪ヲ重クスヘキハ當然ナルヘシ然レトモ眞實過失ニ出ツルコト無シト謂フヘカラス故ニ眞實過失ニ出テタルヤ否ヤヲ取調ヘテ實際過失ニ出テタル場合ハ其情狀ニ因リ罰金ニ處スルモノトス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

(註)本章ハ舊法第七十一條及ヒ第七十二條ヲ合シテ修正ヲ加ヘタルモノナリト云フ舊法第七十一條第一項ノ晝間ノ二字ハ改正法ハ侵入ノ晝間ナルト又ハ夜間ナルトニ依リ刑

ノ輕重ヲ認ムル必要ナシトシテ之ヲ删除シタリ又同條ニハ人ノ住居シタル邸宅トアル爲メ解釋狹クシテ人ノ住居トシテ借受ケタル室内ニ侵入セル場合ノ如キハ罪トナラスト謂フ者ナキニアラス故ニ人ノ住居ト改メ其住居ノ場所ヲ問ハサルコト、爲シ又艦船内ニ侵入スル罪ノ規定ナキ爲メ實際不便ヲ感シタルコトアルヲ以テ新タニ艦船侵入ノ場合ヲ加ヘタリ尙ホ舊法ニハ唯侵入ノ行爲ヲ罰スルノミニシテ假令ヒ正當ニ入りタル者ト雖モ其場所ヨリ退去ノ要求ヲ受ケテ退去セサル場合ナキカ故ニ實際上極メテ不備ヲ感シタルヲ以テ改正法ハ新タニ其規定ヲ設ケタルナリ

第二百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)住居ハ人タル者ノ城郭トシテ常ニ此内ニ起臥スル者ナレハ他人ノ侵入スルコトヲ許サ、ルハ當然ナリ然ルニ本罪ヲ成スニハ故ナク侵入スルコトヲ得サルモノトス侵入スヘキ權利アル者例ヘハ豫審判事、警察官吏カ罪證取調ノ爲メ又ハ犯人搜索ノ爲メニ入ルヘキ何時侵入スルモ權利ノ許スヘキモノニシテ本罪ヲ構成セス其他ノ者ハ假令ヒ留守中ニ入ルモ故ナク侵入スルヲ得サルモノトス而シテ故ナクトハ權利者ノ承諾ヲ得シテト云フ義ニアラス權利者ノ意思ニ反シテト云フ意義ナリ侵入スルトハ他人ノ權利ヲ蹂躪シテ無斷ニテ入り

來リテ住居者ヲシテ安全ヲ欠クニ至ラシムルヲ云フ其侵入ハ晝間ト夜間トヲ問ハサルナ
リ
人トハ他人ヲ云フ自己ヨリ他ノ者ヲ指ス故ニ親族ヲモ包含ス而シテ其住居カ自己ノ所有家
屋ナルモ他人カ住居スル場合ハ本罪ヲ成ス

住居スルトハ一時ノ滞在ヲ含マス比較的永久ニ滞在スルノ意思ヲ以テ起臥寢食スルヲ云フ
又一戸ノミヲ住居ト云フニ在ラスシテ人ノ住居トシテ借受ケタル室内ヲ含ム

住居内ノ權利者ハ如何ナル者ナルカハ其邸宅住居内ノ主宰又ハ其代理人若シ其家宅ノ各室
カ特室ノ人々ニ別々ニ供給セラレタルトキ例ヘハ下宿屋ノ如ク寄宿人ニ各室ヲ貸與ヘタル
場合ノ如ク又大家ニハ書生部屋、下婢僕ノ部屋ト區別スルカ如キ此寄宿人、下婢僕、書生
ノ中何レニテモ其者ノ意思ニ反セサルトキハ假令ヒ其家ノ主宰者ノ意思ニ反スルモ本罪ヲ
構成セス

邸宅トハ門牆ノ設ケアル地ニシテ屋敷ト云フ意ニシテ比較的廣キ場所ヲ云フ建造物トハ人
ノ住居セサル建物ニシテ即チ神社佛閣、劇場、博物場等ノ如キモノ是ナリ

本罪ハ單ニ侵入シタルノミナラス正當ニ即チ意思ニ反セスシテ入りタル者ニシテ其退去ヲ
要求セラレタルニ其場所ヨリ退去セサル者ハ亦同シク本罪ヲ構成スルモノトス

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三

月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

(註)皇居ハ現ニ陛下ノ御住居ヲ云ヒ禁苑ハ皇居内ノ御庭園ナリ、離宮ハ離レタル場所ニ在
ル宮殿ナリ行在所ハ行幸ノ節一時御入りニナル所ニシテ假ニ設ケタルモノヲ云フ神宮ハ伊
勢ノ内宮外宮ヨリ以下諸大神宮ヲ指ス皇陵トハ天皇御歴代ノ御墳墓ヲ云フ

本條モ亦前條ト同シク故ナクノ文字アリ因テ權利アル者又ハ許可ヲ受ケタル者ハ之ニ入ル
ヲ得ルハ當然ナリ故ニ前條ノ場合ノ故ナクトハ異ナリテ職權アル者ニアラス許可ヲ受ケシ
者ニアラスシテト云フ義ニ解スヘキモノトス

第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ本章ノ未遂罪ヲ罰スル規定ナリ本章ノ未遂罪モ亦之ヲ罰スヘキ必要アリテ此規
定アリタル所以ナリ一般人ノ家宅ニ侵入ノ未遂罪ハ左マテ危險ト爲スヘカラサルモ皇居禁
苑等ニ侵入スル未遂罪ノ如キハ重大ナル行爲ナルヲ以テ未遂罪ヲモ罰スヘキ必要アリトス
ヘキナリ

第十三章 祕密ヲ侵ス罪

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲

役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)人々相互ノ通信往復ハ世ノ文明ニ赴クニ從ヒ益々頻繁ナリ而シテ其ノ事件ニ依リテ他人ノ見ルヲ憚リテ之ヲ秘密ニスヘキコト多シ封書ノ如キハ是皆然ルモノナリ若シ此ノ秘密ヲ洩ストキハ名譽ニ關シテ封書モ其效ナシ是レ本章ヲ規定シテ信書ヲ保護スル所以ナリ本條ノ罪ヲ構成スルニハ故ナク封緘シタル信書ヲ開披シ又ハ毀棄シタルニ在リトス故ナクトハ之ヲ開封スヘキ理由ト權利トアル者ノ外ハ何人ニテモ之ヲ開封スルコトヲ得サルモノナレハナリ而シテ權利アリテ之ヲ開封スヘキ者トハ行政官吏カ職權上之ヲ開キ司獄官吏カ職權上囚人ノ信書ヲ開封シ其他郵便局員カ疑ハシキ場合ニ其ノ開披ヲ爲スカ如キハ假令ヒ親展ノ文字アルモ罪トナラス

第三百二十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ

此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

(註)本條ハ職務上他人ニ委託ヲ受クルコトアル者カ其秘密ヲ知り得タル場合ニ之ヲ他人ニ漏泄スルコトヲ得サル者トス而シテ其ノ職務ニ關シ秘密ヲ知り得ル者ハ左ノ如シ

- 一 醫師 醫師ハ病氣ノ診察上病人ヨリ秘密ヲ聞得テ之ヲ取扱ヒタル者
- 二 藥劑師、藥種商 是等モ賣藥ノ營業上ヨリ秘密ヲ聞クコトアリ
- 三 產婆 出產上ノ事ニ付キ秘密ヲ託セラル、コトアリ
- 四 辯護士、辯護人 是等ハ訴訟事件ヲ委託セラル、ニ付キ秘密ヲ守ルヘキ義務アル者ナリ但シ法廷ニ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス
- 五 公證人 公證ヲ爲スニ付テ秘密ヲ守ルヘキ義務アル者アリ
- 六 宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者ハ其職業上託セラレタル事件ニ付テ秘密ヲ守ルヘキ義務アル者ナリ

右ノ者等ハ皆其ノ職務上委託ヲ受ケタルコトニ付テハ秘密ヲ守ルヘキハ當然ノ義務ナリ然ルニ辯護士カ法廷ニ於テ事實ヲ陳述スル場合ニ之ヲ述フルハ是亦職務上ノ義務ナリト雖モ裁判官ノ訊問セサルニ之ヲ述フヘキ義務アル者ニアラス又醫師カ患者ノ秘密ヲ其家人ニ告ケ又ハ傳染病患者ヲ官ニ届出ツルカ如キハ法律上ノ義務ナレハ之レ漏泄スルモ本條ノ罪ニアラス

第三百二十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(註)本章ノ罪ハ元來秘密ニスルヲ望ム者ナレハ公訴シテ其秘密ヲ公ニセラレテハ却テ本人

ノ名譽ヲ毀損セラレ迷惑ヲ感スルモノナルヲ以テ親告罪トシテ本人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第二百二十六條

阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)阿片煙ハ一度之ヲ吸食スルトキハ必ス慣習ヲ爲シ漸ク其度ヲ重ヌルニ及ンテ遂ニハ人ヲ廢スルニ至ル即チ人ノ生命ヲ失ハシムルモノナリ故ニ若シ斯ノ如キ習慣ニシテ社會ニ發生蔓延センカ管ニ一身一家ヲ亡ホスノミナラス遂ニハ國家ヲモ亡ホスニ至ルヘキヲ以テ國家ハ刑罰ヲ以テ之ヲ慣習ノ發生蔓延ヲ防遏セサルヘカラス是レ本章ノ規定アル所以ナリ本條ハ阿片煙ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ヲ罰スルノ規定ナリ阿片煙ハ日本ニ於テハ之無キモノナルヲ以テ外國ヨリ買入レ之ヲ内地ニテ製造シテ販賣スルモノナレハ第一ニ輸入ヲ防キ第二ニ製造ヲ防キ次ニ販賣等ヲ禁スルコト、シ根本ヨリ防クノ方法ヲ探ルヲ良策トシテ本條ヲ第一ニ規定シタルモノナリ

第二百二十七條

阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

ス

(註)本條ハ阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者ヲ罰スルノ規定ナリ

阿片煙ヲ吸食セント欲スルモ其器具ナケレハ之ヲ吸食スルコト能ハス故ニ先ツ此器具ノ輸入ヲ禁シ次ニ之ヲ製造スル者ヲ罰シ次ニ之ヲ販賣スル者ヲ罰スルコト、ス而シテ此器具ヲ所持シタル者ハ販賣ノ目的ニ在ルトキニ限り之ヲ罰シ若シ之ヲ所持スルモ販賣ノ目的ニアラサレハ此罪ヲ問ハサルモノトス

第二百二十八條

稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ稅關官吏カ阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ之ヲ輸入スル情ヲ知テ許シタル場合ノ規定ナリ

他人カ阿片煙ヲ輸入セント欲スルモ稅關官吏カ嚴重ニ防クトキハ決シテ輸入スルコト能ハサルモノナリ然ルニ反テ稅關官吏自身カ之ヲ輸入スルカ如キハ職務ヲ汚スノ點ヨリ云フモ其罪重カルヘキハ當然ナリ又他人カ之ヲ輸入スルヲ許ストキハ共犯者ト等シキ行爲ナリ是ヲ以テ本章ノ罪責中本條ノ場合ヲ最モ重シトシタル所以ハ其犯スニ易クシテ防クニ難ク且ツ職務ニ伴フ信用ニ違反スルヲ以テナリ

第三百二十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七
年以下ノ懲役ニ處ス

(註)阿片煙ハ吸食スルコトヲ禁スル爲メニ本章ノ規定ヲ設ケタルモノニシテ吸食スル者ナ
ケレハ輸入モ製造モ販賣ヲ禁スルノ必要ナキモノナリ其他器具ヲ所持シ販賣スル者ヲモ禁
スルニ及ハス要スルニ皆吸食スルヲ禁スル爲メニ種々ノ手段ヲ取ルモノナリ
房屋ヲ給與スルトハ吸食スルトキニ一室内ニ入りテ人ノ目ニ觸レサル様ニシテ吸食スルモ
ノナレハ此者ニ對シテ房屋ヲ貸與スルヲ云フ而シテ本條ニハ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ト
アルカ故ニ假令之ヲ給與スルモ利ヲ圖ル目的ニアラサレハ罪トナラサルハ勿論ナリ

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下
ノ懲役ニ處ス

(註)阿片煙又ハ阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ所持シタル者ハ之ヲ他人ニ販賣スルカ又ハ自己カ
吸食スルカ何レカニ在ルヲ以テ所持シタル者ハ其目的ノ何レニアルヲ問ハス本條ニ依リ之
ヲ罰スルモノトス

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本章ノ未遂罪ヲ罰スル所以ハ此阿片煙ノ害毒ハ最モ蔓延シ易キヲ以テ未遂罪ノ場合ヲ
モ罰シテ十分之ヲ防クノ方法ヲ執ルノ必要アルヲ以テナリ

第十五章 飲料水ニ關スル罪

(註)飲料水ハ人々生存上一時モ缺クヘカラサル必要ノモノニシテ而シテ最モ健康ニ關スル
第一ノモノナレハ之ヲ汚穢シテ飲料ニ害ヲ生シタルトキハ忽チ人生ノ生命ニモ關スルニ至
ルナリ舊法ハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スル規定ナシト雖モ單ニ之ヲ一人ノ用ニ供スル
淨水等ニ比スレハ其害ノ及フヘキ範圍極メテ廣キヲ以テ改正法ハ特ニ水道ニ關スル場合ノ
規定ヲ設ケタリ且ツ本章ノ罪ハ其結果タル重大ナルヲ以テ舊法ニ比シ一般ニ刑ヲ重シタル
ナリ

本章ニ所謂飲料ニ供スル淨水トハ器物ニ在ルト水道ニ由リ公衆ニ供給スルモノトヲ問ハス
總テ飲料ニ供スルモノヲ云フ而シテ其害ノ及ホス範圍ノ廣狹ニ從ヒテ其罪ヲ輕重スルノミ
第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能
ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ
處ス

(註)本條ハ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シテトアルヲ以テ單ニ井水又ハ器物ニ在ル水ヲ汚
穢シタルモノニシテ隨テ其害ノ及ホスコト狹キヲ以テ罪モ亦輕シ而シテ汚穢ストハ水中ニ

不潔物ヲ投入シ又ハ濁水トナシテ飲料ニ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルヲ云フ其ノ汚穢カ原狀ニ復シ清潔トナルニ時間ノ長短アルモノナレハ之ヲ標準トシテ罪ノ輕重ヲ定ムルモノナラン或ハ其害ヲ及ホシテ人身ニ病ヲ醸スコトアルヘシト雖モ本條ハ「之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル」トアルニ依レハ未タ人身ニ害ヲ及ホサル場合ヲ規定シタルモノナリ

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シテ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ水道ニ由リ廣ク公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シタル場合ヲ規定シタルモノナリ本條ハ水道ノ途中ヨリ汚穢シタルモノト水源ヲ汚穢シタルモノトニ區別セリ水源ヲ汚穢シタルトキハ其害一般ニ及フト雖モ水道ノ途中ヨリ汚穢シタルモノハ其水ノ及フ場所ノミニ害ヲ及ホスモノナレハ之ヲ標準トシテ其罪ヲ定メサルヘカラス

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ人ノ食料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル場合ニシ

テ危險ヲ生スル行爲ナリ然レトモ單ニ飲料ニ供スル淨水トアルニ依レハ水道ニ由ルモノニ非ス隨テ其害ノ及ホス範圍狹キヲ以テ比較的其罪輕キナリ本條ノ淨水トハ井水又ハ器物ニ在ル淨水ヲ云フ

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(註)本條ハ前三條ノ犯罪ノ結果ニ因リテ罪ヲ定ムルモノナリ即チ前三條ノ場合ハ其結果ニ付テノ規定ナキカ故ニ其結果或ハ唯タ人ヲ傷害シ病ヲ生シタルカ如キ或ハ中毒以テ人ヲシテ死ニ至ラシメタル場合ニ因リ其ノ刑ノ輕重ヲ定ムルモノナリ

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

(註)本條ノ罪ハ其害ノ及フヘキ範圍廣ク且ツ其所爲重キモノナレハ左ノ如ク區別シテ處斷スルモノトス

一 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其ノ水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ

物ヲ混入シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處スルモノトス

二 因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處スト
前ノ場合ハ其害未タ人ヲ死ニ致サス唯々傷害即チ病ヲ醸シタルニ止マルト雖モ後ノ場合ハ
因テ人ヲ死ニ致シタルモノナレハ其情狀モ亦重キカ故ニ死刑又ハ無期ニ處スルコトアルヘ
シ

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル

者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ飲料ノ淨水ニ缺乏ヲ來タシタル場合ノ規定ナリ

水道ヲ損壞スルトキハ水他ニ漏出シテ十分ニ通セス又壅塞シタルハ水通セスシテ何レノ場
合モ俄カニ淨水ノ缺乏ヲ來タシ困難ヲ生セシムルモノナレハ人身ニ傷害ヲ生シ又ハ死ニ致
ス等ノ危険ハ之ナキモ其害ノ及ホスコト廣キカ故ニ比較的其罪ヲ重シトス

第十六章 通貨偽造ノ罪

(註)舊法ハ通貨偽造罪ノ成立ニハ偽造又ハ變造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシ
單ニ偽造ノ場合ニハ刑ヲ減輕スルコト、爲セリ然レトモ改正法ニハ通貨偽造ノ罪ハ通貨ノ
偽造又ハ變造ノ成リタルトキニ成立スヘキモノト爲シ從テ偽造又ハ變造ヲ罰スルコト、爲
シタリ

舊法ハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨及ヒ紙幣ト銅貨トニ分チ罪ノ輕重ヲ區別スト雖モ改正法ハ其ノ
必要ナシトシテ此區別ヲ廢シタリ又兌換銀行券條例ニ在ルノミナルヲ以テ改正法ハ茲ニ之
ヲ規定シタリ

舊法第百八十七條及ヒ第百八十八條ハ貨幣偽造罪ノ幫助ノ場合ナルヲ以テ改正法ハ總則從
犯ノ規定ニ從フモノトシテ之ヲ廢シタリ

舊法第百九十二條モ亦總則自首減輕ノ規定ニ從フモノトシテ之ヲ廢シタルナリ

本罪ハ貨幣ノ信用ヲ害スルヨリ之ヲ罰スルコトヲ重クシタルモノナリ貨幣ハ國家ノ流通社
會經濟上一日モ欠クヘカラサルモノニシテ生命ニ次テ貴重ナルモノトス若シ此貨幣カ眞物
ニ非スシテ偽造若クハ變造ニハ非サルカト疑ヒヲ生スルモノナルトキハ貨幣ノ價值ヲ失ヒ
信用ヲ欠キ經濟上ニ影響ヲ及ホスコト甚大ナリ故ニ毫モ私ナキ政府ニ專ラ委任シテ之ヲ鑄
造スルコト、シ政府ハ其品質分量ヲ一定シ之ヲ毫釐ノ左ナカラシメテ通用セシムルモノナ
リ且ツ政府ト雖モ猥リニ之ヲ鑄造スルモノニアラス其制限ヲ定メテ造ルモノナリ

第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造

又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之
ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

(註)貨幣ヲ偽造變造スルニハ其目的行使スルニ在ルヲ以テ本罪ヲ構成スルモノトス故ニ法文ニ行使ノ目的ヲ以テ云々ト記載シタリ

本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ要素ヲ以テ成ル

一 行使ノ目的ヲ以テスルコト 故ニ之ヲ偽造スルモ行使ノ目的ナクシテ唯タ技術研究ノ爲メニ造ルカ如キハ本條ノ罪ヲ成サ、ルナリ

(イ)行使トハ廣ク流通セシムルヲ云フ之ヲ直接ニ例ヘハ之ヲ以テ自カラ物ヲ買フニ使用シタルト間接ニ例ヘハ其情ヲ知レル他人ヲシテ情ヲ知ラサル者ニ渡シテ眞貨ト信セシメタルトヲ問ハス

(ロ)行使スルニハ偽貨ヲ眞貨トシテ流通セシムルコトヲ要ス故ニ若シ偽貨タルコトヲ告ケテ受取ラシムル場合ハ本條ノ罪トナラス

二 通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ要ス 而シテ此貨幣等ハ國家カ一定ノ文字紋章ヲ以テ證明シタル價額ノ標準ナリ故ニ此一定ノ文字紋章ニ異ナル所アリテ一見知リ分ルコトノ出來得ルモノハ本條ノ罪トスルモノニアラス

三 偽造又ハ變造シタルモノナルコトヲ要ス 偽造トハ眞物ニ模擬スルコトニシテ一見眞物トスルニ足ルヘキモノナルヲ要ス即チ其標準トスヘキ眞貨アルヲ要ス其材料ノ如何ヲ問ハス例ヘハ金銀貨ヲ偽造スル標準トセル貨幣ノ外觀ヲ有スレハ十分ナリ若シ標準ニ依リ造ラサレハ流通ノ際常人ノ使用スルトキニ一見識別シ得ルモノナルトキハ假

令ヒ之ヲ行使スモ詐欺取財トシテ處罰スヘキモノナリ而シテ其眞正貨幣ニ類似スルコトヲ要スル程度ニ付テハ之ヲ確定シ難キモ眞正ノ貨幣ト誤信スルニ足ルモノタル以上ハ假令ヒ一時ノ誤信ニ價スルニ過キササルモノモ偽造貨幣タルモノトス

四 變造トハ眞價ニ變造ヲ加ヘテ他ノ眞價ニ模擬スルヲ云フ 例ヘハ一圓ヲ二圓ト數字ヲ變更スルカ如キ其變更ハ必ス眞貨ノ價値ヲ高クスル場合ト眞貨ノ價値ヲ損減スル場合トアリ又變造ノ場合ニ假令其材料ハ眞正ノ貨幣ヲ變史スルモ之カ變更ノ程度ヲ超エテ一旦貨幣ノ原体ヲ失フニ至ルトキハ更ニ偽造シタルモノトナルナリ

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又

ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

(註)本條ハ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造、變造シタル場合ヲ規定シタルモノナリ外國ノ貨幣ニシテ日本ノ法律ニ依テ其通用ヲ認めラレタルモノニシテ内國ニ流通シツ、アルモノニ限ルナリ故ニ若シ通用セサルモノハ本條ヲ以テ罰スルモノニ非ス

本條ノ偽造變造罪モ亦之ヲ行使スル目的ヲ以テ爲シタルニ依リ本罪ヲ構成スルナリ而シテ現ニ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ物品ヲ買ヒ又ハ支拂ニ充ツル爲メニ之ヲ他人ニ交付

シ又ハ外國ニ於テ偽造變造シタルモノヲ内國ニ輸入シタルトキモ亦前項ト同一ノ刑ニ處スルモノトス

第五百十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ情ヲ知テ偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ他人ヨリ收得シタル場合ノ規定ナリ故ニ本罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要ス

第一 偽造變造ナルモノヲ知テ收得スルニ在リ 收得トハ他人ヨリ受取ルコトヲ云フ而シテ之ヲ買受ケタルモ買受ケタルモ辨濟トシテ受取リタルモ總テ情ヲ知リテ之ヲ受取リテ行使スルモノナリ

第二 行使ノ目的ヲ以テ受取ルヲ要ス 故ニ收得シタルノミニテハ假令ヒ其情ヲ知ルト雖モ罪トナラス若シ行使ノ目的ナクシテ之ヲ收得シタルモノナルトキハ害惡ヲ生スルノ危險ナキヲ以テ本罪ヲ成サス行使ノ目的アルトキハ未タ之ヲ行使セサルモ其危險ナルモノアルヲ以テ罪トスルナリ故ニ之ヲ收得スルモ單ニ技術研究ノ爲メニ若クハ美術參考品トシテ備付ケ置クカ如キハ假令ヒ其收得後ニ於テ惡意ヲ生シ之ヲ行使スルモ本條ノ罪ヲ構成セス然ルニ若シ行使スルハ取財ノ意思ニ在ルトキハ詐欺取財ヲ以テ論スルコトヲ得ヘキナリ

收得トハ之ヲ二様ニ解釋スル者アリ其一ハ盜取又ハ拾得シタルカ如キ他ヨリ之ヲ受取リタルニ非ス犯人ニ於テ自カラ之ヲ取得シタル場合ヲ云フト他ハ收得トハ取リ又ハ受クルノ義ニシテ他人ノ引渡スニアラス犯人自カラ之ヲ收得シタルト他人ノ引渡ニ依リ之ヲ受取リタルトヲ問ハス自己ノ手ニ移シタルヲ云フト第二ノ說ヲ可トスヘシ何トナレハ偽造變造ノ行為ナキ者ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ情ヲ知テ其貨幣、紙幣ヲ他ヨリ收得スルト之ヲ盜取スルト又ハ拾取スルトハ其犯罪行為ニ於テ危險ヲ及ホス程度ニ差異ナケレハナリ

第五百十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)前三條ノ未遂罪ハ其危險ヲ既ニ生シタル場合ニ於テ事ノ障礙ニ因リテ之ヲ遂ケサルモノナレハ之ヲ罰セサルニ於テハ之ヲ繼續シテ其行為ヲ遂クルニ至ルヲ以テナリ前ニモ述ヘタルカ如ク未遂罪トハ既ニ着手シタル後ナレハ一部實行ノ場合ナリ然レトモ其犯罪行為カ社會ニ危險ヲ生スル輕重ニ依リ之ヲ罰スル場合ト罰セサル場合トニ區別ス本罪ノ如キハ罪ノ性質重キカ故ニ其未遂罪ヲ罰スルモノトシタリ

第五百十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

(註)本條ハ他人ヨリ受取リタル後ニ其偽造變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ヲ罰スル規定ナリ
當初收得シタルトキハ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ナルコトヲ知ラスシテ收得シタル後チ初メテ之ヲ知リタル者ニシテ之ヲ行使シタル者ハ其名價即チ偽造變造シタルモノ、價額三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處スルモノトス是レ本罪ハ元ト惡意アリタルモノニアラスシテ唯タ偽造變造ナルコトヲ知テ之ヲ官ニ告ケスシテ使用シタルニ止マルモノナレハナリ名價トハ貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ種類ヲ區別シ金貨若クハ銀貨、紙幣ノ何圓何拾錢ト云フ名目ト其價額トヲ云フ其價額ト種類ノ名トニ因リテ是レニ三倍スル罰金又ハ科料ヲ科スルト云フ意ナリ

第一百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ豫備ノ所爲ヲ罰スル規定ナリ
豫備ト未遂トヲ混同スル勿レ未遂トハ豫備ノ程度ヲ超エテ着手實行ニ至リテ或ハ一部ヲ遂ケタル場合ナルコトアルモ豫備ノ所爲ハ未タ着手前ニシテ僅カニ一ノ器械ヲ調ヘタルモ豫備ノ所爲ト爲スヘキナリ而シテ豫備ニモ其程度ニ從テ罪ヲ輕重スルノ必要アルヘシ是レ本

條カ三月以上五年以下ノ範圍内ニ於テ之ヲ處罰スルモノトシタルモノナリ

第十七章 文書偽造ノ罪

(註)本章カ舊法ヲ改正シタル點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一 舊法ハ文書ノ偽造ノミヲ罰シ繪圖ノ偽造ニ關スル規定ナシト雖モ改正法ハ文書偽造ノ罪ナル章目ノ下ニ廣ク文書若クハ繪圖ノ偽造罪ヲ規定シタリ其必要ナル理由ハ例ヘハ檢證調書ニ添付スル繪圖ノ如キハ刑ヲ科シテ以テ其偽造ヲ防止スヘキモノトス
- 二 舊法ハ文書ノ偽造罪ノ成立ニハ原則トシテ偽造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二ケノ要素ヲ必要トセリ從テ單ニ偽造シタルノミニテハ未タ罪トナラス改正法ハ通貨偽造罪ニ於ケルト同シク此點ニ修正ヲ加ヘ文書偽造罪ハ行使ヲ待タスシテ既ニ偽造ノ時ニ成立スト爲シ行使ノ有無ハ問ハサルコト、爲シタリ

三 舊法ハ第二百二條末段第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ニ於テ官文書毀棄罪ノ規定ヲ設クト雖モ本罪ハ少シモ文書ノ偽造ト關係ナキヲ以テ改正法ハ改メテ之ヲ本編毀棄及ヒ隱匿ノ罪ノ中ニ規定シタリ

四 舊法ハ其官文書偽造罪ニ於テ單ニ官吏ニ關スル規定ノミヲ設クルヲ以テ改正法ハ之ヲ補修シ官吏ノミナラス廣ク其他ノ公務員ニモ共通スル規定ヲ加ヘタリ

五 舊法ハ公務員カ其職務上虛偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合ヲ以テ等シク官文書ノ偽造、變造ト爲スト雖モ改正法ハ之ヲ改メ虛偽ノ文書ノ作製

又ハ文書ヲ不正ニ増減變換シタル罪ト爲シタリ

六 舊法ニハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ戸籍其他ノ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ナク唯近來實施セラレタル戸籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルノミナルヲ以テ改正法ハ新ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

七 舊法ノ文書偽造罪ニ關スル規定殊ニ官文書ニ關シテハ刑ノ範圍狹キニ過キ適用ノ際困難ヲ感スルコトナシトセス是ヲ以テ改正法ハ之ヲ改メ充分ニ刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ適當ニ刑ヲ科セシムルコト、爲シタリ

文書トハ吾人ノ思想ヲ發表スル記錄ニシテ即チ之ヲ見ル者ヲシテ其文書ニ依リテ一定ノ思想ヲ知得セシムルコトヲ要ス而シテ刑法上文書ト云フハ法律事實ヲ表明シ證據力アル文書ニ限ルモノトス其文書ノ種類ヲ區別スレハ左ノ如シ

甲 官文書ハ詔書、官ノ文書、公證文書等ナリ

乙 私文書トハ私人ノ作製スヘキ文書ニシテ左ノ種類ナリトス

(イ) 有價證券

(ロ) 權利義務ニ關スル證書

(ハ) 其餘ノ私書

第一百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔

書其他ノ文書ヲ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

(註)本罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ必要トス

第一 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ造偽スルコト

第二 偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者

第三 御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者

御璽トハ陛下ノ御印ヲ云ヒ國璽トハ帝國ノ印章ヲ云フ御名ハ天皇陛下陸仁ヲ稱シ奉ル詔書トハ總テノ勅命書ヲ云フ此等ノモノヲ行使スルノ目的ヲ以テ偽造シタルモノハ本條ノ罪トスル所ナリ而シテ偽造トハ真物ニ模擬スルモノニシテ御璽、國璽等ヲ標準トシテ造リタルモノナリ若シ之ヲ標準トセサルモノハ偽造ニアラス且ツ標準トスヘキ印章等ハ現ニ在ル真物ナルヲ要スルカト云ハ、官印ハ眞印ニシテ其官署モ亦現ニ在ルヲ要ス

第二ノ場合ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタルニ在リ其ノ使用ハ詔書其他ノ文書ヲ偽造スル爲メニ使用シタルモノナリ使用トハ之ヲ相當ノ場所ニ押捺スルヲ云フ之ヲ

押捺スレハ其物品書類ヲ使用セサルモ印章ノ使用ハ既ニ遂ケタルモノトナル故ニ印章ヲ押捺セル書類ヲ行使スルハ即チ書類ヲ行使シタルモノニシテ印章ノ行使ニアラス
第三ノ場合ハ御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造スルヲ云フ變造トハ眞物一部分ヲ變更シテ造ルモノナリ而シテ偽造ト變造トハ其行爲ニ於テ異ナルモノナレハ目的ハ不正ニ使用シ又ハ使用ヒントスル意思ニ於テハ異ナルコトナシ

第百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又公務員ヲ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ヲ區別シテ説明スレハ即チ左ノ如シ

第一 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造スルコト

第二 偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造スルコト

公務所ノ印章トハ例ヘハ内務省之印又ハ内務省何何課之印トアルモノヲ云フ公務員ノ印章トハ大阪府收稅課長何某之印トアルカ如キモノヲ云フ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書トハ舊法ニ所謂官ノ文書ニシテ閣令、省令、府縣令、判決、公判調書、豫審調査、官署ノ會計帳簿又ハ官署ヨリ發スル諸般ノ書面ニ至ルマテ苟モ公務所ノ事務トシテ作ラレタル總テノ文書ヲ謂フ

尙舊法第二百三條第二項ノ文書トハ官署ニ於テ證據トシテ保管スル所ノ文書ヲ總稱シ其作製者ノ官吏タルト一私人タルトヲ問ハス其他訴狀、登記願書ノ如キ假令一私人ニ於テ作製シタル文書ナリト雖モ一旦裁判所ニ證據トシテ保管スル間ハ官ノ文書ナリト謂フヲ得ヘシ

本條第二項ハ前項ノ如ク印影ヲ偽造變造シテ文書若クハ圖畫ヲ偽造スルニ非スシテ既ニ捺印若クハ署名シタルモノヲ變造スル場合ナリ即チ或ル一部分ヲ眞物ト異ナル點ヲ作りタルモノナリ

第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ若クハ其作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合ニシテ印章署名等ヲ使用スルコトヲ謂フナリ

茲ニ一言スヘキハ偽造使用ハ使用者カ自カラ其印章ヲ偽造シタルト否トヲ問ハス偽印ヲ使用スルニ在リ即チ今之ヲ細別スレハ左ノ結果ヲ生ス

官印偽造ノ場合ハ

(イ)使用ト偽造トハ各別ニ獨立シテ一罪ヲ構成ス

(ロ)偽造者ト使用者ト人ヲ異ニスルトキハ偽造罪ヲ犯ス者ト使用罪ヲ犯ス者トノ二人ノ犯罪者ヲ出スナリ

(ハ)同一人ニシテ偽造ト使用トアルトキハ使用ハ偽造罪中ニ包含セラル是レ使用ノ目的ヲ以テ偽造スルトキハ之ヲ使用セスト雖モ偽造罪ハ成立スレハナリ

第二百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

(註)本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件アルヲ要ス

公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作ルコトヲ要ス而シテ其ノ

文書若クハ圖畫ハ偽造スルモノニシテ其ノ偽造ヲ爲スニハ左ノ行爲ニ因ルモノトス

(イ)公務員カ其職務ニ關シテ作ルモノナリ即チ公務員カ其職權ヲ以テ正當ノ刑式ニ因リ作成スル文書ヲ偽造シ其文書ニハ全ク事實ノナキコトヲ作りテ尙ホ之ヲ行使セントノ目的ニ在ルヲ云フ例ヘハ郵便局員カ郵便爲替證書、爲替通知書ヲ作りタルカ如キ而シテ其證書通知書ハ不實ノモノナレトモ然レトモ當該官吏カ作りタルモノナレハ其文書ハ第三者カ之ヲ眞實ナリトスルニ足ルヲ以テ行使スルコトヲ得ヘキカ如シ

(ロ)行使ノ目的ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ要ス故ニ假令ヒ之ヲ作製スルモ行使ノ目的ナキトキハ何等ノ罪責ヲ成サ、ルナリ

右變造ノ場合ハ其變造セラル、文書圖畫ニシテ官ノ印章若クハ原作製者ノ署名アルトキト之レ無キトノ場合ニ因リテ其刑ヲ輕重スルモノトス

第二百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シテ犯罪ヲ構成スル場合ヲ規定シタルモノナリ
虚偽ノ申立トハ事實ニ全ク之無キコト又ハ事實ト相違スルコトヲ申立テ爾ヲ謂フ其ノ申立
ニ因テ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ本條ノ罪ヲ構成
スルナリ而シテ權利義務ニ關スル公正證書ト賣買、貸借、抵當、質權等ノ移轉、消滅、確
認等ノ場合ニ之ヲ證據トスヘキ爲メノ公正證書ヲ作ルヲ謂フ今之ヲ虚偽ノ申立ヲ爲シテ即
チ事實ノナキコト又ハ事實ト相違ノコトヲ申立テ公證ヲ爲サシメテ他人ヲ害スル場合ヲ云
フ

免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者トハ例ヘハ屬籍、身分、氏名ヲ詐稱シ
其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受クルヲ云フナリ

第五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其

文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り
又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ
又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作りタル者等ト同一ノ刑ニ處スルハ改正法ハ行使ノ目的ニ出

テタル文書ノ偽造罪ヲ罰スルヲ以テ之ヲ行使シタル者ハ同等ノ處分ヲ受クルハ當然ナリ且
ツ此種ノ罪ノ未遂ハ印章偽造罪ニ間別スヘカラサルヲ以テ本條ヲ規定シ特ニ明文ヲ設ケタ
ル所以ナリ

第五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權

利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シ
タル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關
スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處
ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證
明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造
又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ他人ノ印章ノ如ク信認セシ
メ左ノ事實ヲ偽リタルヲ以テ其罪ヲ構成スルモノトス

一 權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造スルコト

二 他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ變造シタルコト

第一ハ私書ヲ偽造シ又ハ變造シテ未タ行使セサルモ其行使スル目的ニ在ルトキハ本罪ヲ成立スルモノトス而シテ私文書ヲ偽造スルニハ左ノ條件アルヲ要ス

(イ)私書ノ偽造ハ權利ナクシテ真正ナル私文書ヲ作製スルヲ云フ真正ナラストハ作製者ノ名義カ眞實ナルモノニアラスシテ他人ノ名義ヲ僞ルヲ云フ故ニ其作製セラレタル文書ハ作製者カ眞實之ヲ作製シタルニアラスシテ其人カ作製シタルカ如ク見ユルヲ要ス即チ真正ナル文書アリテ之ニ模擬スルヲ要セス是レ官文書偽造ト異ナル所ナリ

(ロ)作製者ノ名義カ眞實ナラサルトキハ即チ偽造ナルヲ以テ其名義人カ假想ノ人ナルモ死亡者ナルヲ眞實之アルカ如クニ信セシムレハ足レリト然ルニ其死亡セル人ノ名義ナルトキハ其文書ノ日付カ死亡後ナルモ妨ケナシ

(ハ)法律上證據トナルヘキ文書ノ体裁アルヲ要ス故ニ法律上事實ノ證據トナスノ意思アリテ文書ヲ偽造セハ如何ナル私書モ本罪ヲ成スナリ若シ此意思ナクシテ偽造スルモノハ行使ノ意ナキ場合ト同シク後日認廷ニ於テ證據トナルコトアルモ偽造罪トナラス

權利義務ニ關スル文書トハ權利義務ノ發生、移轉、消滅等ヲ證明スルコトヲ目的トシテ作製セラレタルモノヲ云フ發生トハ初メテ權利義務カ生シタル場合ニシテ即チ實買シ貸借シタルカ如キヲ云フ移轉トハ讓渡等ノ如ク甲ノ權利カ乙ニ移ル場合ニシテ初メテ權利義務カ

發生シタルモノニアラス其他贈與、交換、委任、寄託、雇傭、請負、組合ニ關スルカ如キモノヨリ其他株券、受領證書、商品切手等ヲ云フ

事實證明ニ關スル文書トハ事實ニ關スル記入ヲ爲スモノニシテ此等ノ文書ハ或ル事實ノ存在スルト否トヲ證明スル文書ニシテ一通ノ書簡モ此中ニ在リ其他願書、届書若クハ申請書モ事實證明ニ關スル文書ト謂フヘシ

右第一ノ場合ニハ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ新タニ私書ヲ偽造スル場合ナレトモ第二ノ場合ハ既ニ他人ノ印章若クハ署名ノ存在スルモノ即チ偽造シタルモノヲ使用シテ私文書ヲ偽造スルニ在リ故ニ茲ニ他人ノ印章トハ自己以外ノ者ノ印章ヲ謂フ其印章ハ一人ヲ代表スルモノニシテ實印タルト檢印タルト將タ店印タルトヲ問ハサルナリ

第三項ハ前二項ノ外他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖書ヲ變造スルモノナリ即チ前二項以外ノ手段ヲ以テ文書若クハ圖書ヲ偽造シ若クハ其作リタル文書若クハ圖書ヲ變造シタル場合ニシテ此場合ハ印章署名等ヲ借用スルコトナキヲ以テ犯罪ノ結果重大ナラス其情狀モ亦從テ輕キヲ以テ前二項ニ比シ其刑モ亦輕シ

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ
虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金

二處ス

(註)本條ハ疾病證書作成ノ囑託ヲ受ケタル醫師カ其證書ヲ作成スルニ當リ虚偽ノ事實ヲ記入スルヲ云フ例ヘハ懲兵忌避者ノ囑託ヲ受ケテ故意ニ疾病ノ證書ヲ作成シテ之ヲ免レシメシテ記載シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

檢察書トハ死體ヲ檢案スルモノニシテ變死又ハ殺害セラレタル死體ヲ檢案シテ作ルヘキ書類ヲ云フ此書面ニモ故意ニ其事實ニ相違セル事ヲ記載シタルトキ又死亡證書ニ事實ヲ隱蔽シテ記載シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

第六十一條

前二條ニ記載シタル文書又ハ圖書ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ前二條ニ記載シタル文書又ハ圖書ヲ行使シタル者ニ付テノ罪ヲ規定シタルモノナリ

行使トハ如何ニシタルヲ行使ノ事實アリト云フヘキカ文書ヲ行使者ノ手ヨリ他ニ移ストキヲ云フトスル者ト文書カ詐欺者ノ手ニ入リタルトキハ行使ナリト云フ者ニアリ第一ノ場合

ハ發送主義トシ後ノ場合ハ到着主義トス行使ニモ未遂罪アリトスレハ之ヲ行使シテ其事實ヲ得タルトキハ行使ノ既遂ニシテ其ノ行使ノ實ヲ得ルニ至ルマテハ未遂ナリトセサルヘカラス

本條ハ偽造變造シタルモノヲ單ニ行使シタルノミヲ以テ其偽造變造シタルモノト同一ノ罪ニ處スルモノトス文書偽造罪ハ偽造シタルノミヲ以テ成立スト雖モ之ヲ行使スルトキハ法益ヲ害スルコト偽造變造シタルト異ナルコトナケレハナリ而シテ行使ノ未遂罪モ亦之ヲ罰ストシタリ其未遂罪ハ如何ナル場合ヲ云フカハ前二述ヘタル所ニ依リテ明了ナリ

第十八章

有價證券偽造ノ罪

(註)本章ハ舊法ノ官文書偽造罪及ヒ私文書偽造罪中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ分チテ之ヲ一章ト爲シ修正ヲ加ヘタルモノナリ其理由ハ本章ノ罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且主トシテ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノナルヲ以テ之ヲ他ノ文書偽造罪ト區分スル必要アリ又偽造ノミヲ以テ本罪成立ノ要件ト爲シタル所以ハ文書偽造罪ト同一ナリ

第六十二條

行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタルハ者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

(註)有價證券トハ公債證書、株券、官府ノ證券、爲替手形等ヲ云フ本條ハ此等ノ物件ヲ偽造變造シ又ハ裏書ヲ以テ流通スヘキモノニハ詐欺ノ裏書ヲ爲シタル場合ヲ罰スル規定ナリ其ノ偽造變造ノ行爲ハ前ニ述ヘタルカ如ク其眞物ニ模擬スルモノヲ偽造ト云フ唯タ其一部分ヲ變更シタルモノハ變造ナリ又其偽造變造ハ行使ノ目的ヲ以テ爲シタル者ニアラサレハ本罪ヲ構成セス

而シテ公債證書株券ノ如キハ眞物ニ模擬シテ偽造スルニ在リト雖モ其他ノ裏書ヲ以テ讓渡スルモノニ於テハ其裏書ニ虚偽ノ裏書ヲ爲シタル場合ハ本條ノ罪ヲ構成ス虚偽ノ記入トハ全ク假想ノ人ヲ記入シタル如キヲ云フ即チ爲替手形ノ引受保證等ヲ偽造變造スルトキハ爲替手形ノ偽造變造トシテ論スヘキモノナリ又虚偽ノ人ノ名義ヲ以テ手形ヲ振出シタルトキト雖モ手形ノ偽造行使罪ヲ構成スルモノトス

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタルモノ又ハ虚偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使

シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ヲ罰スル規定ナリ故ニ單ニ行使シタルノミニテ本罪ヲ構成スルモノトス其他行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル場合即チ之ヲ賣却スルニ付テ交付シ又ハ其情ヲ知ラサル者ニ情ヲ知リタル者ヲシテ交付セシムルモ本罪ヲ構成スルモノトス又輸入スルトハ外國ニ於テ偽造變造シタルモノヲ日本ニテ買入レルヲ云フ此等ハ極メテ低價ニ買受ケ内地ニ於テ相當ノ代價ニ賣買スルヲ目的トス

第十九章 印章偽造ノ罪

(註)舊法ハ官印偽造罪ニ付テハ各其偽造又ハ使用ノ行爲ヲ罰シタリ改正法モ亦印章偽造罪ニハ偽造ノ一行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲シタリ然レトモ其偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ニ之ヲ文書偽造罪中ニ規定シ本章ニ於テハ單ニ印章ノミヲ偽造シ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ規定シタリ又舊法ハ私印偽造罪ニ付テハ偽造及ヒ使用ノ二行爲ヲ以テ犯罪成立ノ要件ト爲スト雖モ改正法ハ之ヲ改メテ偽造ノミヲ以テモ成立ノ要件ト爲シ使用ノ場合ハ官印ト同シク之ヲ以テ文書ヲ偽造シタルトキハ之ヲ文書偽造罪ト爲シ單ニ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ本章ニ規定シタリ而シテ本章ニ於テ單ニ偽造ノ行爲ノミヲ以テ罪ノ成立要件ト爲シタルハ他ノ偽造罪ニ付キ改正ヲ爲シタルト同一理由ナリ

文書偽造罪ト同シク舊法ハ印章偽造罪ノ刑ノ範圍狹キニ失スルヲ以テ改メテ之ヲ擴張シタリ又改正法ハ本章ノ罪ヲ單ニ印章偽造ノ場合ニ限り從テ之ヲ使用スルモ文書偽造ト爲ラサ

ル場合ノミヲ規定スルヲ以テ其罪狀舊法ニ比シ稍輕キ所アルカ故ニ一般ニ刑ノ程度ヲ低クシタルモノナリ

抑モ印トハ印類即チ石又ハ木ニ文字ヲ彫刻シタル一個ノ形チアルモノニシテ印章ト云フモノ是ナリ此ノ印ヲ押捺シタルトキハ印影トナル之ヲ偽造スルトハ印ノ影蹟ヲ造ルヲ云フ印ヲ濫用スルトハ偽造スルニ非スシテ影蹟ヲ濫用スルナリ而シテ此ノ場合ニハ官印ト私印トニ付テ區別アリ

(イ)官印ヲ偽造スルハ眞實ニ官署ノ印アルヲ要ス而シテ其影蹟カ眞印ニ類似スルヲ要ス即チ眞物ト誤信スルニ足ルモノヲ造ルヲ要ス

(ロ)私印ニ在リテハ眞物ニ類似スルヲ要セス唯タ其人ノ印章ノ如ク信用セシムルニ至ルコトヲ要ス故ニ假リノ氏名ナルモ他人ヲシテ之ヲ現實ニ在ル人トシテ信セシムルコトヲ得レハ偽造罪ヲ構成スヘシ然レトモ其標準ニ模擬スルヲ要ス語ヲ換テ言ヘハ何物ニテモ可ナリト謂フニ非ス唯タ眞印ノ存在ヲ要セス從テ之ニ類似スルヲモ要セスト云フニ在ルノミナリ

又使用ト盜用ト其ノ異ナル所ヲ述フレハ左ノ如シ

(一)使用トハ印章ヲ書類其他相當ノ物品ニ押用スルヲ云フ故ニ印章ノ使用ハ之ヲ押捺スルヲ以テ足ル其書類等ヲ使用セサルモ印章使用ノ目的ハ既ニ達シタルモノナリ而シテ其ノ印ヲ使用スルニハ偽造ト獨立シテ一罪ヲ成スモノトス使用ハ偽造者ノミナラス他

ノ者モ使用スル場合アリ

(二)盜用トハ他人ノ印影ヲ權利ナクシテ押用スルヲ云フ即チ不正ニ使用スルヲ云フ而シテ官印私印共ニ同一ナリ盜用ハ偽造變造ニハ關係ナシ他人ノ所有スル印ヲ竊カニ其ノ承諾ヲ得スシテ押用スルニ在リ故ニ盜用ト謂ヒ不正ニ使用スルト謂フナリ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

(註)本條第一項ハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル場合ノ規定ナリ本條ノ場合モ固ヨリ單ニ偽造ノミヲ以テ其罪ヲ成スモノトス然レトモ其偽造ハ行使ノ目的ヲ以テ偽造シタルコトヲ要ス

印章ノ偽造ハ官印ノ場合ハ實在スル眞印ニ模擬スルヲ要ス若シ現實ニ在ル印章ヲ標準トセサレハ偽造罪ヲ構成セス是レ私印ト異ナル點ナリ

第二項ハ二個ニ區別シ一ハ現在セル御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ即チ盜用スル場合ナリ一ハ他人ノ偽造シタル御璽、國璽ナルコトヲ知リナカラ之ヲ使用シタル者ヲ云フ偽造者ト使用者ト其人ヲ異ニスルトキハ一人ハ偽造罪ヲ犯シ一人ハ使用罪ヲ犯スコト、ナル然レトモ

同一人ナルトキハ使用ハ偽造ニ含まレテ二罪各立セス

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

(註)本條ハ舊法第九十五條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ前條ト同シク文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ之ヲ削除シ第二項前段ハ舊法第九十七條中官印盗用ノ規定ト全ク同一ノ趣旨ナリ後段ハ偽造官印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザリシ場合ノ規定ニシテ前條第二項末段ノ規定ニ倣ヒ偽造ト同シク之ヲ罰スルモノナリ

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

(註)公務所ノ記號トハ物品ニ押用スル官ノ記號印章ニシテ例ヘハ内務省圖書局之印トシテ書籍ニ押用スル印章ノ如シ又產物ニ押用シテ日本又ハ政府ノ管掌スル物産ナルコトヲ證明

スルニ用ユルモノトス本條ハ此等ノ記號ヲ偽造シ一私人ノ物品ニ押捺セントノ目的ヲ以テ偽造シタル者ト偽造セスシテ現在公務所ニ在ル所ノモノヲ盗用シタル場合ト他人ノ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル場合ノ罪責ヲ規定シタルモノナリ

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

(註)本條ハ私印ヲ偽造シタル者ト他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又他人ノ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル規定ナリ

前ニ述ヘタルカ如ク私印ハ眞印ニ模擬スルヲ要セス唯タ其人アルカ如ク他人ノ印章ヲ偽造シテ信用セシムルヲ以テ足レリトス亦眞印ニ類似スルモ要セス然ルニ他人ノ印影ノ如クニ信セシムルニ至ルコトヲ要ス且ツ其人アルカ如クナルヲ要ス故ニ太閤秀吉トカ平清盛トカ人ノ信セサルモノナルトキハ本罪ヲ構成セス

他人ノ署名ヲ偽造シタルトキハ假想ノ人タリトモ眞實之アル人ナリト信スルニ足ルヲ要ス必スシモ其人アルヲ要セサルハ印章偽造罪ト同一ナリ之ニ反シ其實現在スル印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ即チ盗用シタルトキハ眞實ナルヲ要ス而シテ之ヲ不正ニ使用スルニ若シ

代理人カ本人ノ名義ヲ使用シ又使用人カ主人ノ名ヲ用ヒタルカ如キハ不正ニ使用シタルモノニアラスシテ正當ノ行爲ナリ

又自カヲ偽造シタルニアラスシテ他人カ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用スルコトハ本條第二項ノ場合ナリ此場合ハ偽造者ト使用者ト獨立シテ一罪ヲ爲スモノナリ

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ本章ノ未遂罪ヲ罰スル場合ヲ規定シタルモノナリ本章中第六十四條第二項第六十五條第二項第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ニ限リテ之ヲ罰スルモノトス

第二十章 偽證ノ罪

(註)舊法ハ刑事ニ關スル證人ト民事商事又ハ行政裁判ニ關スル證人トヲ區別スト雖モ畢竟偽證タル刑事ノ證人ニ對シ科スヘキ刑ニ付キ詳細ナル區別ヲ爲シタル結果ニ過キス改正法ハ刑事ニ關スル證人ノ偽證ニ科スヘキ刑ヲ變更シタルヲ以テ刑事ト他ノ民事、商事又ハ行政裁判事件トヲ區別スルノ必要ナキニ至リタリ是ヲ以テ何レノ裁判所ニ於テスルヲ問ハス證人トシテ偽證シタル場合ニ關シテ設ケタルナリ

舊法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ分チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタルモノト之ヲ陷害スル目的

ニ出テタルモノトニ區別シ其刑ヲ異ニシ又偽證ニ因リ被告人正當ノ刑ヲ免レタル場合ハ曲庇ノ刑ニ一等ヲ加重シ或ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル場合ニ在テハ反坐ノ刑ヲ科スルコト、シ罪ノ情狀ニ因リ細密ナル規定ヲ設クト雖モ爲メニ却テ適用上ノ不便ヲ來タス等ノコトアルヲ以テ改正法ハ此弊ヲ避ケン爲メ總テ此等ノ情狀ハ之ヲ裁判ノ認定ニ一任シ適宜ノ刑ヲ科スルモノトシテ煩雜ナル規定ヲ除キタリ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)法律ノ定ムル所ニ依リ證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者カ其ノ證言ヲ爲スニ當リ眞實ノ事ヲ申立ツル旨ヲ誓ヒテ而シテ後チ裁判官ノ訊問ニ對シ申立ツルヲ云フ故ニ法律ニ依リ宣誓ヲ爲サ、ル事實參考人ノ如キハ本條ノ規定スル所ニアラス

證人カ陳述ヲ爲スニハ獨リ刑事ノ裁判ノミナラス民事、商事又ハ行政裁判事件ニ於テ陳述ヲ爲スヲモ本條ノ規定ニ從フモノトス

舊法ハ單ニ刑事ノ證人トシテ出頭シタル場合ニ限リテ其偽證ノ罪ヲ分テ二ト爲シ曰ク被告人ヲ曲庇スル罪曰ク陷害即チ罪ニ陷ル、トノ二個ト爲シタリ偽證ヲ爲ス者ハ此二途ニ出テストシテ此ノ二個ノ陳述ハ共ニ虛偽ナレトモ被告ヲ曲庇スル爲メニ爲シタル者ハ法律其罪ヲ輕クシタリ是レ法律ハ罪ヲ重クスルヲ主トセサレハナリ

虚偽ノ陳述トハ全ク事實ニ反スルコト又ハ事實ノナキコトヲ證言スルモノトス故ニ法廷ニ於テ何等ノ陳述ヲ爲サ、ルモ本罪ヲ爲サス又知ラス存セスノ一點張ノモノハ陳述ナキモノトス本罪ヲ爲スニハ證人カ事實相違ナルコトヲ知リテ事實相違スル陳述ヲ爲スニアラサレハ本罪ヲ成サス

本罪ハ其ノ陳述カ官ヲ欺タルノミナラス裁判官ヲシテ心證ヲノ誤ラシムルノ害アルヲ以テナリ裁判官カ證人ノ陳述ヲ信シテ心證ヲ誤リタル結果被告人ヲ重罪ニ處シ爲メニ死刑ニ處スルコトナキニシモアラサレハナリ

第七十條

前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

(註)證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ハ既ニ罪ヲ犯シタリト雖モ證言シタル事件ノ裁判カ確定前又ハ懲戒處分前ニ自白シテ陳述カ虚偽ナルコトヲ申立ツルトキハ或ハ其刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得ルモノトス

裁判確定トハ控訴又ハ上告ノ期限モ經過スルカ或ハ被告人カ控訴上告ヲモ爲シテ有罪ノ確定判決ニ歸シタル時ヲ云フ懲戒處分ノ場合モ亦然リ大審院ヘ控訴スル期限カ經過スルカ又大審院ニテ有罪ノ判決確定シタル時ヲ云フナリ懲戒處分ハ初メ控訴院ニ於テ第一審裁判ヲ爲スモノナレハ控訴ハ大審院ニ爲スモノトス

第七十一條

法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第七十二條

法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ其結果證言ノ偽證ト同一ノ處罰ヲ受ク

(註)本條ハ鑑定人又ハ通事カ偽證ヲ爲シタル場合ヲ規定スルナリ
偽證ハ獨リ證人ノミナラス鑑定人又ハ通事トナリタル者モ其ノ虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ其結果證言ノ偽證ト同一ノ處罰ヲ受ク
鑑定人トハ或業務ニ専門ノ者ニ命シテ事實ノ鑑定ヲ爲サシムルモノナリ例ヘハ死體ノ鑑定ハ醫師ニ之ヲ爲サシメ書畫ノ鑑定ハ書家又ハ骨董家カ之ヲ爲スカ如シ
通譯トハ言語ヲ通セサル者アルトキハ其言語ヲ學ヒタル者ニ之ヲ聽取ラシメ若シ外國語ナルトキハ之ヲ日本普通語ニ直スコトヲ云フ此等ノ者ニシテ虚偽ノ鑑定ヲ述ヘ事實ニ相違スル通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ處罰スルモノトス

第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

(註)本罪ヲ成スニハ左ノ要素ナカルヘカラス

- 一 犯罪アリト官ニ申告スルコト

- 二 不實ノ事タルコト
- 三 惡意アルコト

誣告トハ犯罪ノ事實ニ關シテ不實ノ事ヲ官ニ申告スルコトヲ謂フナリ而シテ申告トハ自カ
 ラ發意シタル報告ノ意ニシテ從テ證人、參考人又ハ被告人トシテ官署ノ訊問ヲ受クルニ際
 シ他人ニ關スル不實ノ陳述ヲ爲スモ誣告ト云フコトヲ得ス然レトモ司法警察官又ハ檢事ノ
 取調ヲ受クルニ當リ其取調ヲ受クル事項ト全ク關係ナキ事項ニ付テ不實ノ陳述ヲ爲ストキ
 ハ誣告シタルコトヲ得ヘシ而シテ申告スルニハ告訴發令ノ形式ニ依ルコトヲ要セス匿名ノ
 投書又ハ密告ニ依ルモ誣告タルコトヲ得ルナリ

官ニ申告スルコトヲ要ス官トハ犯罪捜査ノ職責アル官吏ナリ例ヘハ檢事司法警察官ノ如キ
 是ナリ而シテ此等ノ官吏ニ申告スルニハ直接タルト間接タルトヲ問ハサルカ故ニ例ヘハ巡
 査憲兵卒ノ如キ犯罪捜査ノ職責ナキ官吏ニ申告スルモ是等ノ官吏ヲ以テ檢事又ハ司法警察
 官ニ申告ノ事項ヲ通シタルトキハ誣告ト云フコトヲ得ヘシ

申告ノ事實ハ犯罪タルコトヲ要ス而シテ其申告事項カ特定ノ事項例ヘハ竊盜トカ殺人罪ト
 カ其ノ事項ヲ明カニ申告スルヲ要ス故ニ何等ノ事項ヲ定メス唯タ犯罪アルカ如ク申告スル
 モ誣告ト謂フコトヲ得ス

又申告ノ事項ニ於テ犯罪ノ構成要件訴訟事件ヲ欠缺セルコト又ハ公訴權消滅ノ原因タル事
 實ヲ明示セル場合ニ於テハ其申告ハ法律上刑事ノ裁判手續ヲ起スノ原因ト爲ラサルカ故ニ

本罪ヲ構成セス例ヘハ誣告ヲ受クル者ニシテ責任無能力者タルコト或ハ正當防衛權ノ行使
 トシテ他人ヲ殺傷シタルコトヲ申告スルカ如キ其他申告罪ニ付キ被害者又ハ告訴權ヲ有ス
 ル者ノ名義ヲ以テ告訴ヲ爲サ、リシカ如キ場合はナリ

不實ノ事實タルコトヲ要ス故ニ犯人ニ於テ其ノ申告ノ事項カ明カニ事實ニ違反セルコトヲ
 知リタルコトヲ要ス若シ未タ明カニ事實ニ反スルコトヲ知ラサルトキノ申告ハ本罪ヲ構成
 セス又假令ヒ誣告ノ意思ヲ以テ官ニ申告スルモ審理ノ結果其事實ノアリタルトキモ亦本罪
 ヲ構成セス

申告スルニハ被告人ト爲リ審問ヲ受クルノ際自カラ其罪ヲ免カレンカ爲メニ他人ヲ陷害ス
 ルコトヲ告クルヲモ誣告ト爲ル又人ハ其氏名ヲ指スヲ要セサルナリ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又
 ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

(註)被誣告者カ其申告ニ依リ犯罪者トナリ事件ノ裁判アリテ其裁判確定スル前又ハ懲戒處
 分ヲ受クル者カ其處分ヲ受クル前ニ申告者自カラ不實ノ事タリシコトヲ自白シタルトキハ
 被誣告者ニ於テ刑ニ處セラレサル場合ナルヲ以テ其刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得ルモ
 ノトス

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

(註)本章ノ罪ハ風俗懷亂ヲ防クニ在リ故ニ本章ノ罪トスル所爲ハ左ノ條件アルヲ要ス

- 一 公然ナルコト 故ニ公然ナラサル所爲ハ本條ノ問フ所ニアラス而シテ公然トハ人目ニ觸ル、場合ヲ謂フ即チ衆人中之ヲ行フヲ憚カラサルモノヲ云フ其畫間ト夜間トヲ問ハサルナリ茲ニ公然ノ意義ニ付テ解釋セハ往來ノ途上通行ノ人能ク目撃スル所又ハ公場即チ衆人ノ自由ニ到ルヲ得ヘキ場所又ハ途上ヨリ見ユル家屋ノ窓戸ヲ開キタルカ如キ場所ニ於テ之ヲ爲スハ公然ノ所爲ナリ
- 二 猥褻ノ行爲アルコト 猥褻トハ色情ニ關スルコトニシテ即チ色情ヲ發シ又ハ發シタル色情ヲ満足セシムル爲メ若クハ發シタル色情ヲ外部ニ表ハス目的ニテ淫事ニ屬スル行爲ヲ爲シタルヲ云フ故ニ一人ニテ陰部ヲ顯ハシ醜體ノ行爲ヲモ包含ス然ラハ即チ相手方アルヲ要セス又相手方ニ對スルヲ要セス夫婦間ノ適法ノ所爲モ公然ナルトキハ本罪ヲ構成スヘキモノナリ而シテ色情ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ若シ此要件ヲ欠クトキハ假令他人ニ對シ羞耻ノ感情ヲ發スヘキ行爲ナリト雖モ猥褻ノ行爲ト謂フコトヲ得ス

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的

ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

(註)本條ハ舊法第二百五十九條ト其趣旨ヲ同フス其修正シタル點ハ新ニ頒布ナル語ヲ加ヘ公然販賣スル外廣ク公衆ニ分ツコトヲ禁シタリ又舊法ハ「販賣シタル者云々」トアリテ猥褻ノ圖畫、物品ヲ販賣セザレハ之ヲ罰セスト雖モ將サニ販賣セントシタルトキモ亦之ヲ罰スル必要アリトシテ改正法ハ改メテ「販賣シ」又ハ「販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者」ト爲シタリ

本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件アルヲ要ス

- 一 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物品ヲ販賣スルコト
- 二 公然陳列シ若クハ販賣スルコト
- 三 販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者

第一猥褻ナル文書トハ色情ヲ喚發スヘキ淫事ヲ甚シク醜體ニ書キタル書冊雜誌等ヲ謂フ圖畫トハ春畫其他陰部ヲ描キタル繪葉書等ヲ謂フ其他ノ物品トハ色慾ヲ發シ又ハ誘發スル所ノ物品ニシテ必スシモ其物品カ淫事ノ性質ヲ有スルト又ハ之ニ伴フ他ノ狀況ニ依テ此作用ヲ有スルト否トハ問ハス然レトモ純粹ナル美術又ハ學術ノ範圍内ニ於テ作ラレタル物品ハ本條ニ所謂ル猥褻ノ物品トスルモノニアラス

第二ハ陳列ト云フモ必スシモ數個ノ物品ヲ列ヘ立ツルト謂フノ義ニアラス人ノ見ルヘキ場所ニ置クト謂フ意ニシテ其數ノ多少ヲ問ハス而シテ其文書圖畫モ亦自體ノ醜體ナル部分ヲ

露出サル、コトヲ要ス從テ單ニ其文書圖畫ノ表題例ヘハ男女交合新書トカ春情書トカノミ
カ人目ニ觸ル、場所ニ陳列スルモ本罪ヲ構成セス頒布トハ代金ヲ得ス廣ク衆人ニ與フルヲ
謂フナリ

第三販賣セサルモ販賣スル目的ヲ以テ所持シタル者モ亦本罪ヲ構成ス故ニ販賣スル意ナク
シテ所持スル者ハ本條ノ問フ所ニアラス

第七百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行

爲テ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル
男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

(註)本條ハ猥褻ノ行爲ヲ爲ス相手方カ十三歳以上ノ男女ニ對スル場合ト十三歳ニ滿タサル
男女ニ對シテ爲シタル場合トヲ規定シタルモノナリ

一 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲スコト

二 十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲スコト

第一 十三歳以上ノ男女ニ對シテハ暴行脅迫ノ手段ニ依テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルトキニ限
リ處罰スルコト、爲シタリ十三歳以上ノ者ニ對スル場合ハ本人カ承諾スルトキハ罪トナ
ラス即チ任意ニシテ眞實ナル合意ニ依リ互ニ猥褻ノ行爲ヲ爲スコトハ公然ノ場合ノ外ハ
害ナキカ故ニ法律ハ之ヲ罰セサルコト、シ唯々相手方ノ承諾ナキ場合ニ暴行脅迫ノ手段

ニ依リテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ限り被害者ヲ保護スル爲メ之ヲ罰スルモノトス

第二 十三歳ニ滿タサル男女ニ對シテハ暴行脅迫ヲ用ヒシテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタリトテ
本罪ヲ構成スルモノトス此場合ニ於テハ相手方ニ於テ猥褻ノ行爲ヲ受クヘキコトヲ承諾
シタル場合ト雖モ幼者ハ色情未タ發セサル者ナレハ猥褻ノ行爲ノ何タルコトヲ知ラサル
カ故ニ其者ノ承諾ハ眞實ノ承諾ト謂フヘカラス從テ此幼者ニ對スル場合ハ承諾アルモ之
ヲ罪トシ況ンヤ承諾ナキニ於テオヤ是レ法律カ被害者ノ貞操ヲ保護スル上ニ於テ此ノ規
定ノ必要アリトシタルモノナリ

若シ十三歳ニ滿タサル幼者ニ對シ其承諾ノ有無ニ拘ハララス交接シタルトキハ次條ノ規定ニ
從ヒ處罰スルモノトス

第七百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者

ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女
ヲ姦淫シタル者亦同シ

(註)本條ハ十三歳以上ノ婦女ニ對シ強姦シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

強姦トハ暴行脅迫ノ手段ヲ以テ婦女ノ抵抗力ニ打勝チ因テ姦淫ヲ遂ケタルモノヲ云フ亦其
暴行脅迫ハ被姦淫者ノ自體ニ對スルコトヲ要ス而シテ本條ノ行爲ハ交接ヲ以テ要素トスル
カ故ニ若シ交接シタルノ證據ナキトキハ未遂犯タリ或ハ猥褻ノ行爲ニ止マルモノニシテ決

シテ強姦既遂ニ非サルナリ換言スレハ男女ノ生殖器カ互ニ交接スルトキヲ以テ既遂トナリ
精液ノ流出ヲ必要トセス

暴行脅迫カ婦女ニシテ暴行ナリトシ又ハ脅迫ニ依リ意思ノ自由ヲ失ヒタルトキニ非サレハ
之カ爲メニ姦淫セラレタリト云フコトヲ得ス故ニ婦女ニ於テ暴行脅迫ニ打勝チテ其ノ暴行
脅迫ノ實ナカリシトキハ強姦ト爲スコトヲ得ス而シテ暴行者ト姦淫者トハ必ス同一人ナル
ヲ要セス一人ノ暴行脅迫ヲ借リテ姦淫シタル者ハ強姦罪トナシ他人ハ共犯ト爲スモノナリ
強姦トスヘキハ婦女ノ承諾ナキヲ要スルノミナラス婦女ノ意ニ反シテ強テ之ヲ姦シタル場
合ヲ謂フ

十三歳ニ滿タサル者ハ假令ヒ承諾シタルモ其智覺精神ノ甚タ不充分ナルモノナレハ其姦淫
ノ汚辱ヲ被ムルコトヲ知ラサレハ法律ハ其貞操ヲ保護スル爲メニ規定シタルモノナリ

第七十八條

人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神

ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫
シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

(註)本條ハ婦女カ承諾ノ能力ヲ欠キ又ハ抵抗力ヲ失ヒタル場合ニ姦淫シタル者ヲ強姦罪ト
スル規定ナリ

本條ヲ構成スルニハ左ノ行爲アルヲ要ス

第一 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シテ猥褻姦淫ヲ爲スコト

第二 人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメ猥褻ノ行爲又ハ姦淫ヲ爲スコ
ト

第一 心神喪失者トハ心神カ普通辨別力ヲ失ヒタル者ニシテ例ヘハ痴愚又ハ狂者ノ如キ生
シナカラ又ハ病氣ニ依リテ心神喪失者ト爲リタル者ヲ云フ抗拒不能ニ乘シトハ昏醉シテ
前後不覺若クハ睡眠中ニシテ抗拒スルコト能ハサルヲ機會トシテ猥褻又ハ姦淫ヲ爲スコ
ト

第二 前ノ場合ハ心神喪失又ハ抗拒不能カ犯人ノ手段ニ依ラス既ニ此狀況ニ在ルモノ又ハ
此狀況以外ニ於テ抵抗カ失ヒ又ハ姦淫ニ付テ承諾ヲ與フル能力ヲ欠キタル者ニ對シテ
姦淫ヲ爲シタル場合ナレトモ本條ハ藥酒其他ノ方法ヲ用ヒテ心神ヲ喪失セシメ抗拒スル
コト能ハサル者トナラシメシテ猥褻又ハ姦淫ヲ爲ス場合ヲ云フ即チ此場合ニ於テハ假令
犯人ニ於テ暴行脅迫ヲ用ヒサルモ右行爲ハ暴行脅迫ニ依リ抵抗スル能ハス又ハ意思ノ自
由ヲ失ヒタル場合ニ其婦女ヲ姦シタルハ前條ノ強姦罪ト同一ニ視テ之ヲ罰スルモノトス

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルモノトス前三條中強姦ノ未遂ハ未タ交接セサル時ヲ以テ
未遂トスルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ猥褻ノ場合ハ如何ナル場合ヲ未遂トスルヤハ之ヲ區
別スルニ難シ然レトモ未遂ハ既ニ着手實行以上ノ場合ニ至ルヲ謂フモノナレハ婦女ニ於テ